

第六條 第一條ノ規程中校舍ノ新築、改築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得但シ知事ニ於テ猶豫シ難シト認ムルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 本令ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シテハ之ヲ適用セス

○學校施設ニ關スル注意 (明治四十二年九月四日 文部省訓令第十二號)

道廳長官 府縣知事

學校教育ノ要ハ其ノ内容ニ在リテ外觀ニ存セス故ニ校舍ハ質朴堅牢ヲ旨トシ必スシモ體裁ノ完美ナルコトヲ要セス特ニ戊申 詔書ノ煥發セラレシ以來教育ノ局ニ當ル者ハ善ク 聖旨ヲ奉戴シテ力ヲ之カ實行ニ盡シツツアルハ本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ義務教育年限ノ延長ト學齡兒童數ノ増加トニ伴ヒ各地ニ於テ校舍ノ建築ヲ要スルコト多キ今日ニ方リテハ特ニ意ヲ用ヒ學校ノ施設ヲシテ土地ノ情況ト民力ノ程度トニ適應セシメンコトヲ要ス願フニ曾テ學校設備準則ノ規定セラレシ以來往々一律ノ校舎ヲ造ルノ弊ヲ生シ其ノ後該規程ハ改正セラレタルモ其ノ餘風ハ延イテ今日ニ及ヒ校舎建築ノ際或ハ土地ノ情況ト資力ノ如何トヲ顧ミス一様ノ設計ニ依リテ之ヲ經營セントスルモノ之ナキニ非サルカ如シ斯ノ如キハ華ヲ去リ實ニ就ク所以ノ道ニアラサルカ故ニ宜シク土地ノ情況ヲ參酌シテ常ニ實用ヲ主トシ努メテ地方ノ民力ニ伴ハシメンコトヲ期セラルヘシ

特ニ實業學校ニ在リテハ一層實用ヲ旨トシ實地練習ニ要スル工場養蠶室其ノ他各種ノ設備ノ如キモ之ヲ施設スルニ當リテ豫メ善ク當該地方ニ於ケル實業ノ狀態ヲ斟酌シテ實際ニ適切ナラシメ生徒卒業ノ後ニ於テ之ヲ實施スルコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ成ルヘク其ノ施設ヲ簡易ニシ應用ヲ適實ニシ徒ニ理想上ノ完全ヲ求メテ却テ實用ニ迂遠ナルカ如キ弊害ニ陥ルコト勿ラシムル様一層注意セラルヘシ實業補習學校等ニ至リテハ出來得ル限リ新ニ經費ヲ要スル施設ヲ避ケ專ラ現存セル各學校ノ設備ヲ利用

スル等最モ簡易ナル方法ニ依リテ教育ノ普及ヲ圖ラシムル様指導監督其ノ宜シキヲ得ンコトヲ努メラルヘシ

○小學校々舎新築増築及改築ノ認可稟申手續キ中經費

二關スル調方ノ件 (明治三十八年十二月二十三日 靜岡縣通牒二第七一三二號)

小學校々舎新築増築及改築ノ認可稟申手續上經費ニ關スル件ハ近來調査上精密ナル記載ノ必要ヲ生シ候處明治三十七年本縣令第二十號小學校設備規則第四條第五號ニ規定セル記載方ハ簡畧ニシテ調査上差支不尠候ニ付追テ該則改正ノ機可有之候ヘ共當分別記事項ニ依リ記載セシメラレ候様致度依命此段及通牒候也

- 一 當該年度歲入出豫算 (學校組合ニシテ其ノ費用ヲ組合内町村ニ負擔セシムル時ハ組合及組合内各町村分)
- 二 申請ニ係ル建築、副築、修繕費ノ收支豫算 (前項當該年度豫算ニ編入アル時ハ之ヲ要セス)
- 三 町村組合又ハ町村學校組合ニ於テ施工スルモノニシテ其費用ヲ組合内町村ニ負擔セシムル者ハ關係町村ニ於ケル組合費負擔金額及其財源調 (別紙第一號式)
  - 但第一項ノ當該年度豫算ニ編入アル時ハ之ヲ要セス
- 四 市町村、町村組合又ハ町村學校組合ニ於テ建築副築修繕費又ハ其負擔金ヲ負債ニ依リ支辨セントスル時ハ其ノ金額、債權者、利率、償還豫定、同財源調 (別紙第二號式)

組合費負擔金額及財源調



小學校トナリテ他ノ學校ト識別シ難キニ由ル

二 小學校ニ類スル各種學校實業補習學校幼稚園等ノ名稱ハ單ニ市(町)(村)(町村組合)(町村學校組合)立何々實業補習學校(女子技藝學校)(幼稚園)等トスルコト

例ヘハ千濱村立千濱尋常高等小學校附設千濱裁縫專修女學校トアルヲ村立千濱裁縫專修女學校トナスカ如シ

但從來ノ名稱ニシテ實業補習學校(女子技藝學校)(幼稚園)等ノ上ニ(何々)ノ名稱ヲ冠セサルモノニアリテハ仍從前ノ例ニ依ル例ヘハ濱松町立幼稚園トアルカ如キハ幼稚園ノ上ニ(何々)ノ名稱ナク從テ單ニ町立幼稚園トスルトキハ他ト識別シ難キニ至ルヲ以テ仍從前ノ例ニ依リ濱松町立幼稚園トナスカ如シ

逐テ上記各號但書ニ該當スルモノニシテ取扱上ノ便宜ヲ計ランカ爲メニ改稱セントスルモノニ在リテハ此ノ際至急相當ノ手續セシメラル、様致度申添候也

○尋常小學校特別教授施設ニ關スル規程 (明治四十五年三月十五日 靜岡縣訓令甲第十一號)

第一條 郡市長ニ於テ尋常小學校第四學年ヲ修了シタル學齡兒童ニシテ正則ノ教授ヲ受ケ難シト認ムル者ニ限リ特別教授ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 特別教授ノ修業期間ハ二箇年以上トス但シ年齡滿十二年以上ノ者ニ就テハ一箇年迄ニ短縮スルコトヲ得

第三條 特別教授ハ放課後又ハ夜間其ノ他便宜ノ時間ニ之ヲ施行シ其ノ每週教授時數ハ十二時以上トス

第四條 特別教授ノ場所ハ之ヲ學校外ニ設クルコトヲ得

第五條 特別教授ニ就テハ別ニ教授細目ヲ編製スルヲ要ス

特別教授ハ各教科目トモ兒童ニ教科書ヲ使用セシメサルコトヲ得

第六條 郡市長ニ於テ特別教授ヲ施行セシムルモノニ就テハ豫メ其ノ事由並左ノ事項ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

- 一 兒童數並學級編制
- 二 教授期間、各教科目每週教授時數並毎日教授終始時刻
- 三 教授ノ場所
- 四 擔任ノ職員

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日以降施設スルモノニ對シ之ヲ施行ス

明治三十五年靜岡縣訓令第三十號ハ明治四十五年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

○市町村其他公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依リ校舍ノ新築等ヲ爲サントスル場合ノ取扱方 (明治四十三年十月十八日 內務省地第五九一七號)

市町村其他公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依リ校舍ノ新築増築又ハ改築ヲ爲サントスル場合ニ小學校令施行規則第七十六條ニ依リ校舍ノ新築増築又ハ改築ニ關シ貴官ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ工費額ノ多寡ニ拘ラス起債ノ許可稟請書中ニ認可ノ年月日ヲ明記セシメラレ度尤モ此場合ニハ三十七年九月地甲第一六九號ヲ以テ本省次官ヨリ及通牒置キタル金額一萬圓以上ニ係ル起債許可稟請ノ際特ニ添付スヘキ工事設計書ハ自今添付セシムルニ及ハス候依命此段及通牒候也

追テ從來本文校舍建築ニ係ル起債許可稟請ニ關シテハ往々ニシテ設計杜撰、計算ノ不明等ノモノ有

之カ爲メ調査上頗ル繁雜ナル手數ヲ要スルコト尠カラス然ルニ自今特ニ本文ノ如ク專ラ當官ノ御審  
查ニ待タントスル趣旨ニ有之候ニ付右ノ場合ニ於テハ當該團體財政ニ及ホス影響ヲ精査セラレヘキ  
ハ勿論其建築ニ付テハ四十二年<sup>九</sup>文部省訓令第十一號ヲ以テ文部大臣ヨリ訓令セラレタル趣旨ニ基  
キ設計上深ク注意セシメラレ度尙ホ其添付ノ豫算表中歳出ノ部當該費目附記欄ノ記載方ニ付テハ校  
舎ノ構造坪數等設計ノ大要内譯及計算ノ基礎判明ナラシムル様記載方特ニ注意セシメラレ度尙ホ校  
載方簡略ニ失シ爲メニ照復ヲ要スルニ至ルカ如キコト無之様致度此段申添候也

○地方公共團體借替ノ場合ニ於テ舊債ノ目的カ教育ニ關スル事項ナルトキ借替ニ付認可ノ件 (明治四十三年十月十九日) (内務大臣、往第一二二五六號)

從來地方公共團體公債借替ノ場合ニ於テ舊債ノ目的カ教育ニ關スル事項ナルトキハ借替ニ就テモ内務  
大藏文部三大臣ノ認可ヲ要シ來リ候處今般事務簡捷ヲ圖ルノ趣旨ニ基キ借替ニ就テハ内務大藏兩大臣  
限リ認可ノコトニ決定相成候條其旨御示達相成度依命此段及通牒候也

第三章 教科及編制

○小學校ノ教科及編制ニ關スル細則 (明治三十四年一月廿九日) (評閱縣令第五號)

第一章 小學校ノ教科及編制ニ關スル細則  
第一條 小學校ノ學期ヲ別ツコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル

第二學期 八月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル (明治四十一年二月縣令) (第十九號ヲ以テ改正)

第三學期 翌年一月一日ヨリ全年三月三十一日ニ至ル (上同)

前項ノ外小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於ケル學期ヲ別ツコト左ノ如シ

第一學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第二學期 翌年一月一日ヨリ四月三十日ニ至ル (明治四十二年縣令第) (三十七號ヲ以テ追加)

第三學期 五月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル (明治四十二年縣令第) (三十七號ヲ以テ追加)

第二條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ左ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ定ムヘシ  
一 四月一日ヨリ四月三十日ニ至ル 午前八時 午後四時 (明治四十四年縣令第) (四十九號ヲ以テ改正)

二 五月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル 午前七時 午後二時

三 九月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル 午前八時 午後三時

四 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル 午前九時 午後四時

小學校令施行規則第三十四條ノ規定ニヨリ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ其毎日教授終始ノ時刻ハ學  
校長ニ於テ之ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ (明治四十一年二月縣令第) (十九號ヲ以テ本條中改正)

第三條 毎時ノ教授時間ハ尋常小學校ニ在リテハ四十分乃至四十五分高等小學校ニ在リテハ四十五分  
乃至五十分トス但シ一時間ニ二教科目ヲ配當スルトキハ一教科目ノ教授時間ハ二十分乃至二十五分  
トス

每教授時間ノ終リニ尋常小學校ニ在リテハ十五分乃至二十分高等小學校ニ在リテハ十分乃至十五分  
ノ休憩時間ヲ置クヘシ但シ晝飯時ノ休憩時間ハ一時間トスヘシ  
小學校令施行規則第二十條ニ依リ夏季冬季休業日ノ前後ニ於テ毎日ノ教授ノ時數ヲ減スルトキハ前

二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得（明治四十五年縣令第四號ヲ以テ追加）

第四條 小學校施行規則第二十七條第一項第三號乃至第六號ノ休業日數ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ル場合ノ學年末休業ハ七月二十六日ヨリ同月三十一日迄トス（明治四十二年縣令第三十七號ヲ以テ追加）

一 夏季休業八月一日ヨリ三十一日ニ至ル

二 冬季休業十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

三 學年末休業三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

四 學校所在町村内ノ官、國幣社縣社ノ祭日各一日及特ニ由緒アル郷社村社ノ祭日中一日（明治四十三年縣令第七十三號ヲ以テ改正）

土地ノ情况ニ依リ前項規定ニ依リ難キトキ又ハ前項規定ノ外ニ定期休業スルノ必要アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ日數ヲ定メ事由ヲ具シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ（明治四十一年二月縣令第十九號ヲ以テ本條改正）

但シ本項ニ依ル休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得（明治四十五年縣令第四號ヲ以テ改正）

第五條 土地ノ情况ニ依リ必要アルトキハ十日以内ニ於テ夏季休業ノ日數ヲ減シ前條第二號ノ外冬季ニ於テ休業ヲナシ又ハ前條第二項ノ休業日トナスコトヲ得此場合ニ於テハ管理者又ハ設立者ニ於テ其ノ日限ヲ定メ事由ヲ具シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ（同上）

第六條 特別ノ必要アリテ臨時ニ休業セムトスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ其ノ日限ヲ定メ事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ四日以上ニ及フ休業ハ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ休業ニシテ經伺ノ暇ナキ緊急ノ場合ニ於テハ管理者又ハ設立者ニ於テ之レヲ專行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ日限並事由ヲ具シ監督官廳ニ届出ツヘシ（明治四十一年二月縣令第十九號ヲ以テ本項追加）

本令ノ次ニ  
裁録セル通  
照參考

第七條 運動會又ハ儀式執行等ノ爲メ授業ヲ休止セントスルトキハ學校長ニ於テ監督官廳ニ届出ツヘシ（明治四十一年縣令第八十五號ヲ以テ改正）

第八條 修業旅行又ハ運動會等ノ爲メ生徒ヲ學校所在地外ニ引率セムトスルトキハ學校長ニ於テ其ノ目的地、出發歸着ノ日時、監督及費用支辨方法、學年男女別人數等ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 小學校令第二十七條第三項ニ依リ郡長ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命ジ若クハ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク縣知事ニ報告スヘシ

第十條 小學校令施行規則第二十條ニ依リ學校長ニ於テ夏季冬季休業日ノ前後教授時數ヲ減セムトスルトキハ其ノ日限及各教科目ノ每週教授時數ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十一條 （明治四十一年縣令第八十五號ヲ以テ削除）

第十二條 小學校令施行規則第十九條ニ依リ每週教授時數ヲ増減セムカ爲メ管理者又ハ設立者ニ於テ認可ヲ受ケムトスルトキハ各教科目ノ每週教授時數及事由並ニ一定ノ期間ニ止マルモノハ其ノ期限ヲ具シ稟申スヘシ（明治四十五年縣令第七十一號ヲ以テ改正）

第二章 教 科

第十三條 小學校令第二十三條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ同令第二十條第二項ノ教科目ヲ定メンカ爲メ管理者又ハ設立者ニ於テ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ稟申スヘシ（明治四十五年縣令第七十一號ヲ以テ改正）

第十四條 （明治四十一年縣令第八十五號ヲ以テ削除）

第十五條 小學校令施行規則第四條第三項ニ依リ求積又ハ日用簿記ヲ授クルトキ同條第四項ニ依リ珠算ヲ併セ用フルトキ同規則第十三條第二項ニ依リ水産ヲ加フルトキ及同規則第十四條第二項ニ依リ英

語ヲ併セ授クルトキハ學校長ニ於テ其ノ每週教授時數ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ(明治四十五年縣令第四號ヲ以テ改正)  
第十六條 小學校令施行規則第十條第四項ニ依リ水泳ヲ授クルトキハ學校長ニ於テ其ノ方法ヲ具シ毎  
期監督官廳ニ届出ツヘシ

第十七條 (同上)  
(削除)

第三章 成績考査等

第十八條 兒童ノ成績ハ教授ノ際常ニ之レヲ考査シ各教科目ニ就キ特ニ毎學期二回以上考査ノ結果ヲ  
兒童成績考査簿ニ記入スヘシ但考査簿ノ様式並考査ノ方法ハ學校長之レヲ定ムヘシ(明治四十二年縣令  
第十九號ヲ以テ  
改正)

第十九條 各教科目ノ成績ヲ表ハスニハ甲、乙、丙、丁、戊ノ評語ヲ用ヒ學年相當ノモノヲ丙トシ較  
々勝レルヲ乙トシ優等ナルヲ甲トス又學年相當ヨリ較々劣レルヲ丁トシ其ノ以外ヲ戊トス

第二十條 教員ハ學期末ニ於テ兒童成績考査簿ニ記録セル評語ヲ通覽シ尙教授ノ際常ニ考査スル所ニ  
考ヘ出席日數ヲ參酌シ其ノ學期ノ成績ヲ定ムヘシ

教員ハ學年末ニ於テ各學期ノ成績ヲ通覽シ其ノ學年ノ成績ヲ定ムヘシ

第二十一條 學校長ハ學年末ニ於テ學年ノ成績ニ依リ兒童ノ修業、學習又ハ卒業ヲ認定スヘシ

第二十二條 兒童ノ操行ハ常ニ之ヲ視察シ每學期末ニ於テ之ヲ評議シ一等二等三等ノ評語ヲ以テ記録  
スヘシ(同)

第四章 卒業證書修業證書及學習證書

第二十三條 小學校ニ於テ授與スル卒業證書修業證書及學習證書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ但シ本文ノ證  
書ハ學校名ヲ署スルニ止メ學校長ノ氏名ヲ署セサルモ妨ケナシ(明治三十七年縣令第十號ヲ  
以テ但書追加及書式中改正)

卒業證書書式 用紙ハ鳥ノ子又ハ奉書ノ類其ノ大ハ  
大奉書四ツ切大ニ準スヘシ

卒業證書 (明治四十五年縣令第  
七十一號ヲ以テ改正)

校印 氏名 生年月日

尋常小學校 (高等小學校) 何箇年ノ修業年限ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

靜岡縣何市何郡何尋常(高等)小學校校長氏名 座

二 修業證書書式 用紙等  
適用

修業證書

校印 氏名 生年月日

尋常(高等)小學校第何(第何)第何(第何)學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

靜岡縣何市何郡何尋常(高等)小學校校長氏名 座

三 學習證書書式 用紙等 適宜

校印	學 習 證 書	氏 名
尋常(高等)小學校 第何學年(第何學年) 第何學年(第何學年)	年 月 日	生 年 月 日
シコトナ證ス		
靜岡縣 何郡 何市 何尋常(高等)(尋常)小學校長 氏名 印		

第五章 學級編制

第二十四條 小學校令施行規則第四十一條ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ學級ノ編制又ハ變更ヲ縣知事ニ届出ツルトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一 學級編制表 (明治四十一年二月縣令第十九號ヲ以テ第一號表改正第二號表追加)

備考 小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ル場合ハ便宜符號ヲ付シ同條第一項ノ場合ト區別シテ記入スルモノトス(明治四十二年縣令第三十七號ヲ以テ追加)

(第一號)

何尋常小學校(尋常高等小學校尋常科)學級編制表

學級別	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年		第六學年		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
第一學級													
第二學級													
合 計													

備考 小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ル場合ハ便宜符號ヲ附シ同條第一項ノ場合ト區別シテ記入スルモノトス(明治四十二年縣令第三十六號ヲ以テ追加)

(第二號)

何高等小學校(尋常高等小學校高等科)學級編制表

學級別	第一學年		第二學年		第三學年		計
	男	女	男	女	男	女	
第一學級							
第二學級							
合 計							

備考 尋常科ノ兒童ト高等科ノ兒童トナシ併セ學級ヲ編制シタルトキハ朱書ヲ以テ適宜本表ニ記入スルモノトス

二 教室配置圖

教室ノ位置形狀及坪數ヲ明カニシ各教室ニ學級名及其ノ人數ヲ記入スヘシ

第二十四條ノ二 小學校令施行規則第四十條ニ依リ二部教授ノ編制ヲナサンカ爲メ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其事由ヲ具シ前條ニ準シタル學級編制表(各部別)並教授配置圖ヲ添ヘ稟申スヘシ但本文ノ稟申ヲナスト同時ニ小學校令施行規則第十八條ノ二ノ手續ヲモナスヘシ(明治廿七年二月縣令第十號ヲ以テ追加)

第六章 補習科

第二十五條 小學校令第二十三條ニ依リ補習科設置ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ同時ニ小學校令施行規則第五十二條ニ依リ修業年限其ノ他ノ認可ヲ受ケムトスルコトキハ其事由ヲ具シ稟申スヘシ

第二十六條 小學校令施行規則第五十二條ニ依リ補習科ノ教科目、教授日及教授ノ時間ニ關シ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ例ニ依リ稟申スヘシ

一 教科目

教科課程表ヲ添フヘシ

一 教授日及教授ノ時間

何月何日ヨリ何月何日ニ至ル間午前又ハ午後或ハ日曜日夜間若クハ正教科ノ時間内ノ類ヲ記スヘシ

第二十七條 小學校令施行規則第五十二條ニ依リ補習科ノ教科用圖書ニ關シ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左表ヲ具スヘシ

何々小學校尋常(高等)補習科用圖書表

教科目	圖書名	卷冊數	著作者氏名	發行者姓名	發行年月日	檢定年月日
何々						
何々						

備考 檢定ヲ經サル圖書ヲ用フルトキハ該圖書一部ヲ添フヘシ  
第二十八條 小學校令施行規則第四十三條第二項ニ依リ補習科ノ某教科目ヲ隨意科目ト爲シタルトキ及同規則第四十八條ニ依リ每週教授時數ヲ定メタルトキハ縣知事ニ届出ツヘシ但シ每週教授時數ノ届出ニハ左表ヲ具スヘシ(明治四十一年二月縣令第十九號ヲ以テ一部改正)

何々小學校尋常(高等)補習科每週教授時數表

教科目	身	第一學年	第二學年
何	々		
何	々		
計			

備考 學期毎ニ時數ヲ異ニスルトキハ欄内ニ附記スヘシ

第二十九條 小學校令施行規則第五十條ニ依リ補習科ノ教場ヲ校舍外ニ設ケタルトキハ其ノ位置並教室ノ圖面ヲ具シ管理者又ハ設立者ニ於テ縣知事ニ届出ツヘシ

第三十條 小學校令施行規則第五十一條第一項第二項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任セシメタル教員又ハ代用教員ノ氏名ハ學校長ニ於テ監督官廳ニ報告スヘシ同條第三項ニ依ラムトスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ其ノ事情ヲ具シ方法ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルコトキハ

第三十一條 小學校令施行規則第四十條ニ依リ正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制セムカ爲メ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ第二十四條ニ準シタル學級編制表並教室配置圖ヲ添ヘ稟申スヘシ其ノ變更ノ場合亦同シ

第七章 (明治三十七年二月縣令第十號ヲ以テ削除)



第三十二條 (明治三十七年二月)

第八章 附 則

第三十三條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十五年甲第五十二號布達明治十九年縣令第二十三號及明治二十五年縣令第十三號同第十四號同第二十九號ハ之レヲ廢止ス

第三十五條 明治十八年縣令第十八號中補習科ニ關スル部分ハ其効力ヲ失フ

明治四十四年縣令第四十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年縣令第四號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小學校ノ祭禮休業日ニ關スル件

(明治四十一年十月五日)

本年二月本縣令第十九條ヲ以テ明治三十四年一月本縣令第五號小學校ノ教科及編制ニ關スル細則中第四條ヲ改正セラレタル結果曩キニ許可ヲ與ヘラレタル小學校ノ祭禮休業日ハ自然其許可ノ効力ヲ失フニ依リ更ニ祭禮休業ノ儀ニ付許可ヲ出願スルモノ有之候處其ノ事由輕易ナルカ爲メ不許可トナルモノ不勤候就テハ將來貴郡ニ於テ本文ノ休業ノ出願ヲナスモノ有之候ハ、其ノ授業ヲ爲シ能ハサル特別ノ事由詳具セシメラレ度爲念此段及通牒候也

○學級ノ編制方ニ關スル件

(明治三十七年四月二十六日)

尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ト高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童トヲ合セテ學級ヲ編制スル件ニ關スル熊本縣ヨリノ伺出ニ對スル文部省普通學務局長回答ノ趣ハ本月四日官報彙報欄官廳事項中ニ掲載セラレ候處右ハ必スシモ同縣伺出ノ場合ノミニ限ラス特別ノ事情アル時ハ右ニ準シ編制セシムルモ差支無之旨其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度依命此段及移牒候也  
追テ本文ノ場合ニ於ケル一學級ノ兒童數ハ高等小學校一學級ノ人員ニ準シ候義ト御承知相成度此段申進候也

○學級編制上男女兒ヲ分ツコトヲ要スル一學年又ハ全校女兒ノ員數ニ付通牒

(明治四十三年六月二十九日)

小學校令施行規則第三十一條ノ一學級ヲ編制スルニ足ル女兒ノ員數ニ付キテハ學級編制ノ狀況等ニ依リ斟酌ヲ要スルハ勿論ニ候ヘトモ凡三十人以上ト看做ス義ニ有之候條御了知相成度此段及通牒候也

○授業時間ニ關スル件

(明治三十三年六月廿九日)

(前略) (始業時刻ノ件及晝飯後休憩時間) 尙高等小學校ニ於テ土曜日ノ授業時間ヲ三時間トナシ從テ其他ノ日ニ於テ六時間ノ授業ヲ爲スコトアル如キハ不可然義ト認メラレ候ニ付是又御指示相成度依命此段及通牒候也

(右各郡市町長宛、同様ノ趣旨師範學校長宛)

○學校生徒ノ服忌ニ關スル件

(明治四十五年一月十五日)

學校生徒ノ服忌ニ丁リ休業ヲ認許シタル場合就學ニ關スル統計上取扱方ニ關シ別記ノ通其筋ヨリ通牒有之候條及移牒候也

記

客月九日發學第二八一號ヲ以テ學校生徒ノ服忌ニ丁リ休業ヲ認許シタル場合就學ニ關スル統計ノ上取扱方ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ當該生徒ニ限リ授業日數ヲ短縮シタルモノト看做シ御取扱相成候方可然ト存候條御承知相成度此段及回答候也

○運動會修學旅行等認可標準

(明治三十四年十月二十四日 靜岡縣通牒三五三九七號)

本年縣令第五號小學校ノ教科及編制ニ關スル細則第七條及第八條ニ依リ認可ヲ申請シタルモノアリタルトキハ左ノ例ニ依リ御取扱可有之依命此段及通牒候也

- 一 第七條ニ依ルモノハ當日ノ授業休止ニ限ル事
  - 二 第八條ニ依ルモノハ即日歸着シ得ル地ニ限リ翌日ノ授業ノ妨ケトナラサル運動又ハ旅行ノ程度ヲ超ニサルモノタルヘク尙尋常小學校生徒ニ在リテハ各自ノ出金ヲ要セサルモノタルヘキ事但シ特別ノ事情アルトキハ此限ニアラスト雖モ女生徒ハ宿泊ヲ要スル旅行ヲナサシメサル事
  - 三 前兩項ノ場合ニ於テ一部ノ生徒ノ爲ニ他ノ生徒ノ授業ヲ休止スルヲ得サル事
- 追テ學校ノ名ニ於テセサル生徒ノ團體ニシテ安リニ運動會又ハ旅行等ヲナスモノ、如キモ充分御取締有之度此段申添候也

(右各郡長宛)

別紙ノ通各郡長へ及通牒候處貴市小學校(附屬小學校)生徒ニ對シテモ同様ノ義ト御了知有之度爲御心得此段及通牒候也 (別紙前同文)

(右靜岡市長、師範學校長宛)

○小學校兒童團體旅行ノ汽車賃ノ件

(明治四十三年十二月廿七日 靜岡縣通牒學第五〇八七號)

小學校兒童團體旅行ノ汽車賃ニ關シ別紙寫ノ通り其筋ヨリ通牒有之候ニ付貴郡内小學校ニ對シ其旨御通達相成度此段及移牒候也

文部省通牒寫

今般小學校兒童團體旅行ノ汽車賃ニ關シ總テ十二歳以下ノ者ト同一ニ取扱ハルヘキ様本省ヨリ鐵道院ニ對シ及照會置候處右ニ就キ別紙ノ通り回答有之候條貴官下小學校ニ對シ其旨御通達相成度依命此段及通牒候也

別紙

小學校生徒ニ對スル團體乘車賃金ヲ總テ十二歳以下ノ小兒トシテ取扱フ義ニ關シ愛普一一七號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ尋常小學校生徒ニ限リ御來意ノ通り取扱可致候間右様御了知相成度候

○小學兒童ニ授クヘキ體操ノ課程

(明治三十四年四月十六日 靜岡縣訓令甲第十二號)

小學校令施行規則第十條第十七條及第十八條ニ依リ小學校兒童ニ授クヘキ體操ノ課程ハ別表ニ準據ス

別表

尋常	第一學年		第二學年		每週時數	全回数	遊戯	普通體操	兵式體操
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年					
	六以上	六以上	六以上	六以上	每週三十分者ハ一時	每週三十分者ハ一時			
	六以上	六以上	六以上	六以上	每週三十分者ハ一時	每週三十分者ハ一時			

第五編 普通教育 (小學校兒童團體旅行ノ汽車賃ノ件)

科	高			等			同			女	
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第三學年
科	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第三學年
	四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三
	以上	以上	以上	同	同	同	同	同	同	同	同
	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分
	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時	若ハ一時
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操	徒手體操
	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)	(第一演習)
	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分	每回三十分
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩	復習、球竿初歩

備考

- 一 兵式體操ニ於テハ兒童ヲシテ銃ヲ執ラシムルヲ要セス
- 一 二學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第二學年マテヲ課シ三學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第三學年マテヲ課スヘシ
- 一 戶外運動又ハ水泳ヲ授クルトキハ本表時間ノ内外ニ於テ之ヲ課スヘシ

○改正小學校令施行規則ニ抵觸スル部分ヲ除キ尙同上  
二 準據ノ件 (明治四十一年六月十二日 靜岡縣通牒中學第三〇八三號)

明治三十四年本縣訓令第十二號小學校兒童ニ授クヘキ體操ノ課程ハ小學校令改正ノ結果小學校令施行規則ニ抵觸スル部分ヲ除キ大體ニ於テ之レニ準據セシメラレ候様御取計相成度此段及通牒候也

○片假名信號法ヲ體操科中ニ加フルノ件 (明治四十一年六月六日 靜岡縣通牒中學二九四三號ノ一)

小學校中學校等ノ教科目中ニ片假名信號法ヲ加フルハ教育上裨益不尠ト被認候ニ付キ自今小學校中學校實業學校等ノ體操科中ニ於テ便宜之レヲ教授候様致度旨其筋ヨリ通牒越シ候ニ付別冊相添此段及移動候也 (別冊畧之)

○高等小學校加設農業科又ハ商業科ノ施設ニ關スル注意 (明治四十三年十二月二十四日 文部省訓令第二十六號)

北海道廳 府 縣

近來各地方ノ高等小學校ニ於テ概テ農業又ハ商業ノ教科目ヲ加設スルニ至レルハ尋常小學校卒業者ニ對シ更ニ普通教育ヲ施シ品性ヲ陶冶シ常識ヲ進ムルト共ニ其ノ將來ノ生活ニ緊切ナル素養ヲ與フルニ於テ最モ適當ノ施設ナリトス然レトモ農業科加設ノ學校ニシテ往々實習地ノ設備ヲ缺クモノアルハ頗ル遺憾トスル所ナリ抑々農業科ニ於テハ兒童ヲシテ其ノ學ヲ所ヲ實地ニ應用セシムルニ非サレハ農業ノ趣味ヲ領得セシメ勤勞ヲ尊重スルノ習慣ヲ養ハシムルニ足ラサルヲ以テ自今方メテ實習地ヲ設置シ

第五編 普通教育

(改正小學校令施行規則ニ抵觸スル部分ヲ除キ尙同上ニ準據ノ件) (片假名信號 五ノ百九) 法ヲ體操科中ニ加フルノ件) (高等小學校加設農業科又ハ商業科ノ施設ニ關スル注意)

教員自ラ兒童ヲ率テ耕耘ニ從事シ以テ本教科目加設ノ趣旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルヘシ但シ  
實習地ハ必スシモ學校ノ附屬地タルヲ須ヒス適當ナル土地ヲ借入レテ之ニ充ツルモ亦可ナリ若シ已ム  
ヲ得サル場合ニ在リテハ兒童ヲシテ各自父兄ノ農作地ニ於テ實習ヲ爲サシムル等便宜ノ方法ニ據ルコ  
トヲ妨ケス要ハ町村ノ經濟ト地方ノ事情トヲ斟酌シテ相當ノ施設ヲ爲サシムルニ在リ又商業科ニ在リ  
テハ其ノ教授ヲシテ土地ノ實際ニ適切ナラシムルト共ニ商業道德ノ涵養ニ努メシメ以テ本教科目ノ成  
績ヲ擧ケシメンコトヲ期セラルヘシ

○小學校兒童訓育方ニ關スル注意ノ件

(明治三十七年十一月四日) (靜岡縣通學第三四六〇九號)

近頃小學校兒童等各地ニ於ケル戰捷祝賀會等ノ影響ヲ受ケ或ハ多數群集シ或ハ樂隊ノ假裝等ヲナシテ  
各所ヲ騷キ廻リ候向相聞ヘ候右ハ戰時ニ於ケル人情自然ノ發作ニシテ殊ニ周圍ノ事情ニ感激シ易キ頑  
是ナキ兒童ニ在リテハ固ヨリ無理ナラヌ義トハ存候ヘトモ餘リニ過度ニ陥リ爲メニ修學上ノ防害ト相  
成候ニ至ラハ甚ク遺憾ノ義ト存候間是等兒童ヲシテ常度ヲ失セシメサルト共ニ其ノ薄弱ナル精神上ニ  
與フル時局ニ關スル過激刺撃ニ對シテハ時々刻々之カ教育上ノ注意ヲ忽ニセサル様御部内教員ニ御注  
意相成様致シ度依命此段及通牒候也

○學校生徒服忌ニ關スル件

(明治四十四年九月二十二日) (靜岡縣通學第四二五七號) (靜岡市立學校長)

服忌ノ制ハ夙ニ明治七年太政官布告第百八號ヲ以テ規定相成居候儀ニ有之候處近來小學校其他諸校ニ  
於テ往々其生徒ノ父母祖父母等ノ死亡ニ際シテモ右ノ制度ヲ等閑ニ附スルカ如キモノモ有之ヤニ相聞  
ニ道德教育上頗ル遺憾ノ次第ト被存候就テハ小學校及中等程度ノ諸學校等ニ於テハ自今生徒ヲシテ克  
ク服忌ニ關スル心得ヲ會得セシメ又之ニ丁リタル者ニ對シテハ相當期間休業ヲ認許シ當試驗ノ時期等

ニ際シテハ特別ノ取扱ヲ爲メ等便宜ノ方法ヲ講シ以テ苟モ孝悌ノ至情ヲ傷ハシメサル様深ク注意スヘ  
キ旨貴郡下各學校長ヘ御示達相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及通牒候也

○小學校兒童服忌ニ關スル取扱ニ關スル件

(明治四十四年十月十八日) (靜岡縣通學第四六〇一號ノ一)

本月十三日學第九二九號ヲ以テ小學校兒童ノ服忌ニ關スル取扱ニ付御照會ノ處右ハ第四項ヲ除ク外差  
支ナキモノト御了知相成度此段及回答候也

追テ第四項ノ如キ祭祀ニ際シテハ可相成全日學校ヲ缺席セシムルコトナク相當必要ナル時間ヲ限り  
缺課セシムルノ方法ヲ採ラシムルコト肝要ト存候ニ付此段申添候

學第九二九號某郡長照會

左記ノ通り小學校長招集ノ際協議致候處第二項以下ニ關シ實施上差支ノ廉無之儀ニ候哉一應御應之御  
意見承知致度此段及照會候也

記

服忌並ニ祖先ノ佛事祭祀ニ關シ取扱ノ件

一 服忌ニ關スル心得ヲ學校兒童ニ領得セシムルニハ左ノ說明ニ依ルヲ便トス  
但兒童ニ對スル内容教授ハ兒童學年ノ程度ニ依リテ斟酌シ修身科ニ關聯シ該科教授時間内ニ於  
テ領得セシム

服トハ喪服ノ意ナリ轉シテ喪服ヲ着テ喪ニ籠リ居ルトキノ稱トナレリ後世ニ忌トイフコト出來  
テ服忌忌服ナト稱ス合スレハ即喪ナリ死者ノ親疎ニヨリテ忌ト服トノ日數ニ長短アリ例ヘハ  
父母ノ忌ハ死後五十日トシ更ニ死後十三ヶ月ノ間ヲ服トス其他祖父母ニハ忌三十日服百五十日  
兄弟ニハ忌二十日服九十日ナト等級種々アルカ如シ

- 二 服忌ヲ受クル兒童アルトキハ學校長ハ左記日數ヲ以テ際服ヲ命ス但親族ニアラサル家族ノ死亡シタルトキハ四親等以內ノ親族ニ準シテ取扱フモノトス
  - 父 母 五日以內
  - 四親等以內ノ親族 三日以內
- 三 前項ニ依リ出席セサル期間ハ出席日數ニ算入セス
- 四 祖先及親族ノ佛事祭祀ヲ營ムニ際シ當日兒童ノ欠席ハ服忌ニ準シテ取扱フモノトス但已ムヲ得サル場合ニ限り學校長ハ日數ヲ延ハスコトアルヘシ

○國定書キ方手本、尋常小學校地理教科書及國定教科書字解等ニ關スル取締方 (明治四十五年五月七日) (學第八九〇號ヲ以テ內務部長通牒)

左記事項其筋ヨリ通牒有之候條貴郡(市)下各學校へ無漏御通達ノ上其ノ取締方御留意相成度依命及通牒候也

各 郡 市

記

- 一 近來國定書キ方手本ノ文字ヲ擴大模寫シ其上ニ白紙ヲ展ヘテ紙上ヨリ透寫セシメントシ一種草紙様ノモノヲ印刷頒布スルモノアルヤノ聞アリ學校ニ於テ之ヲ兒童ニ用ヒシムルハ不都合ニ付取締ヲ要ス
- 二 尋常小學校ノ地理科ニ於テ國定教科書記載事項以外ニ涉リ當該府縣等ノ地理ヲ適宜補說教授スルハ固ヨリ必要ナレトモ之カ爲ニ特ニ一冊子ヲ編纂出版シテ之ヲ生徒ニ購買セシメ教科書ト同様ノ取扱ヲ爲サントスルモノアルヤノ聞アリ取締ヲ要ス

- 三 小學教科書中ノ字句ヲ逐次拔萃シ之ニ訓義ヲ附シ其々字解字引ナト、稱シテ出版シ生徒ノ購買心ヲ挑發スルモノアリ是等ハ弊害尠カラサルニ付之ヲ購買セシメサルヤウ取締ヲ要ス

○地方學校講演會記念會運動會等監督方 (明治四十二年一月九日) (文部大臣訓令)

北海道廳長官 府縣知事

近來學校ニ於テ催ス所ノ講演會、記念會又ハ運動會等ニ於テ當日ノ興趣ヲ添ヘンカ爲種々ノ工夫ヲ廻ラシ其ノ結果多數ノ時間ヲ空費スルノミナラス動モスレハ生徒ニシテ脂粉ヲ施シ假裝ヲ爲シ往々演劇興行ニ近キモノヲ演スルヲ見ル而シテ此等ハ單ニ都會ニ限ラス地方ニ於テモ亦其ノ例ナモニアラス斯ノ如キハ學校ノ風紀ヲ弛ウシ浮薄ノ弊風ヲ助長スルノ虞ナシトセス故ニ自今學校職員ヲシテ右等ノ行爲ナキ様十分注意ヲ加ヘシメラルヘク尙講演會等ノ場合ニ於テハ職員協同シテ周密ニ生徒ヲ指導監督シ教育上善良ナル效果ヲ收メシメンコトヲ期セラルヘシ

○小學校令施行規則中小學校教授用假名及字體等ニ關スル規定削除ニ付教授上注意ノ件 (明治四十一年九月十八日) (靜岡縣通牒中學四三六八號ノ一)

今般文部省令第二十六號ヲ以テ小學校令施行規則中小學校ニ用フル假名及其字體等ニ關スル規定ヲ削除シ同時ニ右改正ノ趣旨ヲ訓令セラレタルニ付テハ小學校教員ニ於テ左記事項ヲ心得シメ教授上不都合無之様特ニ注意可致旨其筋ヨリ通牒有之候條貴(郡市)内各小學校ヲシテ之ヲ周知セシメ該趣旨徹底致候様御注意相成度依命此段及通牒候也

記

- 一 小學校令施行規則中假名及其字體並ニ字音假名遣ニ關スル規程廢止セラレタルモ此際俄ニ舊來慣用ノ假名遣ニ依リ教授ヲ爲シ又ハ教科書中ノ假名遣ヲ舊來ノモノニ更正シテ教授ヲナスハ教授上及學習上混雜ヲ惹起スルノ憂ナシトセサルニ付現在ノ教科書使用中ハ尙從來ノ字音假名遣ニ依リ教授ヲナスヲ妨ケス但上級ノ兒童ニ對シテハ適宜古來慣用ノ字音假名遣ヲ授ケ其一班ヲ知得セシムルコト
- 二 改正教科書使用後ハ小學校ノ國語教授ハ當然古來慣用ノ字音假名遣ニ依ラシムヘキハ勿論ナルモ強テ下級ノ兒童ニ對シテ之ヲ學習セシムルヲ要セス且一般ノ兒童ニ對シテモ從來ノ字音假名遣等ノ使用ヲ許容シ強テ之ヲ訂正セシムルヲ要セサルコト

○小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル注意事項

(明治二十七年八月二十九日) 文部省訓令第六號

北海道廳 府 縣

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國舊來弓馬劍鎗ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ缺クル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セル事又教員及生徒カ學問知識ノ進歩ニ急ニシテ動モスレハ智育ノ一方ニ偏重セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感スルコト未タ深切ナラサル事是等數多ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情況ヲ呈セントス今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

- 一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自體ニ於テ意氣快活ヲ覺ユルノ效果ヲ

- 二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用非體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ
- 三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テハ洋服又ハ和服ヲ問ハス都テ筒袖ヲ用非シムヘシ
- 四 放課時間ニ於テ佇立閑語シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戲ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走嬉戲ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事ト爲シ沈靜ヲ以テ品行點ニ加フルカ如キハ當ヲ得タルモノニアラス
- 五 生徒ヲシテ筆記及誦讀ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用非サランコトヲ要ス
- 六 小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗ノ問題トスヘカラス
- 七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ每期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺衝スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ
- 八 小學校ニ於テ生徒ハ喫烟スルコト及烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ
- 九 華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ルヘク步行セシムルコトニ誘導スヘシ



第一章 例ごとく  
 松竹たてゝ

第二章 門ごとく  
 初日のひかり  
 君がみかげに

元始 祭  
 天津日嗣の  
 年のはじめに  
 四方の民くさ  
 豊榮のぼる

第一元 節  
 雲に聳ゆる  
 なびきふしけん  
 海原なせる  
 めぐみの波に

第二 章  
 大高千穂を  
 御前まつり  
 たてまつる

第三 章  
 高みくら  
 天津ひつぎの

終りなき世の  
 いはふ今日こそ  
 治まる御代の  
 仰ぎ見るこそ

天津堰の  
 祭りますこそ  
 長閑けき空を  
 たてまつるは

高根おろしに  
 仰ぐ今日こそ  
 池のおもより  
 あふぐけふこそ

萬の國に  
 あふぐけふこそ  
 今年秋の  
 祝ふあしたの  
 賑ふ御代こそ

うまれたまひし  
 さし出たまひし  
 いはへ諸人  
 いはへ諸人

祈年祭  
 垂穂の祭  
 新嘗祭

めでたさを  
 たのしけれ

今朝のそら  
 たふとけれ

動きなく  
 かしこけれ  
 うち仰ぎ

草も木も  
 たのしけれ  
 猶ひろき  
 たのしけれ

たのしけれ  
 たぐひなき  
 たのしけれ  
 懸か税

吉き日なり  
 吉き日なり  
 もろとも  
 もろとも

美し  
 尊し

新嘗祭

もどる定めし  
 空にかややく  
 國のみはしら  
 五十鈴の宮の  
 御酒御帛を  
 靡く御旗も  
 今日吉き日は  
 今日吉き日は  
 ひかり遍ねき  
 めぐみ遍ねき  
 民やすかれと  
 千町の小田に  
 御饗につくりて

第四章 そのかみを  
 日のもと  
 たてし世を  
 大前まつり  
 たてまつる  
 二日月の  
 うちの  
 たてまつる

祈年祭  
 垂穂の祭  
 新嘗祭

たのしけれ  
 たぐひなき  
 たのしけれ  
 懸か税  
 めでたけれ  
 朝日か  
 吉き日なり  
 吉き日なり  
 もろとも  
 もろとも  
 美し  
 尊し  
 新嘗祭

○小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限 (明治二十七年十二月二十八日 文部省訓令第七八號)

北海道廳 府 縣



小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ本大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ選定ニ係ルモノ及地方長官ニ於テ本大臣ノ認可ヲ受ケタルモノノ外ハ採用セシムヘカラス但  
他ノ地方長官ニ於テ一旦本大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限リニ在ラス

○小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限 (明治二十八年五月八日)  
(靜岡縣訓令甲第十二號)

郡役所 市役所  
町村役場 小學校

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ選定ニ係ルモノ及本官ニ於テ採定シタルモノ、外ハ用フヘカラス但他ノ地方長官ニ於テ一旦文部大臣ノ許可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

第四章 教科用圖書

○教科用圖書調査委員會官制 (明治四十一年九月五日)  
(勅令第二百〇八號)

朕教科用圖書調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教科用圖書調査委員會官制

第一條 教科用圖書調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ小學校ノ修身、歴史及國語ノ教科用圖書ヲ調査審議シ並文部大臣ノ諮詢ニ應シ其ノ他ノ教科用圖書ニ關スル事項ヲ調査ス  
第二條 委員會ハ會長、副會長及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス (明治四十四年勅令第  
十八號ヲ以テ改正)

第三條 會長、副會長及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 委員ニシテ引續キ二月以上會議ニ出席セサル者アルトキハ其ノ職ヲ免スルコトアルヘシ

第五條 委員會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 會長ハ會務ヲ整理シ會議ノ議長ト爲リ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

第七條 副會長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ整理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ前項ノ外委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列ス

第八條 委員會ニ主査委員ヲ置キ委員中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

第九條 委員會ニ幹事ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス (明治四  
十四年  
勅令第十八號  
ヲ以テ改正)

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 委員會ニ書記ヲ置キ文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 會長、副會長、委員、幹事及書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○教科用圖書調査委員會規則 (明治四十二年九月二十八日)  
(文部大臣訓令)

本省各部

教科用圖書調査委員會規則左ノ通り定ム

教科用圖書調査委員會規則

第一條 主査委員ハ文部大臣ノ命ニ依リ左ノ三部ニ分屬ス

第一部修身教科用圖書、第二部歴史教科用圖書、第三部國語教科用圖書

第二條 本部ニ部長ヲ置キ部員中ヨリ文部大臣之ヲ命ス部長ハ會長ノ指揮ヲ受ケ部ノ事務ヲ整理ス

第三條 各部ノ部員中四名以内ヲシテ起草ヲ擔任セシム(明治四十二年二月二十四日同四十二年六月一日)

第四條 各部ニ補助員若干名ヲ置キ起草員ノ職務ヲ補助セシムル事アルヘシ文部大臣訓令ヲ以テ改正

第五條 會議ハ總會及部會トス總會ハ委員全部ノ會議トシ部會ハ部員ノ會議トス總會ニ於テハ會長其

議長トナリ部會ニ於テハ部長其ノ議長トナル

第六條 總會ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

一 編纂ニ關スル大體ノ主義方針

二 部ノ主査ヲ經タル圖書ノ確定

三 文部大臣ヨリ諮詢シタル事項

四 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第七條 部會ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

一 編纂ニ關スル要目

二 起草員ノ起草シタル圖書ノ審議

三 會長ヨリ調査ヲ附託シタル事項

四 其他部長ニ於テ必要ト認メタル事項

第八條 他部ニ關涉スル事項ニシテ協定ヲ要スルモノアルトキハ聯合部會ヲ開キテ之ヲ定ムヘシ聯合

部會ニ於テハ部長中ノ年長者其ノ議長ト爲ル

第九條 會長副會長及當該部ニ屬セサル委員ハ臨時部會ニ出席シテ意見ヲ陳述スル事ヲ得但シ議決ノ

數ニ加ハラズ

第十條 會議ノ議事ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ラス但シ可

否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一條 會長副會長共ニ事故アルトキハ委員ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムル事ヲ得

アルトキハ部員ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムル事ヲ得

第十二條 總會ノ議事ニ際シ會長自ラ意見ヲ陳述セントスルトキハ副會長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシメ

副會長事故アルトキハ委員ノ一人ヲシテ議長ノ職務ヲ行ハシムル事ヲ得

前項ノ規定ハ部會ノ議事ニ關シ之ヲ準用ス

○ 小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程 (明治四十二年十月二日)

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程

第一條 文部省ニ於テ著作權ヲ有スル左記小學校教科用圖書ハ此ノ規程ニ依リ其ノ翻刻發行ヲ日本書

籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社ニ其ノ販賣ヲ株式會社國定教科書共同販賣所ニ

許可ス

一 修身

二 國語

三 歴史

四 地理

五 算術

六 圖書

七 理科 (明治四十三年文部省告示)

第二百九號ヲ以テ追加

各會社ニ翻刻發行ヲ許可スル圖書ノ割合ハ各種各卷ニ就キ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社ハ各十分ノ四大阪書籍株式會社ハ十分ノ二トス

第二條 翻刻發行許可ノ期間ハ明治四十三年度所用分ヨリ以後六ケ年トス但シ翻刻發行者ニ於テ此ノ規程ニ違背シタルトキ若ハ其ノ信用缺乏シ又ハ其ノ業務株主ノ行動等ニシテ不都合アル場合ハ期限内ト雖モ許可ヲ取消スコトアルヘシ

翻刻發行者ハ許可滿期ノ場合ニ於テ繼續許可ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條第一項但書ノ規定ハ共同販賣所ニ之ヲ準用ス

第四條 各翻刻發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ著手セントスルトキハ其ノ種類及冊數ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受クヘシ

翻刻發行者前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ共同販賣所ト協議ノ上更ニ之ヲ各卷ニ分配シタル調書ヲ製シ文部省ニ提出スヘシ

第五條 翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 製版、印刷、製本ニ關スル總テノ工場及事務所所在地ハ東京、大阪ニ限ル工場及事務所ノ設置又ハ變更ハ遲滞ナク文部省ニ届出ツヘシ

第七條 翻刻發行者ハ其ノ製造シタル圖書ノ全部ヲ共同販賣所ニ賣渡スヘシ

前項ノ賣渡ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第八條 共同販賣所ハ道府縣内ニ少クトモ一箇ノ共同販賣支所又ハ特約販賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ

取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ

前項ノ供給區域及販賣ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 共同販賣所ハ圖書ヲ検査シ此ノ規程第十條乃至第十七條ニ違背セリト認ムルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十條 圖書ハ用紙白色ニシテ強キ光澤ナク其ノ質強韌ニシテ粗糙ナラス印刷鮮明ニシテ製本堅牢ナルコトヲ要ス

第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條 翻刻發行者ハ各圖書ノ見本三部ヲ文部省ニ提出シ検査ヲ受クヘシ

圖書ハ前項ノ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十三條 圖書ノ文字ノ大小、圖畫、卷數、枚數、頁數、行數及每行ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本ト同一ナルコトヲ要ス

第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ニ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ翻刻シタル圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス

修正圖書ハ第十二條ノ規定ニ準シ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ検査ヲ經タル見本ト同一ナルコトヲ要ス

第十六條 圖書ニハ各冊尾ニ第十二條第一項ノ検査年月日及定價ヲ記載スヘシ

第十七條 圖書ニハ翻刻發行許可證明ノ爲各冊見易キ處ニ文部省ヨリ交付シタル印紙ヲ貼付シ紙面ト

印紙ノ彩紋トニ掛ケテ消印スヘシ

印紙ハ證明料ヲ納付シタル者ニ限り之ヲ交付ス

證明料ハ定價三錢以下ノ圖書ニ就キテハ一冊毎ニ一厘トシ其ノ他ノ圖書ニ就キテハ二厘トス

第十八條 圖書ハ定價ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス

第十九條 翻刻發行者ハ文部大臣ヨリ發行冊數ノ指定若ハ承認ヲ受ケタルトキハ速ニ圖書製造ノ功程ニ關スル豫定計畫書ヲ提出スヘシ

第二十條 前項ノ豫定計畫書ヲ不適當ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 圖書ハ其ノ使用期ヨリ遅クトモ六十日以前ニ翻刻發行者ヨリ共同販賣所ニ納付シ共同販賣所ハ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル様發送スヘシ

第二十二條 共同販賣所ハ常ニ在庫圖書ノ種類冊數ヲ明瞭ナラシメ其ノ保管ニ關シ十分ノ注意ヲ爲シ且時々地方ニ於ケル需用供給ノ狀況ヲ取調ヘ若シ發行冊數ニ不足ヲ生スルノ見込アルトキハ速ニ文部省ニ申出ツヘシ

第二十三條 圖書製造ノ功程遅延ニシテ第二十條ノ期限内ニ製本ヲ完了スルコト能ハスト認ムルトキハ文部大臣ハ翻刻發行ノ指定冊數ヲ減少シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 文部大臣ニ於テ第十條乃至第十七條ニ違背セリト認メタル圖書ニ就キテハ廢棄又ハ改良等必要ノ處分ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 圖書ノ翻刻發行及保管ニ要スル工場、倉庫其ノ他ノ設備不完全ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ増設又ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條 圖書ノ供給ニ關スル施設ニシテ供給上不便ト認メタルトキハ文部大臣ハ之カ改良ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條 共同販賣所ハ圖書ノ改良其ノ他圖書ニ關スル事項ノ費途ニ充ツル爲決算期毎ニ其ノ期間中供給シタル圖書ノ定價百分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

前項積立金ノ使用ハ文部大臣ノ指揮ニ從フヘシ

第二十六條 左ノ事項ハ總テ文部大臣ノ承認ヲ受クヘシ

一 會社ノ取締役、監查役並代表者ノ選任、

二 株式ノ讓渡

三 定款

四 前條ノ積立金ヲ除ク外各種積立金ノ使用

第二十七條 各會社ノ利益配當ハ拂込資本金ニ對シ通常年八分トシ若シ殘餘アルトキハ其ノ一半ハ之ヲ積立金ト爲スヘク他ノ一半ハ之ヲ再配當ニ充ツルコトヲ得但シ配當ハ通シテ年一割五分ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 文部大臣ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ圖書ノ製造販賣及會計其ノ他業務ノ實況ヲ検査シ又帳簿及書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ翻刻發行者又ハ販賣者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十九條 文部大臣ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ規程ノ條項ニ修正ヲ加フルコトアルヘシ

第三十條 第二條第一項但書第三條第二十二條第二十三條第二十四條第二十九條第三十二條ノ場合ニ於テ發行者又ハ販賣者カ損害ヲ受クルモ文部省ハ其ノ賠償ノ責ニ任セス

第三十一條 翻刻發行者ハ其ノ發行ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一個月以内ニ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納付スヘシ

保證金ハ總額ヲ十二萬五千圓トシ各翻刻發行者ノ納付額ハ文部大臣之ヲ指定ス

第三十二條 翻刻發行者ニ於テ期限内ニ保證金ノ納付ヲ爲ササルトキハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十三條 翻刻發行者ニ於テ翻刻發行ノ事業ヲ止メタルトキハ納付ノ保證金ハ請求ノ日ヨリ三個月以内ニ拂戻ヲ爲スヘシ

第三十四條 翻刻發行者ニ於テ此ノ規程又ハ此ノ規程ニ依リ發スル文部大臣ノ命令ニ違背シタルトキ

ハ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

違約金ハ保證金額ノ範圍内ニ於テ文部大臣之ヲ定ム

第三十五條 翻刻發行者ニ於テ前條ノ違約金ヲ文部大臣ノ指定シタル期間内ニ納付セサルトキハ保證

金ヲ以テ辨濟ニ充ツヘシ

第三十六條 保證金ヲ納付セントスルトキハ第一號書式ニ依リ公債證書ノ種類ヲ届出テ寄託通知書ノ

交付ヲ受クヘシ

公債證書ノ價格ハ額面ニ依ル

第三十七條 前條ノ寄託通知書ヲ受領シタルトキハ該通知書記載ノ金庫ニ公債證書ヲ提供シ保管證書

ヲ受ケ第三號書式ノ質權設定證書及記名公債證書(記名國債證書ヲ除ク)ノ場合ハ民法第三百六十四

條ノ規定ニ依リタル書類ト共ニ第二號書式ノ保證金納付書ニ添付シ文部大臣官房會計課長ニ提出ス

ヘシ

附 則

第三十八條 印紙ノ種類及用紙ノ標準ニシテ既ニ告示シタルモノハ其ノ告示ニ依ル

明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則第十一條及第四十二條第二項ニ

依リ定メタル圖書ノ定價ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第三十九條 明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則ハ之ヲ廢止ス

第四十條 明治四十三年度所用分圖書ハ各會社ハ其ノ發行冊數ヲ指定スルマテハ從來ノ規則ニ依リ從

來ノ翻刻發行者之ヲ發行スヘシ但シ證明科ニ關シテハ第十七條ノ規定ニ依ルモノトス

第四十一條 共同販賣所ニ對シ從來文部大臣ニ於テ命令又ハ承認シタル事項ニシテ此ノ規程ト抵觸セ

サルモノハ仍其ノ効力ヲ有ス

(第一號書式)

一金 何 圓 也 保 證 金 種 類 届

何圓券何々公債證書 何枚 無記名 批者所有ノ分 何第何番 自何第何番至何第何番 時價何圓(又ハ發行最低價格何圓)

何圓券何々公債證書 何枚 無記名 何某所有ノ分 何第何番 自何第何番至何第何番 時價何圓(又ハ發行最低價格何圓)

何圓券何々公債證書 何枚 記名 批者名儀ノ分 何第何番 自何第何番至何第何番 時價何圓(又ハ發行最低價格何圓)

何圓券何々公債證書 何枚 記名 何某名儀ノ分 何第何番 自何第何番至何第何番 時價何圓(又ハ發行最低價格何圓)

右納付致度候ニ付寄託通知書交付相成度候也

年 月 日

住 所

教科用圖書翻刻發行人

何

某 印

文部大臣官房會計課宛

(第二號書式)

三 錢 保 證 金 納 付 書

印 紙

一金 何 圓 也 保 證 金 額

但シ何々金庫第何號保管證書ノ通

外

一 質權設定證書 何通

一 第三債務者ハ通知ノ請書(又ハ承諾書) 何通

一 何々(質權設定ニ關シ必要ナル書類アルトキ) 何通

第五編 普通教育 (小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程)

右 納 付 候 也

住 所

教科用圖書翻刻發行人

何

某 印

(第三者ヨリ實權ノ設定ナラシメタルトキハ連署ヲ要ス)

某 印

文部大臣官房會計課長宛

(第三號書式)

實 金 高  
印 紙

實 權 設 定 證 書

(無記名ノ例)

一 何圓券何々公債證書

何 枚

何第何番 自何第何番至何第何番

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權設定候也

又ハ

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處何縣何國何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付シ實權設定候也

(記名ノ例)

一 何誰記名何圓券何々公債證書

何 枚

何第何番 自何第何番至何第何番

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權ヲ設定シ第三債務者へ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

又ハ

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處何縣何國何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權ヲ設定シ第三債務者へ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

年 月 日

住 所

教科用圖書翻刻發行人(又ハ第三者)

何

某 印

文部大臣官房會計課長宛

備 考

一 公債證書ノ種類、券面額毎ニ區分列記スルモノトス

二 記名ト無記名及實權設定者ノ異ナル毎ニ別紙ニ調製スルモノトス

○小學校教科用圖書用紙標準

(明治三十六年五月二十七日 文部省告示第百七號)

小學校教科用圖書翻刻發行規則ニ依リ翻刻發行ヲ許可スヘキ圖書ノ用紙ニ關シ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書用紙標準

第一條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ機械漉紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 用紙ノ原料ハ木綿襪襪、藁、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺潰木材質ハ用フヘカラス

二 用紙中ニ混入スル白土等ハ其ノ重量ノ百分ノ十五ヲ超過スヘカラス

三 用紙ハ樹脂糊(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ

四 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ兩面摺用紙ハ一匁九分以上、片面摺用紙ハ一匁一分以上タルヘシ

五 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ兩面摺用紙ハ十七ポンド以上、片面摺用紙ハ十四ポンド以上タルヘシ

第二條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 用紙原料ハ楮皮、三椏皮、藁、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺潰木材質ハ用フヘカラス

二 用紙中ニ白土等ヲ混入スヘカラス

三 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ五分以上タルヘシ

四 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ十三ポンド以上タルヘシ

第三條 小學校教授用掛圖ニ機械漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁五分以上紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ二十五ポンド以上トスル外第一條ニ準ス

小學校圖書教科書ニ機械漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第一條ニ準ス但シ幾何書教科書説明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第一條ニ準ス(明治三十七年文部省告示第百三十四號ヲ以テ追加)

小學地理附圖ノ地圖用紙ニ機械漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上、白土ヲ百分ノ二十五以下トスル外第一條ニ準ス(明治四十七年文部省告示第百三十七號ヲ以テ追加)

第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス(同上)

第四條 小學校教授用掛圖ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ九分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第二條ニ準ス

小學校圖書教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ一匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ポンド以上トスル外第二條ニ準ス但シ幾何書教科書説明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第二條ニ準ス(明治三十七年文部省告示第百三十四號ヲ以テ追加)

小學地理附圖ノ地圖用紙ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ一匁七分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ポンド以上トシ松脂(ロジンサイズ)ヲ施シ白土ヲ百分ノ十五以下トスル外第二條ニ準ス(明治四十七年文部省告示第百三十七號ヲ以テ追加)

第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス(同上)

第五條

小學校教科用圖書ノ表紙ハ左ノ標準ニ依ルヘシ(明治三十七年文部省告示第百八十四號ヲ以テ本條改正)

一 用紙ノ原料ハ楮皮、三椏皮、檉皮、化學的木材纖維、藁(用紙全体ニ對シテ)ノ内ヲ擇フヘシ但シ手漉貼合紙ノ内部ニ用フルモノハ此限ニアラス(明治四十一年文部省告示第百二十七號ヲ以テ本條改正)

二 用紙ノ厚ハ機械漉紙ハ一厘六毛以上、手漉紙ハ一厘二毛以上タルヘシ(同上)

三 紙力ハ幅四分五厘長六寸五分ニテ機械漉紙ハ三十ポンド以上、手漉紙ハ三十五ポンド以上タルヘシ

四 用紙ハ松脂(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ但シ手漉貼合紙ハ此限ニアラスト雖モ澱粉糖ヲ十分ニ施シ剝離ノ虞ナキモノタルヘシ

五 用紙ハ堅實ニシテ折目ヨリ脆裂ヲ生セス表面緻密ニシテ維織ノ剝脱セサルモノタルヘシ(同上)

六 用紙ニ厚六厘以上ノ堅實ナル紙ヲ用フルトキハ前各號ニ依ラサルコトヲ得但シ其表裏ニ貼合スヘキ用紙ノ原料ハ仍第一號ノ規定ノモノタルヘシ

明治四十一年文部省告示第百二十七號附則

本標準ハ明治四十二年度用圖書ノ新ニ翻刻發行スヘキ分ヨリ施行ス但シ既ニ製造準備中ニ係ルモノハ明治四十二年度用ニ限リ從來ノ標準ニ依ルモ妨ナシ

○小學校翻刻用圖書用紙見本檢閱(明治三十六年六月六日 報)

小學校教科用圖書ヲ翻刻發行セントスル者ニシテ本年文部省告示第百七號ニ於テ示シタル教科用圖書用紙ノ標準ニ關シ疑義アル者ハ其ノ圖書ニ用フヘキ紙ノ見本ヲ文部省總務局圖書課ニ差出シ檢閲ヲ請フコトヲ得ヘシ

明治三十六年六月六日  
文部省總務局  
官房大臣  
官房長官  
明治四十二年  
四月十四日  
文部省總務局  
圖書課長  
以テ更ニ改  
書局ト改稱

○小學校教科用圖書翻刻發行許可ノ定價

尋常小學修身書	第一學年教師用	〇七五	四次	二八九
尋常小學修身書	第二學年教師用	〇七五	四次	二八九
尋常小學修身書	第三學年教師用	〇八〇	四次	二八七
尋常小學修身書	第四學年教師用	〇九五	四次	二八七
尋常小學修身書	卷六 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷五 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷四 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷三 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷二 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷一 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身掛圖	第一學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第二學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第三學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第四學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	複式編制學校教師用甲篇	一七〇	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	複式編制學校教師用乙篇	一七〇	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	卷一 兒童用	〇三五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷二 兒童用	〇四五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷三 兒童用	〇四五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷四 兒童用	〇六〇	四四	一一一
尋常小學修身掛圖	卷五 兒童用	〇六〇	四四	一一一
尋常小學修身掛圖	卷六 兒童用	〇六五	四四	二六一
尋常小學修身掛圖	複式編制學校兒童用甲篇	〇六〇	三八	一六三
尋常小學修身掛圖	複式編制學校兒童用乙篇	〇六〇	三八	一六三
尋常小學修身掛圖	第三學年兒童用	〇四五	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	第四學年兒童用	〇四五	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	新制第三學年用	〇六〇	四三	一一一
尋常小學讀本	卷一	〇七〇	四二	二八九
尋常小學讀本	卷二	〇七〇	四二	二八九
尋常小學讀本	卷三	〇七五	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷四	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷五	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷六	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷七	〇八五	四二	二八九
尋常小學讀本	卷八	〇八五	四二	二八九
尋常小學讀本	卷九	〇九〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十	〇九〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十一	一一〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十二	一一〇	四三	二二〇

尋常小學修身書	第一學年教師用	〇七五	四次	二八九
尋常小學修身書	第二學年教師用	〇七五	四次	二八九
尋常小學修身書	第三學年教師用	〇八〇	四次	二八七
尋常小學修身書	第四學年教師用	〇九五	四次	二八七
尋常小學修身書	卷六 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷五 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷四 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷三 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷二 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身書	卷一 教師用	一一〇	四次	二〇八
尋常小學修身掛圖	第一學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第二學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第三學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	第四學年	二〇〇	四次	一一一
尋常小學修身掛圖	複式編制學校教師用甲篇	一七〇	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	複式編制學校教師用乙篇	一七〇	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	卷一 兒童用	〇三五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷二 兒童用	〇四五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷三 兒童用	〇四五	四三	一一一
尋常小學修身掛圖	卷四 兒童用	〇六〇	四四	一一一
尋常小學修身掛圖	卷五 兒童用	〇六〇	四四	一一一
尋常小學修身掛圖	卷六 兒童用	〇六五	四四	二六一
尋常小學修身掛圖	複式編制學校兒童用甲篇	〇六〇	三八	一六三
尋常小學修身掛圖	複式編制學校兒童用乙篇	〇六〇	三八	一六三
尋常小學修身掛圖	第三學年兒童用	〇四五	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	第四學年兒童用	〇四五	三九	一八四
尋常小學修身掛圖	新制第三學年用	〇六〇	四三	一一一
尋常小學讀本	卷一	〇七〇	四二	二八九
尋常小學讀本	卷二	〇七〇	四二	二八九
尋常小學讀本	卷三	〇七五	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷四	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷五	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷六	〇八〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷七	〇八五	四二	二八九
尋常小學讀本	卷八	〇八五	四二	二八九
尋常小學讀本	卷九	〇九〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十	〇九〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十一	一一〇	四三	二二〇
尋常小學讀本	卷十二	一一〇	四三	二二〇





尋常小學算術書	第三學年兒童用	〇七〇	四三	一一
同	第四學年兒童用	〇七〇	四三	一一
同	第五學年兒童用	〇六五	四三	一一
同	第六學年兒童用	〇六五	四三	一一
高等小學算術書	第一學年教師用	〇八五	四四	一一
同	第二學年教師用	〇八五	四四	一一
同	新制第三學年教師用	〇九五	四二	一九六
同	第一學年兒童用	〇六五	四四	二二五
同	第二學年兒童用	〇六五	四四	二二五
同	新制第三學年兒童用	〇六五	四二	一九六
小學算術書珠算	第五學年兒童用	〇六〇	四〇	一一七
尋常小學理科書	第六學年兒童用	〇五五	四四	一一七
同	第一學年兒童用	〇五五	四四	一一七
高等小學理科書	第三學年師用	〇八〇	四三	二六一
尋常小學毛筆畫帖	第四學年兒童用	〇六〇	四三	一一
同	第五學年兒童用	〇六五	四三	一一
同	第六學年兒童用	〇七〇	四三	一一
同	第六學年男女生共用	〇八五	四三	一一

高等小學毛筆畫帖	第六學年女生用	〇八〇	四三	一一
同	第一學年男女生共用	〇五五	大正元	一一
同	第二學年男女生共用	〇八五	大正元	一一
尋常小學鉛筆畫帖	第三學年師用	〇八五	四三	一一
同	第四學年兒童用	〇六五	四三	一一
同	第五學年兒童用	〇六五	四三	一一
同	第五學年男女生共用	〇七五	四三	一一
同	第六學年男女生共用	〇八五	四三	一一
同	第六學年男女生共用	〇七五	四三	一一
高等小學鉛筆畫帖	第一學年男女生共用	〇六〇	大正元	一一
同	第二學年男女生共用	〇六五	大正元	一一
同	第一學年師用	〇七〇	四三	一一
尋常小學新定畫帖	第二學年師用	〇七〇	四三	一一
同	第三學年師用	〇七〇	四三	一一
同	第四學年師用	〇七〇	四三	一一
同	第五學年師用	〇七〇	四三	一一
同	第六學年師用	〇七〇	四三	一一

尋常小學新定書帖	第三學年兒童用	〇七〇	四三	—
同	第四學年兒童用	〇六五	四三	—
同	第五學年男生用	一〇〇	四三	—
同	第五學年女生用	〇七〇	四三	—
同	第六學年男生用	〇八〇	四三	—
同	第六學年女生用	〇六〇	四三	—
高等小學新定書帖	第一學年教師用	〇七〇	大正元	一七
同	第二學年教師用	〇六〇	四五	二〇
同	第一學年男女生共用	〇八〇	大正元	一三
同	第二學年男女生共用	〇九〇	四五	二〇
同	第三學年男女生共用	一〇五	大正元	一三
同	圖說	二〇〇	三八	九
同	小學用幾何書法	二〇〇	三八	九

○教科用圖書供給上ニ關スル件

(明治四十四年八月四日 文部大臣官房圖書課長通牒發圖第四一五八五號)

昨明治四十年文部省令第三十一號ヲ以テ教科用圖書檢定規則第二十二條ヲ追加シ供給ヲ怠ル發行者ニ制裁ヲ付スル等師範學校中學校高等女學校教科用圖書ノ供給ヲ遺憾ナカラシメンコトヲ期セシニ供給未タ全カラス之カ爲メ教授上ノ困難ヲ來スカ如キ事往々之アル趣相聞エ候就テハ本年四月學年始貴管内ニ於テ右等ノ如キ事情有之候ハ、圖書名、發行者氏名、供給遲延ノ日數等御取調御報告相成度依命此段及通牒候也

○靜岡縣小學校教科用圖書

算術	教員用	尋常 珠算教案	教師用	一冊	明治三十四年三月十七日	明治三十四年八月三十一日	金澤長吉	大澤堅治
英語	兒童用	小學英語讀本		四冊	明治三十四年三月八日訂正三版	明治三十四年三月八日	神田乃武	龜井忠一
	兒童用	New Scientific Copy Books		六冊	明治三十四年九月二十一日再版	明治三十四年九月二十三日	神田乃武	龜井忠一

(明治三十四年十二月二十八日 靜岡縣令第六十六號)

明治三十七年四月一日以後尋常小學校及高等小學校ニ於テ各學年共使用スヘキ國語科教科用圖書中讀本ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ(明治三十六年十月三十日 靜岡縣告示第三百七十七號)

明治三十八年四月一日以後小學校ニ於テ各學年共使用スヘキ修身、國語(書キ方)、算術(珠算ヲ除ク)、日本歴史、地理及圖畫ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ

明治三十四年十二月縣令第六十六號ヲ以テ定メタル小學校教科用圖書中算術(珠算ニ限ル)、理科及英語ヲ除キ其他ノ圖書ハ明治三十八年三月三十一日限り之ヲ廢止ス(明治三十七年十一月七日 靜岡縣令第五十號)

明治三十八年四月以後小學校ニ於テ使用スヘキ農業及手工ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ(明治三十八年四月十四日 靜岡縣令第二十號)

尋常小學校ニ於テ單級ノ場合及第一學年ト第二學年トヲ合セテ一學級トシ第三學年ト第四學年トヲ合

セテ一學級トシタル二學級編制ノ場合ニ於ケル修身教科用圖書左ノ通定メ明治三十九年四月一日ヨリ施行シ各學年共一時ニ之ヲ使用セシム

但シ奇數年度ニ於テ使用スルモノトス (明治三十九年二月十三日 静岡縣令第十一號)

- 文部省編纂 尋常小學修身書 複式編制學校教師用甲篇 金拾五錢
- 同 尋常小學修身掛圖 複式編制學校教師用甲篇 金壹圓八拾錢
- 同 尋常小學修身書 複式編制學校兒童用甲篇 金六錢

尋常小學校ニ於テ單級ノ場合及第一學年ト第二學年トヲ合セテ一學級トシ第三學年ト第四學年トヲ合セテ一學級トシタル二學級編制ノ場合ニ於ケル修身教科用圖書左ノ通り追加ノ分ハ明治四十年四月一日ヨリ各學年共一時ニ之ヲ使用セシム

但シ每偶數年度ニ於テ使用スルモノトス (明治三十九年十二月二十八日 静岡縣令第九十七號)

- 文部省編纂 尋常小學修身書 複式編制學校教師用乙篇 金壹圓七拾錢
- 同 尋常小學修身書 複式編制學校兒童用乙篇 金六錢

高等小學校兒童用農業教科書ヲ左ノ通採用シ明治四十一年四月一日ヨリ之レヲ施行ス (明治四十年八月三十日 静岡縣令第四十一號)

書名	冊數	著者	發行者	定價	價
小學農業書	卷二 二冊	文部	大日本圖書株式會社	卷二 金五錢五厘	五厘

高等小學校第三學年用書キ方手本左ノ通採用シ明治四十一年四月一日ヨリ之レヲ使用セシム (明治四十一年三月三十一日 静岡縣令第四十二號)

著者	書名	冊數	定價	價
文部	高等小學書キ方手本 新制第三學年用 甲種	一冊	金三錢五厘	五厘

高等小學校第三學年用書左ノ通採用シ發布ノ日ヨリ之ヲ使用セシム (明治四十一年四月十四日 静岡縣令第四十六號)

著者	書名	冊數	定價	價
文部	高等小學讀本 新制第三學年用上	一冊	金拾壹錢	錢

一小學地理 新制高等小學校第三學年用 右今回發行セラレタリ本學年度ヨリ之ヲ使用ス 文部省著作 定價金七錢五厘 (明治四十一年七月十日 静岡縣告示第二百六十五號)

○静岡縣小學校教科用圖書 (明治四十一年十月三十日 静岡縣告示第五百四十三號)

- 一 高等小學讀本 新制第三學年用下 一冊 文部省著作
- 一 小學地理附圖 高等小學校用 一冊 文部省著作

○尋常小學書キ方手本採定 (明治四十二年十二月十日 縣令第五十九號)

尋常小學書キ方手本左ノ通採用シ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ使用セシム

著作權	尋常小學書	名	冊數
文部省	尋常小學書キ方手本	甲種	十冊

○圖書教科書探定 (明治四十三年一月二十八日 縣令 第九九號)

尋常小學校用圖書教科書左ノ通探定明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ使用セシム

著者	書名	種類	別冊數
文部省	尋常小學毛筆畫帖	教師用	一冊
文部省	尋常小學毛筆畫帖	兒童用	六冊
文部省	尋常小學鉛筆畫帖	教師用	一冊
文部省	尋常小學鉛筆畫帖	兒童用	六冊
文部省	尋常小學新定畫帖	教師用	一冊
文部省	尋常小學新定畫帖	兒童用	六冊

○國定教科書使用延期ニ關スル件 (明治四十一年九月十六日 靜岡縣通牒申學第四三一六號ノ一)

修正編纂中ノ國定教科書使用延期ノ義客年六月未ニ第五〇八一號ノ一ヲ以テ及移牒置候處右ノ向四十三年四月マテ延期スルコトニ相成候ニ付來學年即明治四十二年度ニ於ケル使用教科書ハ凡テ本學年ノ通ト御承知相成度旨其筋ヨリ通牒有之候間此段及移牒候也

○小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ニ依リ圖書貼付用印紙ノ見本

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ニ依リ圖書ニ貼付スヘキ印紙ノ見本左ノ如シ(見本)  
 明治三十六年文部省告示第七十四號ハ之ヲ廢止ス但シ同告示ニ依ル印紙ニシテ現ニ存在スルモノハ各種ノ圖書ニ通シテ之ヲ使用スルコトヲ得  
 備考 明治三十六年文部省告示第七十四號ハ小學校教科用圖書翻刻發行圖書貼付用印紙ノ種類ナリ

○國定教科書供給狀況取調方ニ關スル件 (明治三十九年三月二十二日 靜岡縣通牒申學第二七二二號ノ一)

國定教科書供給狀況取調方ニ付テハ其都度及照會御報告相成居候處今後ハ別記様式ニ依リ毎年前期分ハ其年四月一日ノ現況ヲ五月十日迄ニ又後期分ハ十月一日ノ現況ヲ十一月十日迄ニ御報告相成度尤本件ハ各期ノ現況ヲ可成速ニ其ノ筋ニ報告ヲ要スル次第ニ付期限内到達候様御手運相成度依命此段及通牒候也  
 同年九月二十日午二第九二五七號ヲ以テ報告期限ヲ更正シ五月十日ヲ四月三十日トシ十一月十日ヲ十月三十一日トス

明治何年度前期(後期)分國定教科書供給狀況調	何月何日現在
圖書名	需用冊數
供給濟冊數	供給不足冊數
供給濟冊數	供給濟冊數ノ内前年以前ニ於ケル古本使用冊數



即チ後段ノ主意ニ基キ每期教科書使用ノ初期ニ於ケル狀況ニ據リ御報告相成候様致度此段爲念及通牒候也

追テ該報告書ハ一定ノ用紙ニ記載シ御報告セラレ候方相互ノ便利ト被認候ニ付前期後期共各用紙二十部宛別便ヲ以テ及御送付候將又右報告ハ從來兎角遲延スル向不尠爲メニ可成速ニ各期ノ現況ヲ調査スル點ニ於テ差支候ニ付今後一層御注意相成度此段申添候

調第一二三五號

今般文部省ニ於テ國定教科書供給上毎年前後兩期ニ於ケル狀況取調ノ爲メ一定ノ様式ニ依リ用紙調製御送付相成候趣ノ處郡市役所及各小學校ニ於テモ該調査上右ト同一ノ様式ニ依リ御取扱相成候義御便宜ト存且該調査ノ上ハ速ニ受持販賣者ニ御通告ヲ請ヒ不足冊數ノ供給等ハ遲滞ナク取計ハ申度ニ付該様式ノ用紙調製致一校當リ平均四通ノ豫定ヲ以テ左記枚數以別便御送付申上候間郡市役所ヲ始メ一般小學校(官公私立トモ)ノ御取調用ニ使用相成候様致度右ハ一應文部省へ經伺ノ上此段稟申致候也

明治四十五年三月八日

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

株式會社 國定教科書共同販賣所

靜岡縣御中

副 申

本件ノ用紙御配付ノ際追テ供給狀況御取調ノ上ハ小學校ニ於テハ其受持取次販賣所ニ郡市役所ニ於テハ其府縣特約販賣所ニ對シ自今該狀況調書御通告ノ上供給上相當御指導相成様御通達被下候

様致度隨テ從來特約販賣所ヨリ御應又ハ小學校等へ該調査方願出條例モ有之各地區々ニ涉リ居候處本件御通達ノ上ハ總テ右ニ依リ御通告ヲ受ケ候コトニ一定可爲致見込ニ有之候宜敷御諒承被下度併セテ奉願上候也

記

一 明治四十五年度 國定教科書供給狀況調用紙

通

○國定教科書供給狀況調査ノ件

(明治四十五年三月廿九日) (靜岡縣通牒學第六二五號ノ一)

曩ニ國定教科書供給狀況取調報告ノ件ニ關シ每年前期分ハ其年四月一日ノ現況ヲ四月三十日迄ニ又後期分ハ十月一日ノ現況ヲ十月三十日迄ニ報告方及通牒置候處右通牒中其年四月一日十月一日ノ現況トアルハ何レモ新ナル教科書使用ノ初期ヲ指シタル義ニ付右ノ月日ニ拘泥セズ實際學年始又ハ一學年ニ同種ノ教科書二冊ヲ使用スヘキ初期ニ於ケル景況ヲ前後二期ニ分テ御取調相成度然ラサレハ事實上教科書使用ノ初期ニ於テハ供給不足ハ僅少ナルヘキニ未タ兒童ノ需用期ニ入ラサル時ノ調査ニ屬スルヲ以テ比較的多數ノ供給不足ヲ計上スル事ニ相成調査上正確ヲ期シ難キニ付此段改通牒候也

追テ本件ニ關シ左記事項併セテ御承知相成度此段申添候也

- 一 供給狀況取調ノ上ハ小學校ニ於テハ其受持取次販賣所ニ郡市役所ニ於テハ本縣特約販賣所ニ對シ自今該狀況調書送付ノ上供給上相當指導セラレ、コト
- 二 該報告書用紙其筋ヨリ配付越ニ付貴所及學校分別便ヲ以テ送付ニ及ヒ候條右ニ記入セラレ報告又ハ通知ノコト

○國定教科書供給ニ關スル件

(大正元年九月二十日) (靜岡縣通牒學第四三六二號ノ一)

國定教科書共同販賣所ヨリ各小學校ニ於ケル教科書需用冊數ノ調査ヲ一層實際ノ供給ト投合爲致度趣旨ヲ以テ別紙寫ノ通り特約販賣所等へ通知シタル趣通知有之候條小學校長へモ可然御示シ置キ相成度此段及通牒候也(長宛市) 調第四六四八號

特約販賣所ニ於テ前後期毎ニ各小學校ニ就キ承合可相成需用冊數調査方ノ義ハ供給ニ先チ受持取次販賣所ヲシテ圖書準備上遺算ナカラシメンコトヲ計リ又學校ニ宛テ一括配給ヲナスモノニアリテハ必ス該冊數ニ依ラシムヘキ義ニ有之隨テ右ノ取調ニ關シテハ周到ノ注意ヲ加ヘ取扱上遺漏ナキヲ期スヘキ義ニ御座候從來之レカ爲メ地方廳及各小學校ニ對シテ御配慮ヲ煩シ候場合モ尠カラス候次第ニ付務テ該調査ノ効果ヲ顯著ナラシムヘキハ勿論ノ處取次販賣所中其準備ノ需用冊數ニ滿タサルモノアルモ之レカ補足ヲ爲サス途ニ供給ニ臨ミ完全ヲ缺クニ至ルモノアルカ如キハ將來本調査ノ効力ヲ傷ケ遺憾少カラサル次第ニ御座候 今回後期分圖書ノ供給ニ當リ之レカ取扱ヲ勵行シ特ニ左記ノ各項御注意被下度此段得貴意候也 大正元年八月二十六日

國定教科書特約販賣所御中

記

一 小學校ニ於テ通知ヲ發セラレタル後需用冊數中異同ヲ來スヘキトキハ必ス之ヲ受持販賣所ニ通知セラル、様豫メ學校長ニ願ヒ置クコト  
二 萬一小學校ヨリノ通知遲延スルトキハ縣廳又ハ郡市役所ニ對シ相當御配慮ヲ請フノ外受持取次

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

株式會社國定教科書共同販賣所

- 三 販賣所ヲシテ該學校ニ就キ供給上本調査ノ必要ナル事情ヲ申立テシムヘキコト
- 四 小學校ノ通知ニ係ル需用冊數中多キニ過タルカ如キ疑アルトキハ更ニ其ノ小學校ニ就キ之ヲ承合シ販賣者ヲシテ自ラ之ヲ取捨セシメサルコト
- 五 取次販賣所ノ準備スヘキ圖書ノ冊數ハ受持ニ係ル各小學校ヨリ通知セラレタル需用冊數ニ依ルノ外尙各卷トモ相當豫備冊數ヲ加ヘシムヘキコト
- 六 取次販賣所ノ供給ハ使用時期ニ迫ラサル様開始シ其不足アルモノハ使用時期前ニ於テ可成完済セシムヘキコト
- 六 小學校ヨリ通知セラレタル需用冊數中兒童ニ於テ購入シ得サル事情ノ爲メ供給ヲ延滞スル場合アルトキハ取次販賣所ハ適宜ノ方法ニ依リ供給ヲ全フスヘキ様當該校長へ稟議ヲ盡シ置クコト

調第四六四九號

前記ノ通り特約販賣所宛通牒致候間此際取次販賣所各位ニ於テモ宜敷御注意被下度此段申進候也

大正元年八月三十日

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

株式會社國定教科書共同販賣所

國定教科書取次販賣所御中

○國定小學校教科書供給方ニ關スル件

(明治三十九年六月二十五日) (靜岡縣通牒午二第(六〇八六號)ノ一)

國定小學校教科書供給方ニ付左記ノ通り今般其ノ筋ヨリ通牒有之候ニ付該趣旨洩レナク町村及學校へ徹底候様御傳示相成度此段及通牒候也

(別紙)



督九六號 (明治三十九年六月六日文部大臣官)

(房圖書課長ヨリ縣知事ヘノ通牒)

國定小學校教科書ノ供給方ニ付テハ屢御通牒致シ御配慮ヲ煩ハシ候處從來販賣者ノ販賣區域一定セサリシ爲メ一方ニ於テハ多數ノ殘本ヲ生シナカラ他方ニ於テハ不足ヲ告クル等年々供給ノ不平均ニ流ル、ノ情勢アルヲ察シ候ニ付本年度ヨリ翻刻發行者ヲシテ共同販賣所ヲ設ケシメ各地方ノ特約販賣者及取次販賣者ニ至ル迄總テ販賣區域ヲ定メ以テ供給ノ完全ヲ期セシムルコトニ致候然ルニ供給ノ完全ヲ圖ルカ爲メニハ各區域ニ於ケル各種各卷ノ需用冊數(手本、算術、國語、如キ學校ニヨリ使用セザルモ新規購入ノ冊)ヲ正確ニ承知スルノ必要有之候ニ付發行者ニ命シ各取次販賣者ヲシテ其ノ受持區域内ノ需用冊數ヲ前以テ學校又ハ郡市町村ニ就キ取調ヘシメ之ヲ基礎トシテ發行冊數ヲ取調ヘ以テ本省ノ承認ヲ受ケシムルコトニ致居候間今後各販賣者ハ自然學校郡市町村ニ右取調方ヲ申出ツヘクト存候其ノ際ニ於テ出來得ル限り正確ノ冊數ヲ取調表示相成リ候ハ、延テ發行ノ準備上違算ナク供給ノ完全ヲ期セラルヘシト相信シ候ニ付右ノ趣旨洩レナク郡市町村及學校へ徹底候様御調示相成度希望致候此段及通牒候也

○國定教科書ノ供給手續 (明治四十年八月)

(文部省)

文部省ハ國定教科書供給上ノ經驗ニ鑑ミ明治三十九年以來翻刻發行者ヲシテ地方ニ於ケル供給區域ヲ劃定シ以テ供給ノ完全ヲ計ラシメ居レリ明治三十九年度ニ供給セシメタル圖書二千四百十五萬九千冊内前期用即チ四月ヨリ九月迄用フルモノ(修身、歴史、地理、算術、畫手本ノ如ク一年一冊ニ)千五百七十三萬九千冊後期用即チ十月ヨリ翌年三月迄用フルモノ(四月ヨリ翌年三月迄用フルモノナ含ム以下同シ)千五百七十三萬九千冊用圖書千五百九十三萬六千冊ナリ而シテ今ヤ同年度後期用トシテ供給中ノモノ八百五十五萬二千冊ナリ此ノ如キ多數圖書ノ供給方法ニ關シテハ教育關係者ノ注意ヲ要スルモノアリト認ムルニ依リ其要略ヲ記載スルコト左ノ如シ

第一 翻刻教科書ノ種類及供給機關

小學校教科用圖書中修身、讀本、書キ方手本、歴史、地理、算術、畫手本ノ七種ハ所謂國定教科書ニシテ文部省ノ許可ヲ得タル十名ノ翻刻發行者ニ於テ文部省指示ノ見本ニ據リ翻刻發行スルモノナリ翻刻發行者ハ圖書供給ノ普及ヲ圖ルカ爲メ東京市日本橋區新右衛門町十六番地ニ會社(株式)國定教科書共同販賣所ナルモノヲ置キ其出張所ヲ大阪市西區京町堀通三丁目二十四番地ニ置キ以テ全國供給ノ責ニ任セシム

共同販賣所ハ道府縣廳所在地等ニ特約販賣所ヲ置キ其道府縣内ノ供給ノ責ニ任セシム而シテ特約販賣所ハ其道府縣内ノ郡市町村若クハ小學校等ニ依リ供給區域ヲ劃定シテ每區域ニ取次販賣所ヲ配置シ以テ其受持區域内ノ供給ノ普及ヲ期スルナリ

共同販賣所——特約販賣所(五十四箇所)——取次販賣所(千三百十箇所)

第二 發行並供給冊數ノ定メ方

毎年多數ノ圖書ヲ製造供給スルカ爲メハ早クヨリ毎年度需要ノ冊數ヲ推定シ以テ供給冊數ト需用冊數トノ調和ヲ圖ラサルヘカラス是ニ於テ文部省ハ毎年度道府縣ヲシテ其翌年ニ於ケル就學兒童數ヲ推定報告セシメ此推定兒童數ヲ基トシテ需要冊數ヲ定メ尙該冊數中ヨリ前年ノ實蹟ニ依リ古本使用見込冊數並ニ販賣殘本ヲ控除シ之ニ一割乃至一割五分ヲ加ヘタルモノヲ以テ翻刻發行者ノ毎年度發行スヘキ總冊數トシテ指定ス而シテ翻刻發行者ハ右指定ニ基キ各卷別ノ冊數ヲ定メ文部大臣ノ承認ヲ受ケテ之ヲ發行スルナリ

共同販賣所ハ前項文部省ノ承認ヲ經タル各卷別冊數ヲ基トシ尙道府縣ノ小學校數及就學兒童數ヲ標準トシテ道府縣毎ノ需要冊數ヲ定メ古本使用見込冊數ト販賣殘本トヲ控除シテ各特約販賣所供給區域ノ

供給冊數ヲ定メ之ヲ各特約販賣所ニ通知ス

特約販賣所ハ前項共同販賣所ノ通知冊數ヲ基トシ尙地方廳ニツキ調査シタル小學校數及各小學校ノ就學兒童數ヲ標準トシテ各取次販賣所供給區域ノ需要冊數ヲ定メ古本使用見込冊數ト前年度販賣殘本トヲ控除シテ各取次販賣所供給區域ノ供給冊數ヲ定メ之ヲ各取次販賣所ニ通知ス

第三 供給冊數ノ通知及注文時期

供給冊數ニ關シ共同販賣所ヨリ特約販賣所ニ對シ特約販賣所ヨリ取次販賣所ニ對スル通知並ニ特約販賣所ヨリ共同販賣所ニ對スル引受注文申込等ノ時期左表ノ如シ

共同販賣所ヨリ道府縣内ノ供給冊數ヲ特約販賣所ニ通知ノ時期	前	前	前	前	前	後	後	後	後
特約販賣所ヨリ引受冊數ヲ共同販賣所ニ注文申込ノ時期	前	前	前	前	前	後	後	後	後
特約販賣所ヨリ取次販賣所供給區域ノ供給冊數ヲ取次販賣所ニ通知ノ時期	前	前	前	前	前	後	後	後	後
取次販賣所ヨリ引受冊數ヲ特約販賣所ニ注文申込ノ時期	前	前	前	前	前	後	後	後	後
	八年	九年	九年	九年	十年	四年	五年	五年	六年
	月	月	月	月	月	月	月	月	月
	末	末	末	末	末	末	末	末	末
	日	日	日	日	日	日	日	日	日
	其	其	其	其	其	其	其	其	其
	日	日	日	日	日	日	日	日	日

第四 圖書ノ送達時期

共同販賣所ハ特約販賣所ノ注文申込ニ依リ前期用圖書ハ前年十一月ヨリ其年二月九日迄ニ、後期用圖書ハ六月ヨリ八月十一日迄ニ製本出來ノ順序ニ依リ之ヲ數回ニ分割シテ漸次特約販賣所ニ又ハ其販賣所ノ申込ニ依リ便宜ヲ計リ直ニ取次販賣所ニ向テ發送ス  
特約販賣所ハ取次販賣所ノ注文申込ニ依リ前期用圖書ハ前年十二月ヨリ其年三月十五日迄ニ後期用圖書ハ七月ヨリ八月末日迄ニ漸次取次販賣所ニ向テ送本ス

故ニ前期用圖書ハ三月十五日迄ニ後期用圖書ハ八月末日迄ニ全國各府縣下ニ配置セル總テノ取次販賣所ニ達シ其販賣所ニ於テ受持區域内ニ要スル圖書ノ全冊數ヲ準備シアル筈ナリ

第五 應急ノ供給

圖書需要ノ時期ニ至リ學校等ヨリノ注文ニ對シ特約販賣所又ハ取次販賣所ニ於テ萬一供給ヲ怠リタル場合アルトキハ學校又ハ町村等ヨリ圖書ノ代金(定價通りヲ)添へ直接共同販賣所ニ注文スルトキハ同所ハ速ニ其需要ニ應ジ運賃ハ同所ノ支辨ニテ直ニ送本ヲ爲スハ勿論同所ニハ常ニ十分ノ準備アルニ付何時ニテモ敏速ニ其需要ニ應ジ供給ノ期ヲ誤ラサル筈ナリ

第六 供給冊數ト注文トノ關係

供給ノ順序前述ノ如クニシテ圖書ノ普及上出來得ヘキ丈周到ノ注意ヲ拂ヘルニ拘ラス實際ニ於テ使用期ノ初ニ當リテ供給ノ十分ナラサル地方全ク無キヲ期シ難シ是レ當局者ノ常ニ苦心スル所ナリ  
抑モ國定教科書ハ從來ノ教科書ニ比シ定價極メテ低廉之ヲ他ノ商品ニ比スルモ責任ノ多キ割合ニハ概シテ薄利ナルノミナラス殘本ハ一箇年固定スルカ故ニ販賣者ハ成ルヘク販賣殘本ノ生スルヲ恐ル、ノ事情アリ之カ爲ニ特約販賣所ハ共同販賣所ニ對シ又取次販賣所ハ特約販賣所ニ對シテ注文ヲ爲スニ當リ豫メ通知ヲ受ケタル供給冊數ノ中幾分ノ削減ヲ加フル向アリ且供給冊數計算ノ一要素タル古本使用冊數ノ如キハ素ト見込ニ過キササルヲ以テ當初ノ決定冊數カ果シテ正確ナリヤ否ヤヲ保シ難シ故ニ強テ注文以外ニ引受ケシムルコトモ亦事情ノ許ササルアリ是等ノ販賣所ニ在リテハ愈々使用時期ニ臨ミ仕入冊數ニ不足ヲ告ケルヤ其ノ時々追加注文ヲ申込ミ以テ漸ク供給ノ補充ヲ計ルニヨリ文書ノ往復、圖書ノ送達ニ多少ノ日子ヲ要シ遂ニ使用ノ期ニ遅ル、コトアルヲ免レサルノ弊アルナリ此弊ヲ除クニハ特約販賣所、取次販賣所ヲシテ成ルヘク確實ニ近キ冊數ヲ取調ヘ之ニ基キ適當ノ時期ニ於テ夫々注文ヲナサシムルヨリ外ナシ而シテ之カ爲ニハ地方官衙又ハ學校等ニ於テモ該取調上常ニ注意ト便宜トヲ與

ヘラレ且供給期前ノ如キハ其準備冊數ノ不足ナキヤ否ヤニ就キ特約販賣所、取次販賣所ニ對シ十分監督指示セラレ尙不都合ノ廉アルトキハ便宜之ヲ文部省ニ通知アラシムコトヲ庶幾スル所ナリ

○國定小學校教科書供給方ニ關スル件

(大正元年九月二十日) (學第四六二號ノ一部市長宛内務部長)

國定教科書共同販賣所ヨリ各小學校ニ於ケル教科書需用冊數ノ調査ヲ一層實際ノ供給ト投合爲致度趣旨ヲ以テ別紙寫ノ通り特約販賣所等へ通知シタル趣通知有之候條小學校長へモ可然御示シ置キ相成度此段及通牒候也

調第四六四八號

特約販賣所ニ於テ前後期毎ニ各小學校ニ就キ承合可相成需用冊數調査方ノ儀ハ供給ニ先チ受持取次販賣所ヲシテ圖書準備上遺算ナカラシメシコトヲ計リ又學校ニ宛テ一括配給ヲナスモノニアリテハ必ス該冊數ニ依ラシムヘキ義ニ有之隨テ右ノ取調ニ關シテハ周到ノ注意ヲ加ヘ取扱上遺漏ナキヲ期スヘキ義ニ御座候從來之レカ爲メ地方廳及各小學校ニ對シ特ニ御配慮ヲ煩シ候場合モ尠カラズ候次第ニ付務テ該調査ノ効果ヲ顯著ナラシムヘキハ勿論ノ處取次販賣所中其準備ノ需用冊數ニ滿タサルモノアルモ之レカ補足ヲ爲ナス途ニ供給ニ臨ミ完全ヲ缺クニ至ルモノアルカ如キハ將來本調査ノ効力ヲ傷ケ遺憾少カラサル次第ニ御座候

今回後期分圖書ノ供給ニ當リ之レカ取扱ヲ勵行シ特ニ左記ノ各項御注意被下度此段得貴意候也  
大正元年八月二十六日

東京市日本橋區新右衛門十六番地

株式會社國定教科書共同販賣所

國定教科書特約販賣所御中

記

- 一 小學校ニ於テ通知ヲ發セラレタル後需用冊數中異同ヲ來スヘキトキハ必ス之ヲ受持販賣所ニ通知セラレ、様豫メ學校長ニ願ヒ置クコト
  - 二 萬一小學校ヨリノ通知遲延スルトキハ縣廳又ハ郡市役所ニ對シ相當御配慮ヲ請フノ外受持取次販賣所ヲシテ該學校ニ就キ供給上本調査ノ必要ナル事情ヲ申立テシムヘキコト
  - 三 小學校ノ通知ニ係ル需用冊數中多キニ過クルカ如キ疑アルトキハ更ニ其ノ小學校ニ就キ之ヲ承合シ販賣者ヲシテ自ラ之ヲ取捨セシメサルコト
  - 四 取次販賣所ノ準備スヘキ圖書ノ冊數ハ受持ニ係ル各小學校ヨリ通知セラレタル需用冊數ニ依ルノ外尙各卷トモ相當豫備冊數ヲ加ヘシムヘキコト
  - 五 取次販賣所ノ供給ハ使用時期ニ追ラサル様開始シ其不足アルモノハ使用時期前ニ於テ可成完済セシムヘキコト
  - 六 小學校ヨリ通知セラレタル需用冊數中兒童ニ於テ購入シ得サル事情ノ爲メ供給ヲ延滞スル場合アルトキハ取次販賣所ハ適當ノ方法ニ依リ供給ヲ全フスヘキ様當該校長へ稟議ヲ盡シ置クコト
- 調第四六四九號
- 前記ノ通り特約販賣所宛通牒致候間此際取次販賣所各位ニ於テモ宜敷御注意致被下度此段申進候也  
大正元年八月三十日

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

株式會社國定教科書共同販賣所

國定教科書取次販賣所御中

(國定教科書ニ模擬シタル出版物ノ取扱ニ關スル件) (尋常小學校ニ於ケル理科掛圖等使用ニ關スル件)

(算術書使用ニ關スル件)

### ○國定教科書ニ模擬シタル出版物ノ取扱ニ關スル件

(明治三十九年四月廿五日) (靜岡縣通牒第二四〇六七號ノ一)

近來國定算術教科書ニ對シ其ノ解答書ヲ發行セルモノ有之候處右等ノ解答書ヲ學校兒童ニ持タシムルハ固ヨリ有害ノ義ニ付既往及將來トモ文部省ニ於テ其發行ヲ許諾セラル、管無之此等偽作ニ關スル取締方モ其筋ニアリテ夫々取連ハレ居リ候趣ニ候モ御部内ニ於テカ、ル圖書ヲ學校兒童ニ購入セシムルカ如キコト無之様充分御注意相成度尙又教科書類似ノモノニシテ何々筆記帳ト稱ヘ或ハ國定教科書ニ模擬シタル出版物ヲ發賣スルモノ尠カラズ學校ニ於テ教科用書ト同一ノ取扱ヲナシ兒童ニ之カ購入ヲ強フルカ如キハ不都合ノ義ニ付相當注意セシメラレ度特ニ來牒ノ次第モ有之候條此段及通牒候也

### ○算術書使用ニ關スル件

(明治四十年六月十日) (靜岡縣通牒未二四五三二號ノ一)

今般文部省ニ於テ編纂發行相成候高等小學算術書(珠算全壹冊)ノ義ハ該書凡例ニモ記載ノ通り加法及減法ノ部ハ珠筆ヲ課スル尋常小學校ノ教師用トシテモ差支ナキ様編纂シアレハ尋常小學校ニ於テモ亦便宜本書ヲ使用シ得ル儀ニ有之候條御承知有之度爲念此段及通牒候也

### ○尋常小學校ニ於ケル理科掛圖等使用ニ關スル件

(明治四十一年八月二十七日) (靜岡縣通牒中學第四一六二號ノ一)

尋常小學校掛圖使用ニ關シ別紙ノ通其筋ヨリ通牒有之候條御傳達相成度此段及移牒候也 (別紙)

發圖一五六號 (明治四十一年八月十八日)

近來民間ニ於テ本省編纂尋常小學理科書ノ内容ニ基キ多數ノ掛圖ヲ製作シテ同書教授上ノ便ニ供スト唱ヘ之カ購入ヲ諸學校ヘ勧誘スルモノ少カラサル趣相聞ヘ候然ルニ本書ハ成ルヘク實物事實ノ觀察實驗ニヨリテ教授セラル、コトヲ目的トシ掛圖ヲ用弁サレハ教授困難ナリト認メタル教材ニ對シテハ本書中掛圖ヲ用フヘキコトヲ明記シ而シテ其掛圖ハ本省ニ於テ特ニ之ヲ製作シ以テ教授者ノ便ニ供シ居ル次第ニ候又教授ノ實際ニ當リ實物事實ト共ニ簡單ナル掛圖若クハ黑板畫ヲ用ヒテ説明スルコトハ固ヨリ必要ノ場合モ可有之候ヘ共猥リニ多數ノ掛圖ヲ使用シテ實物事實ノ取扱ヒヲ疎ニスルコトアラハ是本書編纂ノ精神ニ反スルノミナラス到底本科教授ノ目的ヲ達シ得ヘカラサル義ニ有之候間不必要ノ掛圖購入ノ爲メニ多額ノ失資ナカラシムル様御注意相成度命ニ依リ此段及通牒候也 逐テ理科教授ニ要スル實物標本器械類ノ如キモ各地ノ事情ニ從ヒテ成ルヘク容易ニ得ラル、モノヲ用ヒシムルコト本省理科書編纂ノ精神ナルニ付購入上篤ト注意セシメラル、様致度此段申添候也

### ○教科書以外ノ印刷物ヲ兒童ニ購入セシム可カラサル件

(明治四十一年九月五日) (靜岡縣通牒中學第四二五八號ノ一)

近來小學校ニ於テ片假名信號法其ノ他教科書以外ノ印刷物ヲ兒童ニ購入セシムルモノ往々有之ヤニ相聞エ候處右ハ教育上弊害尠カラズト認メ候ニ付自今右等ノ如キ不都合無之様爲念篤ト貴(郡市)内各小學校ヘ御示達相成度此段及通牒候也

## 第五章 就 學

(教科書以外ノ印刷物ヲ兒童ニ購入セシム可カラサル件)

○學齡兒童就學ニ關スル細則 (明治三十四年一月二十四日 靜岡縣令第三三號)

- 第一條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十二條ニ依リ其ノ年四月又ハ九月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ヲ調査シ其ノ入學スヘキ期日及學校ヲ定メ學齡簿編製期日後十日以内其ノ保護者ニ通知スヘシ(明治四十二年縣令第三十六號同四十四年縣令第三十八號同四十五年縣令第三十八號ヲ以テ改正)兒童保護者其ノ市町村ニ居住セサルトキハ兒童ノ現住スル家ノ戶主ニ對シテモ前項ノ通知ヲナスヘシ
- 第二條 前條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十四條ニ依リ免除若クハ猶豫ヲ請ハントスルトキハ其ノ年四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ニ就テハ二月二十日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ニ就テハ七月十日マテニ其ノ旨市町村長ニ申立ツヘシ(明治四十二年縣令第三十六號ヲ以テ改正)市町村長ハ小學校令第三十三條ニ依リ免除若クハ猶豫ヲナス必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ其ノ年四月ニ於テ就學スヘキ兒童ニ就テハ二月末日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學スヘキ兒童ニ就キテハ七月三十一日マテニ監督官廳ニ稟申スヘシ(明治四十二年縣令第三十六號ヲ以テ改正)
- 第三條 第一條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ第二條第一項ノ期日マテニ學校名若クハ教授ノ場所並教授者ノ氏名及其ノ履歷書ヲ具シ顯出スヘシ(同上)
- 市町村長ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ第二條第二項ノ期日マテニ監督官廳ニ報告スヘシ(同上)
- 第四條 第一條ノ通知ヲ受タル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十二條第二項但書ニ依リ市町村長指定以外ノ小學校ニ入學セシムトスルトキハ第二條第一項ノ期日迄ニ其旨市町村長ニ申立ツヘシ(同上)

- 第五條 第一條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十八條ニ依リ師範學校附屬小學校又ハ他市町村立小學校ニ入學セシムトスルトキハ其ノ承認書ヲ添ヘ第二條第二項ノ期日マテニ市町村長ニ届出ヘシ(明治四十二年縣令第三十六號ヲ以テ改正)
- 第六條 市町村長ハ其ノ年四月又ハ九月ニ於テ入學スヘキ兒童ノ概數ヲ二月十日又ハ七月十日マテニ關係學校長ニ通知スヘシ
- 小學校令施行規則第八十三條ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ入學兒童氏名ノ通知ハ第一號表ノ様式ニ依リ入學期日ト共ニ其ノ年四月ニ於テ入學スヘキ兒童ニツキテハ三月二十日其ノ年九月ニ於テ入學スヘキ兒童ニツキテハ八月二十日マテニ之ヲ爲スヘシ(同上)
- 第七條 市町村長ハ第一條ノ通知後三月三十一日又ハ八月三十一日マテニ其ノ年四月又ハ九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ノ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第一項ニ依リ學齡簿ニ記入スルト同時ニ前各條ノ規定ニ準シ相當ノ取扱ヲナスヘシ(同上)
- 第八條 市町村長ハ就學期間中ニアル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第二項ニ依リ其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スルト同時ニ第一條乃至第六條ノ規定ニ準シ相當取扱ヲナスヘシ
- 前項ノ兒童ニ關シ小學校令施行規則第八十一條第三項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ヲ受理シタルトキハ戶籍簿又ハ寄留届等ニ對照シ之カ精査ヲナスヘシ(同上)
- 第九條 市町村長ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル學齡兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第二項ノ規定ニ準シ取扱フヘシ
- 第十條 市町村長ハ就學中ノ兒童ニシテ其ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ小學校令施行規則第八十三條後段ノ規定ニ準シ取扱フヘシ其ノ第六條ニ依リ通知シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ



第二號表 出席簿樣式 (用紙美濃紙)

(明治三十七年縣令第十一號ヲ以テ表中改正及備考第五號削除)

月		年		治明	
日數	授業	號	番	氏	名
出 席 數	在 籍 兒 童 數	一	二	三	四
出 席 數	出 席 數	五	六	七	八
出 席 數	出 席 數	九	十	十一	十二
出 席 數	出 席 數	十三	十四	十五	十六
出 席 數	出 席 數	十七	十八	十九	二十
出 席 數	出 席 數	二十一	二十二	二十三	二十四
出 席 數	出 席 數	二十五	二十六	二十七	二十八
出 席 數	出 席 數	二十九	三十	三十一	三十二
出 席 數	出 席 數	三十三	三十四	三十五	三十六
出 席 數	出 席 數	三十七	三十八	三十九	四十
出 席 數	出 席 數	四十一	四十二	四十三	四十四
出 席 數	出 席 數	四十五	四十六	四十七	四十八
出 席 數	出 席 數	四十九	五十	五十一	五十二
出 席 數	出 席 數	五十三	五十四	五十五	五十六
出 席 數	出 席 數	五十七	五十八	五十九	六十
出 席 數	出 席 數	六十一	六十二	六十三	六十四
出 席 數	出 席 數	六十五	六十六	六十七	六十八
出 席 數	出 席 數	六十九	七十	七十一	七十二
出 席 數	出 席 數	七十三	七十四	七十五	七十六
出 席 數	出 席 數	七十七	七十八	七十九	八十
出 席 數	出 席 數	八十一	八十二	八十三	八十四
出 席 數	出 席 數	八十五	八十六	八十七	八十八
出 席 數	出 席 數	八十九	九十	九十一	九十二
出 席 數	出 席 數	九十三	九十四	九十五	九十六
出 席 數	出 席 數	九十七	九十八	九十九	一百
出 席 數	出 席 數	一百一	一百二	一百三	一百四
出 席 數	出 席 數	一百五	一百六	一百七	一百八
出 席 數	出 席 數	一百九	二百	二百一	二百二
出 席 數	出 席 數	二百三	二百四	二百五	二百六
出 席 數	出 席 數	二百七	二百八	二百九	三百
出 席 數	出 席 數	三百一	三百二	三百三	三百四
出 席 數	出 席 數	三百五	三百六	三百七	三百八
出 席 數	出 席 數	三百九	四百	四百一	四百二
出 席 數	出 席 數	四百三	四百四	四百五	四百六
出 席 數	出 席 數	四百七	四百八	四百九	五百
出 席 數	出 席 數	五百一	五百二	五百三	五百四
出 席 數	出 席 數	五百五	五百六	五百七	五百八
出 席 數	出 席 數	五百九	六百	六百一	六百二
出 席 數	出 席 數	六百三	六百四	六百五	六百六
出 席 數	出 席 數	六百七	六百八	六百九	七百
出 席 數	出 席 數	七百一	七百二	七百三	七百四
出 席 數	出 席 數	七百五	七百六	七百七	七百八
出 席 數	出 席 數	七百九	八百	八百一	八百二
出 席 數	出 席 數	八百三	八百四	八百五	八百六
出 席 數	出 席 數	八百七	八百八	八百九	九百
出 席 數	出 席 數	九百一	九百二	九百三	九百四
出 席 數	出 席 數	九百五	九百六	九百七	九百八
出 席 數	出 席 數	九百九	一千	一千一	一千二
出 席 數	出 席 數	一千三	一千四	一千五	一千六
出 席 數	出 席 數	一千七	一千八	一千九	二千
出 席 數	出 席 數	二千一	二千二	二千三	二千四
出 席 數	出 席 數	二千五	二千六	二千七	二千八
出 席 數	出 席 數	二千九	三千	三千一	三千二
出 席 數	出 席 數	三千三	三千四	三千五	三千六
出 席 數	出 席 數	三千七	三千八	三千九	四千
出 席 數	出 席 數	四千一	四千二	四千三	四千四
出 席 數	出 席 數	四千五	四千六	四千七	四千八
出 席 數	出 席 數	四千九	五千	五千一	五千二
出 席 數	出 席 數	五千三	五千四	五千五	五千六
出 席 數	出 席 數	五千七	五千八	五千九	六千
出 席 數	出 席 數	六千一	六千二	六千三	六千四
出 席 數	出 席 數	六千五	六千六	六千七	六千八
出 席 數	出 席 數	六千九	七千	七千一	七千二
出 席 數	出 席 數	七千三	七千四	七千五	七千六
出 席 數	出 席 數	七千七	七千八	七千九	八千
出 席 數	出 席 數	八千一	八千二	八千三	八千四
出 席 數	出 席 數	八千五	八千六	八千七	八千八
出 席 數	出 席 數	八千九	九千	九千一	九千二
出 席 數	出 席 數	九千三	九千四	九千五	九千六
出 席 數	出 席 數	九千七	九千八	九千九	一萬
出 席 數	出 席 數	一萬一	一萬二	一萬三	一萬四
出 席 數	出 席 數	一萬五	一萬六	一萬七	一萬八
出 席 數	出 席 數	一萬九	二萬	二萬一	二萬二
出 席 數	出 席 數	二萬三	二萬四	二萬五	二萬六
出 席 數	出 席 數	二萬七	二萬八	二萬九	三萬
出 席 數	出 席 數	三萬一	三萬二	三萬三	三萬四
出 席 數	出 席 數	三萬五	三萬六	三萬七	三萬八
出 席 數	出 席 數	三萬九	四萬	四萬一	四萬二
出 席 數	出 席 數	四萬三	四萬四	四萬五	四萬六
出 席 數	出 席 數	四萬七	四萬八	四萬九	五萬
出 席 數	出 席 數	五萬一	五萬二	五萬三	五萬四
出 席 數	出 席 數	五萬五	五萬六	五萬七	五萬八
出 席 數	出 席 數	五萬九	六萬	六萬一	六萬二
出 席 數	出 席 數	六萬三	六萬四	六萬五	六萬六
出 席 數	出 席 數	六萬七	六萬八	六萬九	七萬
出 席 數	出 席 數	七萬一	七萬二	七萬三	七萬四
出 席 數	出 席 數	七萬五	七萬六	七萬七	七萬八
出 席 數	出 席 數	七萬九	八萬	八萬一	八萬二
出 席 數	出 席 數	八萬三	八萬四	八萬五	八萬六
出 席 數	出 席 數	八萬七	八萬八	八萬九	九萬
出 席 數	出 席 數	九萬一	九萬二	九萬三	九萬四
出 席 數	出 席 數	九萬五	九萬六	九萬七	九萬八
出 席 數	出 席 數	九萬九	十萬	十萬一	十萬二
出 席 數	出 席 數	十萬三	十萬四	十萬五	十萬六
出 席 數	出 席 數	十萬七	十萬八	十萬九	十一萬
出 席 數	出 席 數	十一萬一	十一萬二	十一萬三	十一萬四
出 席 數	出 席 數	十一萬五	十一萬六	十一萬七	十一萬八
出 席 數	出 席 數	十一萬九	十二萬	十二萬一	十二萬二
出 席 數	出 席 數	十二萬三	十二萬四	十二萬五	十二萬六
出 席 數	出 席 數	十二萬七	十二萬八	十二萬九	十三萬
出 席 數	出 席 數	十三萬一	十三萬二	十三萬三	十三萬四
出 席 數	出 席 數	十三萬五	十三萬六	十三萬七	十三萬八
出 席 數	出 席 數	十三萬九	十四萬	十四萬一	十四萬二
出 席 數	出 席 數	十四萬三	十四萬四	十四萬五	十四萬六
出 席 數	出 席 數	十四萬七	十四萬八	十四萬九	十五萬
出 席 數	出 席 數	十五萬一	十五萬二	十五萬三	十五萬四
出 席 數	出 席 數	十五萬五	十五萬六	十五萬七	十五萬八
出 席 數	出 席 數	十五萬九	十六萬	十六萬一	十六萬二
出 席 數	出 席 數	十六萬三	十六萬四	十六萬五	十六萬六
出 席 數	出 席 數	十六萬七	十六萬八	十六萬九	十七萬
出 席 數	出 席 數	十七萬一	十七萬二	十七萬三	十七萬四
出 席 數	出 席 數	十七萬五	十七萬六	十七萬七	十七萬八
出 席 數	出 席 數	十七萬九	十八萬	十八萬一	十八萬二
出 席 數	出 席 數	十八萬三	十八萬四	十八萬五	十八萬六
出 席 數	出 席 數	十八萬七	十八萬八	十八萬九	十九萬
出 席 數	出 席 數	十九萬一	十九萬二	十九萬三	十九萬四
出 席 數	出 席 數	十九萬五	十九萬六	十九萬七	十九萬八
出 席 數	出 席 數	十九萬九	二十萬	二十萬一	二十萬二
出 席 數	出 席 數	二十萬三	二十萬四	二十萬五	二十萬六
出 席 數	出 席 數	二十萬七	二十萬八	二十萬九	二十一萬
出 席 數	出 席 數	二十一萬一	二十一萬二	二十一萬三	二十一萬四
出 席 數	出 席 數	二十一萬五	二十一萬六	二十一萬七	二十一萬八
出 席 數	出 席 數	二十一萬九	二十二萬	二十二萬一	二十二萬二
出 席 數	出 席 數	二十二萬三	二十二萬四	二十二萬五	二十二萬六
出 席 數	出 席 數	二十二萬七	二十二萬八	二十二萬九	二十三萬
出 席 數	出 席 數	二十三萬一	二十三萬二	二十三萬三	二十三萬四
出 席 數	出 席 數	二十三萬五	二十三萬六	二十三萬七	二十三萬八
出 席 數	出 席 數	二十三萬九	二十四萬	二十四萬一	二十四萬二
出 席 數	出 席 數	二十四萬三	二十四萬四	二十四萬五	二十四萬六
出 席 數	出 席 數	二十四萬七	二十四萬八	二十四萬九	二十五萬
出 席 數	出 席 數	二十五萬一	二十五萬二	二十五萬三	二十五萬四
出 席 數	出 席 數	二十五萬五	二十五萬六	二十五萬七	二十五萬八
出 席 數	出 席 數	二十五萬九	二十六萬	二十六萬一	二十六萬二
出 席 數	出 席 數	二十六萬三	二十六萬四	二十六萬五	二十六萬六
出 席 數	出 席 數	二十六萬七	二十六萬八	二十六萬九	二十七萬
出 席 數	出 席 數	二十七萬一	二十七萬二	二十七萬三	二十七萬四
出 席 數	出 席 數	二十七萬五	二十七萬六	二十七萬七	二十七萬八
出 席 數	出 席 數	二十七萬九	二十八萬	二十八萬一	二十八萬二
出 席 數	出 席 數	二十八萬三	二十八萬四	二十八萬五	二十八萬六
出 席 數	出 席 數	二十八萬七	二十八萬八	二十八萬九	二十九萬
出 席 數	出 席 數	二十九萬一	二十九萬二	二十九萬三	二十九萬四
出 席 數	出 席 數	二十九萬五	二十九萬六	二十九萬七	二十九萬八
出 席 數	出 席 數	二十九萬九	三十萬	三十萬一	三十萬二
出 席 數	出 席 數	三十萬三	三十萬四	三十萬五	三十萬六
出 席 數	出 席 數	三十萬七	三十萬八	三十萬九	三十一萬
出 席 數	出 席 數	三十一萬一	三十一萬二	三十一萬三	三十一萬四
出 席 數	出 席 數	三十一萬五	三十一萬六	三十一萬七	三十一萬八
出 席 數	出 席 數	三十一萬九	三十二萬	三十二萬一	三十二萬二
出 席 數	出 席 數	三十二萬三	三十二萬四	三十二萬五	三十二萬六
出 席 數	出 席 數	三十二萬七	三十二萬八	三十二萬九	三十三萬
出 席 數	出 席 數	三十三萬一	三十三萬二	三十三萬三	三十三萬四
出 席 數	出 席 數	三十三萬五	三十三萬六	三十三萬七	三十三萬八
出 席 數	出 席 數	三十三萬九	三十四萬	三十四萬一	三十四萬二
出 席 數	出 席 數	三十四萬三	三十四萬四	三十四萬五	三十四萬六
出 席 數	出 席 數	三十四萬七	三十四萬八	三十四萬九	三十五萬
出 席 數	出 席 數	三十五萬一	三十五萬二	三十五萬三	三十五萬四
出 席 數	出 席 數	三十五萬五	三十五萬六	三十五萬七	三十五萬八
出 席 數	出 席 數	三十五萬九	三十六萬	三十六萬一	三十六萬二
出 席 數	出 席 數	三十六萬三	三十六萬四	三十六萬五	三十六萬六
出 席 數	出 席 數	三十六萬七	三十六萬八	三十六萬九	三十七萬
出 席 數	出 席 數	三十七萬一	三十七萬二	三十七萬三	三十七萬四
出 席 數	出 席 數	三十七萬五	三十七萬六	三十七萬七	三十七萬八
出 席 數	出 席 數	三十七萬九	三十八萬	三十八萬一	三十八萬二
出 席 數	出 席 數	三十八萬三	三十八萬四	三十八萬五	三十八萬六
出 席 數	出 席 數	三十八萬七	三十八萬八	三十八萬九	三十九萬
出 席 數	出 席 數	三十九萬一	三十九萬二	三十九萬三	三十九萬四
出 席 數	出 席 數	三十九萬五	三十九萬六	三十九萬七	三十九萬八
出 席 數	出 席 數	三十九萬九	四十萬	四十萬一	四十萬二
出 席 數	出 席 數	四十萬三	四十萬四	四十萬五	四十萬六
出 席 數	出 席 數	四十萬七	四十萬八	四十萬九	四十一萬
出 席 數	出 席 數	四十一萬一	四十一萬二	四十一萬三	四十一萬四
出 席 數	出 席 數	四十一萬五	四十一萬六	四十一萬七	四十一萬八
出 席 數	出 席 數	四十一萬九	四十二萬	四十二萬一	四十二萬二
出 席 數	出 席 數	四十二萬三	四十二萬四	四十二萬五	四十二萬六
出 席 數	出 席 數	四十二萬七	四十二萬八	四十二萬九	四十三萬
出 席 數	出 席 數	四十三萬一	四十三萬二	四十三萬三	四十三萬四
出 席 數	出 席 數	四十三萬五	四十三萬六	四十三萬七	四十三萬八
出 席 數	出 席 數	四十三萬九	四十四萬	四十四	

學年別	尋常科(高等科)		明治何年何月兒童出席調查表		學校名	
	男	女	在籍兒童數	出席兒童數	日々出席平均數	日々缺席平均數
	計	計	計	計	計	計
第一學年						
第二學年						
第三學年						
第四學年						
第五學年						
第六學年						
合計						
授業日數						
入學兒童數						
退學兒童數						

備考  
 一 本表ハ兒童出席簿ニ基キ調製スヘシ(明治三十七年縣令第十)  
 二 日々出席平均數及日々缺席平均數ハ各延員數ヲ以テ授業日數ヲ除シ四捨五入ノ法ニヨリ單位以下二位迄ヲ算出スヘシ其ノ計又ハ合計ニ於ケル亦同シ

第三號表(丙) (用紙美濃紙) 兒童出席調查年表樣式

月次	尋常科(高等科)		明治何學年兒童出席調查年表		何々小學校	
	男	女	在籍兒童數	出席兒童數	男	女
十月						
十一月						
十二月						
一月						
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						
合計						



表	附	學	年	度	兒童出席調查年表																			
					第一學年						第二學年						第三學年							
					計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男								
年度内	三月一	日現在	兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	年度内	出席兒童數	
計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

備考

- 一 本表ハ學籍簿及月表ニ基キ調製スヘシ
- 二 本表ニハ補習科ト明記シタル欄ヲ除ク外ハ補習科ノ兒童ヲ計算セザルモノトス
- 三 三月一日現在兒童數ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セザルモノヲ除キ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ其補習科ノ兒童ニ於ケル亦同シ
- 四 附表ノ兒童數ハ四月調ノ月表ニ依リ其出席兒童數ヲ掲クヘシ(明治三十五年縣令第三十二號及第六十)
- 五 兒童、入學兒童、卒業者ノ中外國人ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 六 年度内日々出席平均數及日々缺席平均數ハ年度内各延員數ヲ年度内授業日數ヲ以テ除シ四捨五入ノ法ニヨリ單位以下二位迄ヲ掲出スヘシ
- 七 年度内出席歩合ハ年度内出席延員數及同缺席延員數ノ和ヲ以テ年度内出席延員數ヲ除シ四捨五入ノ法ニヨリ單位以下二位迄ヲ算出スヘシ計ニ於ケル亦同シ(明治三十五年縣令第六十二號ヲ以テ改正)
- 八 三月一日現在ニ於ケル學級數及其編制(男、女學年別)ヲ便宜備考欄内ニ記入スヘシ(明治三十七年縣令第十一號)ヲ以テ追加以下號數繰下
- 九 尋常高等小學校ニ在リテハ尋常科高等科ヲ各別表トスヘシ
- 十 分教場(小學校令施行規則第三十九條)ニ係ル者ハ別表トスヘシ
- 十一 兩郡ニ跨ル町村學校組合ノ設置ニ係ル高等小學校ニアリテハ學校所在地ノ郡長ニ差出シ尙他ノ郡長ヘモ差出スヘシ

第四號表(甲) (用紙美濃判) 學齡兒童調查甲號表樣式

種別	何郡市町村學齡兒童調查甲號表												計	
	學齡簿ノ年別													
就	尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者	尋常小學校ノ教科ヲ修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	尋常小學校卒業者	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
既	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計





- 五 尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者ノ中修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業者ニシテ修業年限六箇年ノ尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業者ノ欄ニ之ヲ掲ケ尙修業年限六箇年ノ尋常小學校卒業者ノ欄ニモ朱書ヲ以テ其ノ數ヲ示スヘシ
- 六 小學校令第三十三條ニ依ル者ニシテ年度内其ノ處分ナリテセザル者ヲトキハ其ノ事項ニ應ジ就學猶豫又ハ就學免除ノ部當該欄内ニ於テ朱書ヲ以テ區別シテ掲ケヘシ
- 七 學齡兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキハ之ヲ除キ一箇年未滿分明ナラサルトキハ既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ニ在リテハ就學猶豫貧窮ノ部當該欄内ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セザル者ニアリテハ其欄内ニ於テ亞刺比亞數字ヲ以テ區別シテ其ノ數ヲ掲ケヘシ
- 八 就學免除ノ欄其他ノ部ニハ小學校令第十二條ニ依リ義務免除ヲ受ケタル町村ニ居住スル兒童ニシテ不就學者ヲ掲ケヘシ
- 九 就學歩合ハ表中總計ノ欄ニ在ル數ヲ以テ就學合計ノ欄ニ在ル數ニ百ヲ乘シタルモノヲ除シ四捨五入ノ法ニヨリ單位以下二位マデヲ掲出スヘシ
- 一〇 學齡兒童年度内四月一日ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セザル者ニシテ小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置キタル市町村ニ居住スル者ニ就キテハ本表ニ準シ別表ニ調製スヘシ但シ本表ニハ別表ニ掲載シタル者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一一 備考欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙本備考第四、五、六、七ニ依リ朱書又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ掲記スヘキ事實ナキトキハ其ノ旨ヲモ記載スヘシ
- 一二 郡表ハ本様式中「學齡簿ノ年別」トアルチ「町村別」トシ「明治三十六年」等トアルチ削リ第一段ニ町、第二段ニ村、第三段ニ郡ト記入シ各合計シタル數ヲ掲ケヘシ

第四號表(乙) (用紙美濃判)

學齡兒童調查乙號表様式

備考

- 一 本表ハ甲號表ヲ準用シ「三月」トアルチ「四月」トシ「甲號表」トアルチ「乙號表」トシ「未ダ就學ノ始期ニ達セザル者」ハ「學齡兒童總計」及「年度内ニ於テ小學校令施行規則第八十一條第三項第三號ニ依リ學齡簿抹消ノモノ」ノ欄ヲ削リモノトス
- 二 甲號表備考第一、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十一、第十二ハ本表調査ニ準用ス

第五號表 兒童出席調查年表様式 (用紙美濃判)

(大正元年八月九日縣令第一號ヲ以テ表中改正)

年度		內出		內出		年度		內出	
計	男	計	女	計	女	計	男	計	女
三	月	月	月	月	月	月	月	月	月
二	月	月	月	月	月	月	月	月	月
一	月	月	月	月	月	月	月	月	月
十	月	月	月	月	月	月	月	月	月
十	月	月	月	月	月	月	月	月	月
九	月	月	月	月	月	月	月	月	月
八	月	月	月	月	月	月	月	月	月
七	月	月	月	月	月	月	月	月	月
六	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五	月	月	月	月	月	月	月	月	月
四	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三	月	月	月	月	月	月	月	月	月

附 表	翌年度 四月三 十日現 在兒童 數		第一學年 第二學年 第三學年 第四學年 第五學年 第六學年 合 計									
	計	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
備考												

備考

- 一 本表ハ第三號表(丙)備考第一、第二、第四、第七ニ準シ調製スヘシ
- 二 總授業日數ハ各學校ノ授業日數ヲ合算シタルモノヲ學校數ニテ除シタル商ヲ掲グルモノトス(全上)
- 三 兒童ノ中外國人ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
- 四 兩部ニ跨ル町村學校組合ノ設置ニ係ル高等小學校ニ關スルモノハ學校所在地ノ郡ニ於テ統計スルモノトス

○開校式日等ハ授業日數中ニ加フヘカラサル件 (明治三十六年一月十日)

明治三十四年一月縣令第三號學齡兒童就學ニ關スル細則第三號表授業日數中ニハ開校式、學校紀念式、兒童入學式、學年末證書授與式等ノ日數ハ小學校令施行規則第二十八條ノ式日ニ係ルモノト同シク之ヲ加算スヘカラサル儀ニ有之從テ當日出席又ハ欠席シタル兒童數ハ之ヲ出席延員數又ハ欠席延員數中ニ算入セス尤モ第二號表又ハ第三號表(甲)ニ當日ノ出席欠席ヲ朱書ヲ以テ記入シ後日ノ參考ニ供スル如キハ差岡無之儀ニ有之候條右部内小學校長ヘ御達相成度此段及通牒候也

(右郡市長宛)

○學齡兒童小學校以外ノ就學ノ場所ニ關スル件 (明治三十五年十月八日)

小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスル兒童就學者ニ對シテハ左ノ要件ヲ具備スルニアラサレハ認可スヘカラス

- 一 教授擔任者ハ小學校本科正教員若ハ尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スルモノタルコト
- 二 各教科目ノ程度ハ小學校令施行規則第一章第一節ノ規定ニ準據シ教科用圖書ハ本縣所定ノモノタルコト

前項ニ依リ認可シタルトキハ小學校令施行規則第八十六條ノ規定ニ依リ常ニ監督ヲ加ヘ毎年一回以上及卒業ノ際ニハ試験ヲ行フコトヲ要ス但試験ノ問題及成績ハ其都度報告スヘシ

○學齡簿整理規程 (明治三十三年十月二十日)

郡 役 所 市 役 所 町 村 役 場

學齡簿整理規程左ノ通相定ム

但明治二十九年十一月學第九五三號ハ之ヲ廢止ス

學齡簿整理規程

- 第一條 學齡簿ハ半截シタル用紙ニ依リ兒童一人ニツキ一葉ヲ充ツヘシ
- 第二條 學齡簿ハ一年毎ニ別冊(男女ノ部ヲ區別ス)トナスヘシ但シ更ニ之ヲ男女別冊トナスコトヲ得
- 第三條 小學校令施行規則第八十一條第三項ニ依リ學齡簿登載ノ兒童ヲ抹消スルニハ其ノ氏名ノ上ニ

縦ニ雙朱線ヲ畫シ其ノ事由ヲ備考欄内ニ記入スヘシ  
抹消サレタル兒童ハ便宜之ヲ冊尾ニ移スコトヲ得

學齡簿記載ノ事項ヲ加除訂正スルニ當リ既ニ記載セル事項ヲ抹消スルニハ第一項ノ例ニ準スヘシ  
第四條 學齡簿中就學義務ノ免除又ハ尋常小學校ノ教科ヲ了リタル兒童ニ就キテハ相當欄内ニ記入ノ  
外尙欄外上部ニ「免除」又ハ「卒業」ト朱記スヘシ

就學猶豫ノ兒童ニ就キテハ相當欄内ニ記入ノ外尙猶豫期間ハ「猶豫」ト朱書セル紙箋ヲ兒童氏名ノ上ニ  
貼付シ置クヘシ

學齡ヲ終リタル兒童ニ就キテハ全紙面ヘ斜ニ朱線ヲ畫スヘシ

第五條 學齡簿編綴ノ順序ハ一定ノ標準ヲ定メ每冊表紙ノ見返ニ記載シ置クヘシ

第六條 學齡簿ニハ每冊ノ始ニ別表ニ依リ作りタル學齡兒童每期現在種別表ヲ添付シ每期經過後五日  
以內ニ其ノ計數ヲ記入スヘシ

第七條 (明治四十年五月靜岡縣訓令  
甲第十三號ヲ以テ本縣創設)

附 則

第八條 従前ノ規定ニ依リ作りタル學齡簿ハ本年十一月三十日限り本規程ニ從ヒ之ヲ改綴スヘシ  
學齡簿每期現在種別表ハ前項ノ學齡簿ニ限り明治三十四年三月ノ分ヨリ記入ヲ始ムヘシ (三十四年三月  
ヲ以テ  
改正)

明治三十四年學齡簿登載  
學齡兒童每期現在種別表

明治三十四年三月現在數(男)又ハ(女)何人内〔未ダ就學ノ始期ニ達セザル學齡兒童數何人  
未ダ學齡ニ達セザル兒童數何人〕

期 別	種 別	尋常小學校ノ數 科ナ修ムル者	尋常小學校ノ數 科ナ卒ヘタル者	病 弱	貧 窮	免 除	貧 窮	其 他	總 計	前 期 トノ 比 較
明治(三十四年)四月										
明治(三十五年)三月										
明治(三十五年)四月										
明治(三十六年)三月										
明治(三十六年)四月										
明治(三十七年)三月										
明治(三十七年)四月										
明治(三十八年)三月										
明治(三十八年)四月										
明治(三十九年)三月										
明治(三十九年)四月										
明治(四十年)三月										
明治(四十年)四月										
明治(四十一年)三月										
明治(四十一年)四月										
明治(四十二年)三月										

備考

第五編 普通教育 (學齡簿整理規定)

- 一 本表ハ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ三月現在ノ分ヨリ記入ヲ始メ第九年目ノ三月マデ毎年三月及四月ニ於テ其ノ末日ノ現在數ニヨリ種別毎ニ記入スルモノトス
- 二 (一) 内ノ數字ハ明治三十四年學齡簿ノ分ニツキ例ヲ示シタルナリ
- 三 「未ダ就學ノ始期ニ達セザル學齡兒童數」中ニハ四月二日(五月)生レヨリ翌年三月三十一日(三月)生レ迄ノ兒童ヲ計入ス  
(明治三十六年訓令甲第十九號ヲ以テ改正并七學齡簿登錄學齡兒童每期現在種別表)  
(ヨリ之ヲ適用シ明治三十六年分以前ノモノニアリテハ從前ノ例(括弧内ノ通)ニ依ル)
- 四 但小學校令施行規則第二十五條ニ依ル場合ハ同條第一項ニ依ルモノハ九月二日生レヨリ翌年三月三十一日生レ迄同第二條項ニ依ルモノハ四月二日生レヨリ八月三十一日生レ迄ノ兒童ヲ計入ス  
(四十二年訓令甲第十四號ヲ以テ追加)
- 五 「未ダ學齡ニ達セザル兒童數」中ニハ四月一日(四月)生ノ兒童ヲ計入ス  
(明治三十六年訓令甲第十九號ヲ以テ改正并七學齡簿登錄學齡兒童每期現在種別表ヨリ之ヲ適用シ明治三十六年分以前ノモノニアリテハ從前ノ例(括弧内ノ通)ニ依ル)
- 六 猶豫免除ノ欄「疾病」ノ部ニハ癩癩、白癩、不具、廢疾、病弱及發育不完全ノモノヲ掲クヘシ但盲啞者ハ内譯ヲ以テ朱書スヘシ
- 七 免除ノ欄「其他」ノ部ニハ小學校令第十二條ニ依リ義務免除ヲ受ケタル町村ニ居住スル兒童ニシテ不就學者ヲ掲クヘシ
- 八 學齡兒童中一箇年未滿居所分明ナラザル者ニシテ既ニ就學ノ始期ニ達シ就學セザルモノ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ終ラズシテ年度内全ク出席セザルモノハ之ヲ不就學トシ猶豫ノ欄ニ於テ適宜ノ符合ヲ附シ區別シテ掲クヘシ(同上)
- 九 明治三十四年分以前ノ學齡簿ニ添フヘキ本表ニハ○符アル行ノ記入ヲ要セス直ニ本欄中相當ノ年次ノ行ニ於テ明治三十四年三月ノ分ヨリ記入ヲ始ムヘシ(同上ヲ以テ)
- 十 小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ル兒童ノ學齡簿ハ本表及備考中「四月」ヲ「九月」ニ「三月」ヲ「八月」トスヘシ(四十二年訓令甲第十四號ヲ以テ改正)

○雇傭セラレタル學齡兒童ノ就學ニ關シ取扱方ノ件 (明治四十五年二月一日) (靜岡縣通牒第一三號ノ二)

學齡兒童ヲ雇傭シ其ノ寄留手續ヲ履行セサル旨ノ取締方別紙ノ通各警察署長へ通牒相成候條爲參考及通牒候也  
別紙

工場主等又ハ個人ニシテ學齡兒童ヲ雇傭シ自宅又ハ宿舍ニ寄寓セシメナカラ寄留手續ヲ履行セサル向モ有之學齡兒童ノ就學出席督勵並ニ就學事務整理上支障不尠候條爾今警察官ニ於テ戸口調査ヲ施行スル等ノ際右等ノ寄留手續ヲ速ニ履行セシムル様嚴重ニ注意方可然御取計相成度依命此段及通牒候也

○學齡兒童就學督勵等ニ關スル訓令 (明治三十五年一月十七日) (靜岡縣訓令乙第一號)

郡 役 所 市 役 所 町 村 役 場  
明治三十三年度學齡兒童就學ノ歩合ハ各百中男九二、一四女七一、七六通シテ八二、七三ニシテ之ヲ前年ニ比シ男三、三四女八、七八通シテ六、三三ノ増加ヲ見タルモ女兒就學ノ歩合ハ今後益之ヲ進ムルノ必要アリ男兒就學ノ歩合ハ稍佳良ト認メ得ヘキモ其ノ日日出席ノ情況佳良ナラサルニ於テハ就學ノ成績可ナリト謂フヘカラス殊ニ女兒ニ在リテハ男兒ニ比シテ更ニ出席ノ歩合不良ナルヲ認ム就テハ來學年ニ於テハ一層就學及出席ノ歩合ヲ増進セシメ特ニ女兒就學ノ獎勵督責ニ意ヲ致スヘシ  
學齡簿ハ就學事務ニ關シ重要ナル簿冊ナルヲ以テ其ノ整理ニ關シテハ規定スル所ニ從ヒ遺漏ナカラムコトヲ期シ郡長ニ於テハ期ヲ違ヘス嚴密ニ其ノ檢閲ヲ行フヘシ

○尋常小學校年長兒童特別教授ニ關スル施設要項 (明治三十五年十二月十九日) (靜岡縣訓令甲第三十號)

郡 役 所 市 役 所  
尋常小學校年長兒童特別教授ニ關シテハ左記要項ニヨリ適宜施設セララルヘシ  
本令ニヨリ特別教授ノ施設ヲナシタルモノハ四月三十日限リ其學校名及兒童數ヲ報告スヘシ  
尋常小學校年長兒童特別教授ニ關スル施設要項

- 第一 本令ニ於テ年長兒童ト稱スルハ學齡兒童ノ年齡凡十歳以上ニシテ始メテ尋常小學校ノ教科ヲ修ムルモノ及ヒ一旦就學シタル後廢學又ハ退學シ再ヒ就學シタルモノヲ云フ
- 第二 市町村立尋常小學校ニ於テハ年長兒童ノ數一學級ヲ編制スルニ足ル場合ニハ成ルヘク別ニ其學級ヲ編制スヘシ
- 前項兒童ノ數一學級ヲ編制スルニ足ラサルトキハ他ノ兒童ト合セテ學級ヲ編制シ特別教授ヲナスコトヲ得
- 第三 特別學級ノ教授ハ必シモ正教科ノ時間内ニ於ケルヲ要セス適宜正教科時間外若クハ休日ニ於テスルモ妨ナシ
- 第四 特別學級ニ於テハ每週ノ教授時數ヲ十八時マテニ減スルコトヲ得
- 第五 特別學級ニ編制シタル兒童ノ教室ハ仮ニ之ヲ學校外ニ設クルコトヲ得
- 第六 特別學級ニ於テハ別ニ教授細目ヲ作り各教科目トモ口授又ハ掛圖等ニヨリテ教授シ兒童ニ教科書ヲ用キシメサルコトヲ得
- 第七 特別學級ノ兒童ハ其學力年齢ニヨリ隨時相當學年ニ編入シ若クハ卒業ヲ認定スルコトヲ得

○女子就學上ノ注意並裁縫教員採用方

(明治二十六年七月二十二日 文部省訓令第八號)

北海道廳 府 縣

普通教育ノ必要ハ男女ニ於テ差別アルコトナク且女子ノ教育ハ將來家庭教育ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ現在學齡兒童百人中修學者ハ五十人強ニシテ其ノ中女子ハ僅ニ十五人強ニ過キス今不就學女子ノ父兄ヲ勸誘シテ就學セシムルコトヲ怠ラサルヘキト同時ニ女子ノ爲ニ其ノ教科ヲ益々實用ニ近切ナラシメサルヘカラス裁縫ハ女子ノ生活ニ於テ最モ必要ナルモノナリ故ニ地方ノ情况ニ依リ成ルヘク小

學校ノ教科目ニ裁縫ヲ加フルヲ要ス  
裁縫ノ教員正當ノ資格アル者ヲ得難キノ場合ニ於テ一時雇員ヲ以テ之ニ充ツルモ妨ナシト雖其ノ人ノ性行ニ關シテ採用ノ際深ク注意ヲ加ヘンコトヲ要ス  
右訓令ス

第六章 檢定及免許狀

○小學校教員檢定細則

(明治四十一年二月二十一日 靜岡縣告示第六十四號)

- 第一條 試驗檢定ハ毎年一回五月ニ於テ之ヲ施行ス但シ時宜ニヨリ臨時ニ施行スルコトアルヘシ  
試驗施行ノ期日及試驗場ハ豫メ之ヲ告示ス
- 第二條 試驗檢定ヲ請フ者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類及檢定手数料ヲ添ヘ縣内小學校ノ教職ニ在ル者ハ在職地ノ郡市役所ニ縣外ニ在ル者ハ直接當廳ニ其ノ他ノ者ハ現住地ノ郡市役所ニ差出スヘシ但シ縣内小學校ノ教職ニ在ル者ハ履歷書及戶籍抄本ヲ添フルコトヲ要セス此ノ場合ニアリテハ小學校令施行規則第百十三條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ免許狀又ハ卒業証書ノ寫同則第百十四條ノ證明書ヲ有スル者ハ其ノ寫ヲ添フヘシ  
前項ノ出願期限ハ定期試驗ニ在リテハ毎年三月十五日迄トス
- 一 第二號書式ノ履歷書
- 二 戶籍吏ノ作リタル戶籍抄本
- 三 明治四十一年文部省令第三十二號第四條第三號書式ニヨル學校醫ノ身體檢查書但シ學校醫ノ設



置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ身體檢査書ヲ以テスルモ妨ケナシ

四 小學校令施行規則第四百條ノ各號ノ一ニ該當スル事實ノ有無ニ關スル本籍地市町村長ノ證明書但シ縣外ニ在ル者ニ限ル(明治四十五年二月九日縣告示第五十號ヲ以テ改正)

第三條 無試驗檢定ヲ請フ者ハ隨時出願スヘシ其ノ手續ハ前條第一項本文ニ同シ但シ縣内小學校ノ教職ニ在ル者ハ戶籍抄本ヲ添フコトヲ要セス

第四條 檢定手数料ハ教員ノ種類一種ニ付現金又ハ爲替ヲ以テ金壹圓ヲ徵收ス、既ニ納メタル手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セサルモノトス

第五條 郡市長ハ第二條及第三條ノ願書ヲ受理シタルトキハ本人ノ性行經歷ニ對スル意見書ヲ添ヘ第二條ノ出願期限後十五日以内ニ進達スヘシ

但シ縣内小學校ノ教職ニ在ル者ニ對スル意見書ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス(明治四十一年縣告示第四百三十八號、同四十五年縣告示第五十號ヲ以テ改正)

第六條 無試驗檢定ヲ出願シタル者ニシテ教員檢定委員會ニ於テ全部若クハ一部ノ試驗檢定ヲ必要ト認メラレタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願手續ヲ經スシテ次期ノ試驗檢定施行ノ際ニ於テ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニアリテハ豫メ届出ヲナスヘシ

第七條 小學校本科正教員ノ試驗科目左ノ如シ  
一 男子ニ在リテハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操、農業ノ十五科目トス

二 女子ニ在リテハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操(兵式體操ヲ關ク)ノ十五科目トス

前項ノ教育科ニツキテハ筆答、口答、實地ノ三ツニ別チテ之ヲ試驗ス但シ時宜ニヨリ口答若クハ實地ヲ省クコトアルヘシ

第八條 小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、音樂、體操(兵式體操ハ男子ニ限ル)手工ノ十一科目トシ男子ニハ農業女子ニハ裁縫ノ一科目ヲ加フ

第九條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、音樂、體操(兵式體操ハ男子ニ限ル)ノ十科目トシ女子ニハ裁縫ノ一科目ヲ加フ但シ音樂ハ當分ノ内之ヲ關ク

前項教育科ノ試驗法ハ第七條第二項ニ同シ

第十條 尋常小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操(兵式體操ハ男子ニ限ル)ノ十科目トス但シ唱歌ハ當分ノ内之ヲ關ク

第十一條 專科正教員ノ試驗ハ左ノ區別ニ依リテ之ヲ行フ  
一 筆答及實地ヲ課スルモノ  
音樂、體操、裁縫、手工、  
二 筆答及口答ヲ課スルモノ  
農業、商業(商業、英語)(明治四十五年縣告示第五十號ヲ以テ改正)

試驗科目ニ附帶シテ行フ教育ノ大要ハ筆答トシ受験科目ノ教授法ハ筆答及實地トス但シ時宜ニ依リ實地ヲ關クコトアルヘシ

第十二條 本細則規定以外ノ試驗方法及試驗成績ノ判定方法ハ檢定委員會ニ於テ之ヲ定ム  
試驗ニ合格セサルモ某科目ノ成績佳良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニツキ證明書ヲ授與ス

第十三條 試驗場ニ於ケル受験者ノ心得左ノ如シ

- 一 試驗定時二十分前迄ニ試驗場ニ參着スヘシ
- 二 書籍、紙類ヲ携帶シテ入場スルコトヲ得ス
- 三 筆、墨、小刀其ノ他試驗ニ要スル器具ハ之ヲ持參スヘシ
- 四 試驗問題ニ關シテハ一切質問スルコトヲ許サス
- 五 試驗場ニ於テハ受験者ハ總テ監督官ノ指揮命令ニ從フヘシ若シ監督官ニ於テ不都合ノ所爲アリト認ムル者アルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘク其ノ情狀ニ依リテハ既ニ差出シタル答書ヲ無効トシ且當期ニ於テハ引續キ試驗ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ
- 第十四條 不正ノ方法ニ依リ檢定ニ合格スルモ免許狀ヲ授與セス其ノ既ニ授與セル場合ニ在リテハ之ヲ沒收ス第十二條第二項ノ證明書ニツキテモ亦同シ

附 則

第十五條 本告示ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ五月ニ於ケル檢定ニ對スル出願手續ニ關スル條項ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年縣告示第五十號附則

本告示中明治四十五年五月ニ於ケル試驗檢定ニ對スル出願手續ニ關スル條項ハ公布ノ日ヨリ其ノ他ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本告示施行前ニ授與シタル英語ニカカル專科正教員ノ免許狀ハ商業ノ中英語ニカカル專科正教員ノ免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

第一號書式 (用紙美濃紙) 別記記入方心得ヲ參照シテ自筆ニテ認ムヘシ

小學校教員檢定願

住 所 (本籍地) 族籍

氏名ニハ片假名ヲ付スヘシ  
氏 名

生 年 月 日

何々教員

受 驗 地

年 月 日

右

何

某 印

知 事 宛

記 入 方 心 得

一 何々教員トアル所ニハ左ノ種別ニ從ヒ記入スヘシ

小學校本科正教員

小學校准 教 員

尋常小學校本科正教員

尋常小學校准 教 員

專科正教員(專科ノ文字ノ上ニ學科目ヲ記載スヘシ)但シ商業科ニ在リテハ商業(商業中ノ商業)(商業中ノ英語)トス

二 試驗檢定ヲ請フ者ニ在リテハ受験地ノ下ニ出願スヘキ試驗場ノ地名ヲ記入スヘシ

三 履歷書ヲ添フルコトヲ要セザル者ニ限リ住所族籍ノ次行ニ(何郡市何々學校訓導(……))等ト記スヘシ

第二號書式

履 歷 書



- 一 明治三十八年八月以降施行ノ試驗檢定出願者ニシテ軍役若クハ之ニ關スル職務ニ服スル爲試驗ヲ受クルコトヲ得サル者ハ其試驗ヲ延期ス
- 一 前項試驗ヲ延期セラレタル者ハ事故止ミタル後二箇年以内ニ施行スル試驗ノ時期ニ於テ一回當該試驗ヲ受クルコトヲ得
- 一 前項ニヨリ試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗ヲ出願シタル年月試驗ノ種類及試験ヲ受クヘキ地軍役若クハ之ニ關スル職務ニ服シタル年月日事故止ミタル年月日ヲ記シ所轄郡市役所ヲ經由シ當廳ニ申出ツヘシ
- 但軍務ニ服シタル年月日事故止ミタル年月日ニ就テハ本籍地ノ市町村長若クハ所屬部隊長ノ證明書ヲ添フヘシ

○小學校教員檢定試驗ノ證明書ヲ有シ戰時事變ニ際シ

召集セラレタル者ノ證明書ノ効力 (明治三十七年十二月二十二日 文部省令第二十二號)

小學校令施行規則第十四條ノ證明書ヲ有スルモ戰時事變ニ際シ召集セラレタル爲同條ノ期間内ニ於ケル最終試験ニ應スルコト能ハサル者ニシテ其ノ事故止ミタル後一箇年間ニ於テ試験檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試験ヲ缺ク  
本令ハ明治三十七年二月以後ニ於テ召集セラレタル者ニ之ヲ適用ス

○免許狀書式並書換手數料ニ關スル件 (明治三十六年五月十五日 靜岡縣令第三十六號)

明治三十三年 縣令第七十三號本縣小學校教員免許狀書式並書換手數料ニ關スル件左ノ通改正ス  
第一條 本縣小學校教員免許狀ノ書式ハ左ノ如シ

其一 本縣正教員又ハ准教員タルモノニ授與スルモノ

小學校教員免許狀

族 氏 籍	名	生年月日
右ハ(無)試験檢定ノ上靜岡縣管内ニ於テ(尋常)小學校(本科正)准教員タルコトヲ免許ス	靜岡縣知事位勳爵 氏	名 印
年 月 日	番 號	

其二 專科正教員タルモノニ授與スルモノ

小學校教員免許狀

族 氏 籍	名	生年月日
右ハ前記ノ何學科目ニ就キ(無)試験檢定ノ上靜岡縣管内ニ於テ專科正教員タルコトヲ免許ス	靜岡縣知事位勳爵 氏	名 印
年 月 日	番 號	

「前記ノ」下ニ學科目ノ數ヲ記入ス

其三 師範學校卒業生ニ授與スルモノ (明治四十五年縣令第十五號) (テ以テ本項及本書式改正)

小學校教員免許狀

族 氏 籍	名
靜岡縣(女子)師範學校本科第一部(第二部)卒業生	

第五編 普通教育

(小學校教員檢定手数料及免許狀書替又ハ再渡手数料收納手續)  
(小學校教員檢定試驗參考用圖書ノ件)

五ノ百九十二

生年月日

右ハ靜岡縣管内ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

靜岡縣知事位勳爵

氏

名 實

第二條 本縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ請フモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ願書ニ添ヘ納ムヘシ  
前項ノ手数料ハ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セサルモノトス  
附 則  
免許狀書式ハ本令發布後當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

○小學校教員檢定手数料及免許狀書替又ハ再渡手数料  
收納手續

(明治三十五年十月二十八日)  
(靜岡縣通牒三第百九十六號)

小學校教員檢定細則第六條ニ依リ檢定手数料ヲ收納シタルトキ及三十三年九月縣令第七十三號第二條ニ依リ書換又ハ再渡手数料ヲ收納シタルトキハ其願書ノ表面中ノ餘白ニ適宜「手数料納済」ト朱書シ收入主任認印ノ上進達相成度此段及通牒候也

(右各郡長宛)  
(備考) 縣令第七十三號ハ明治十六年縣令第三十六號ヲ以テ改正

○小學校教員檢定試驗參考用圖書ノ件

(明治三十五年六月二十一日)  
(靜岡縣通牒三第百四十三號)

小學校教員試驗檢定ノ試驗科目及其ノ程度ハ文部省令及縣令ノ規定ノ通り候處其ノ檢定ヲ受ケムトス  
ル者ノ參考ニ供スヘキ圖書ハ大凡左記ノ通り心得シメ度候條便宜御示シ相成度依命此段及通牒候也

- 一 小學校本科正教員(男) 師範學校中學校程度ノ教科書ノ類
- 一 小學校本科正教員(女) 師範學校高等女學校程度ノ教科書ノ類
- 一 尋常小學校本科正教員 師範學校簡易科、第一類講習科程度ノ教科書ノ類
- 一 小學校 准 教員 大畧前項ニ準ス
- 一 尋常小學校 准 教員 師範學校第二類講習科程度ノ教科書ノ類
- 一 小學校 專科 正教員 師範學校中學校甲種商業學校甲種農業學校等ノ程度ノ教科書ノ類但裁縫音樂及圖畫ハ女子ニ限り師範學校女子部高等女學校程度ノ教科書ノ類

以上各項ノ外現行小學校教科用圖書

(右各郡市長宛)

○小學校教員檢定試驗參考用圖書

(明治四十四年十二月二十二日)  
(靜岡縣告示第四百十六號)

小學校本科正教員檢定試驗參考書

學科	科目	圖書名	冊數	編者	發行所
修 身	(女)	師範修身教科書	全四冊	吉田靜致	寶文館
		教育修身教科書	全一冊	同	同
教 育	同	同 法制事項大要	同	同	同
		同 新編教育學教科書	同	大瀨甚太郎	金港堂
同	同	同 訂新編教育學教科書	同	小泉又造	大日本圖書株式會社
		同 訂小學校各教科教授法	同	乙竹岩造	同
同	同	同 訂近世教育史教科書	同	中島半次郎	金港堂
		同	同	同	同

第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗參考用圖書)

五ノ百九十三



第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗受験參考用圖書)

手	小學校手工教科書	甲種全部	文部省	大日本圖書株式會社
工	教師用手工教科書	丙丁四	文部省	大日本圖書株式會社
農	手工科教材及教授法	全一	岡山秀吉	寶文館
業	普通農業教科書	全上中三	草野正平	六盟館
家	小學校農業教科書	全下二	神戶昌行	大日本圖書株式會社
事(女)	教師用農業教科書	全一	宮川壽美子	元々堂
家	家事實習教科書	全二	戶野みち子	寶文館
同	訂最新家事教科書	全一	喜多見佐喜	寶文館
裁	割烹教科書	全二	堀越千代子	寶文館
縫(女)	和洋裁縫教本和服	全上二	谷田部順子	寶文館
同	尋常小學裁縫教科書	全下二	小谷野千代子	目黒書店
同	尋常小學裁縫教科書	全一	立日本大學	光風館
法	高等小學裁縫教科書	全一	私日本大學	光風館
同	學校法製經濟要義	全一	立日本大學	光風館
經	學校法製經濟要義	全一	立日本大學	光風館

右ノ外現行小學校教科用圖書  
小學校准教員檢定試驗參考書

學	教師修身教科書	卷二	吉田靜致	寶文館
科	教育修身教科書	二卷	小田泉又造	大日本圖書株式會社
目	訂小學校各教科教授法	全一	吉田岩平	光風館
國	學校國文教科書	全一	新田出	開成館
語	普通國文教科書	全一	文部省	共同販賣所
修	尋常高等小學讀本全部	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常高等小學讀本全部	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常高等小學讀本全部	全一	文部省	共同販賣所

算	小學校書キ方手本	甲種全部	藤澤利喜太郎	大日本圖書株式會社
術	算術教科書	全一	峯岸米造	六盟館
史	師範歷史教科書	全上二	文部省	共同販賣所
同	學校歷史教科書	全下二	山上萬次郎	大日本圖書株式會社
理	高等小學日本歷史	全二	小倉鈕次	共同販賣所
地	最近統合地理師範用	全一	文部省	共同販賣所
同	最近統合地理師範用	全一	文部省	共同販賣所
理	最近統合地理附圖	全一	文部省	共同販賣所
科	普通理化學	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常小學理科書	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常小學理科書	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常小學理科書	全一	文部省	共同販賣所
圖	新理科教科書(博物篇)	全一	文部省	共同販賣所
同	新定畫帖高等科教師	全一	文部省	共同販賣所
同	尋常科教師	全一	文部省	共同販賣所
音	近世樂典教科書	全一	田村虎藏	開成館
同	初等カレカン教科書	全一	同	開成館
同	小學唱歌集	全一	音樂取調掛	大日本圖書株式會社
同	新篇唱歌教授法	全一	新清次郎	共益商社
同	尋常小學唱歌	全一	文部省	共同販賣所
體	小學校體操教科書	全一	坪井支道	大日本圖書株式會社
同	各個演習教程	全一	可兒あくり	元々堂
同	步兵操典	全一	井口あくり	大日本兵書刊行會

第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗受験參考用圖書)

第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗受験參考用圖書)

手	手工科教材及教授法	同	岡山秀吉	寶文館
農	小學校農業教科書	二卷	文部省	大日本圖書株式會社
裁	尋常小學裁縫教科書	全一册	谷田部順子	目黒書店
縫(女)	尋常小學裁縫教科書	全一册	小谷野千代子	同
同	高等小學裁縫教科書	全一册	同	同

五ノ百九十八

右ノ外現行小學校教科用圖書  
尋常小學校本科正教員檢定試驗參考書

學科	書目	記號	冊數	編者名	發行所
修	師範修身教科書	二卷	二册	吉田靜致	寶文館
教	教育學教科書	全一册	一册	湯本武比古	開文社
同	改小學校各教科教授法	同	同	中澤忠太郎	開文社
同	訂心理學的科書	同	同	乙瀬岩造	大日本圖書株式會社
同	訂正小學管理法	同	同	立瀬甚太郎	金港堂
國	師範國文教科書	講習全	四册	大戸榮吉外二人	松邑三松堂
同	普通日本文典	全三册	三册	吉田彌平	光風館
同	尋常小學讀本	全十二册	十二册	新田省出	開成館
同	高等小學讀本(未發行ノ分ハ從前ノモノニヨル)	全六册	六册	文部省	共同販賣所
同	小學校書キ方手本	甲種全部	全部	同	同
算	算術教科書	上下二	二册	藤澤利喜太郎	大日本圖書株式會社
史	師範歷史教科書	全一册	一册	同	同
術	學校歷史教科書	全一册	一册	同	同

學科	書目	記號	冊數	編者名	發行所
地	尋常小學日本歷史	全一册	一册	山上萬次郎	共同販賣所
同	最近統合地理師範學校	同	同	同	同
同	同(師範學校第二、三學年用)	同	同	同	同
同	同(地理、人文ノ部ヲ除ク)	同	同	同	同
理	最近統合地理附圖	同上	同上	同上	同上
同	普通理化學	同上	同上	同上	同上
同	最理理科教科書(博物篇)	同上	同上	同上	同上
同	尋常小學理科書	同上	同上	同上	同上
同	高等小學理科書	同上	同上	同上	同上
圖	新定畫帖	五、四、三、二、一	五、四、三、二、一册	同	同
同	新定畫帖(常用)	同上	同上	同上	同上
同	小學校體操教科書	全一册	一册	坪井玄徳	大日本圖書株式會社
體	各個演習教程	全一册	一册	可兒あくり	同
同	步兵操典	同	同	井口あくり	元々堂
音	近世樂典教科書	同	同	田村虎藏	大日本兵書刊行會
同	初等オルガン教科書	同	同	同	同
同	小學唱歌集	全二册	二册	音樂取調掛	同
同	新編唱歌教授法	全一册	一册	新清次郎	大日本圖書株式會社
同	尋常小學唱歌	全一册	一册	文部省	共同販賣所
同	裁縫新教授書	全一册	一册	神田順子	大倉書店
裁	尋常小學裁縫教科書	全一册	一册	谷田部順子	同
同	尋常小學裁縫教科書	全一册	一册	小谷野千代子	目黒書店

五ノ百九十九



第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗受験參考用圖書)  
 高等小學校教員用圖書

學科	書目	編者	發行所
修身	師範修身教科書(採用) 新小學實用教授法 訂合準據實用教授法 師範國文教科書(採用) 普通國語發字法 尋常小學讀本 尋常小學書キ方手本 算術小教科書 高等小學日本歷史 實業地理教科書(日本ノ部) 中等地圖本邦ノ部 尋常小學理科書(採用) 高等小學理科書(採用) 新定畫帖(採用) 近世樂典教科書 初等オレゴン教科書	吉田靜致 立柄教俊 吉田彌平 新村出 文部省 藤澤利喜太郎 文部省 寶文館 大關久五郎 文部省 同 同 同 同 同	寶文館 目黒書店 光風館 開成館 共同販賣所 同 同 同 同 同
國語	同上	同上	同上
算術	同上	同上	同上
歷史	同上	同上	同上
地理	同上	同上	同上
理科	同上	同上	同上
圖畫	同上	同上	同上
唱歌	同上	同上	同上

右ノ外現行小學校教科用圖書  
 尋常小學校教員檢定試驗參考書

學科	書目	編者	發行所
唱歌	小學唱歌集 新編唱歌教授法 尋常小學唱歌 小學校體操教科書 各個演習教程 步兵操典	音樂取調掛 新清水郎 文部省 坪井玄道 可兒徳 井口あぐり	大日本圖書株式會社 共益商社 共同販賣所 大日本圖書株式會社 元々堂 大日本兵書刊行會

右ノ外現行小學校教科用圖書  
 小學校專科正教員檢定試驗參考書

學科	書目	編者	發行所
教育	教育學教科書 改訂各教科教授法(試驗科目ノ) 訂各教科尋常科(全部教師) 新定畫帖(高等科一、二用) 近世樂典教科書 初等オレゴン教科書 小學唱歌集 新編唱歌教授法 尋常小學唱歌 小學校體操教科書 各個演習教程 步兵操典	湯本武比古 中澤忠太郎 小泉又造 乙竹岩省 文部省 田村虎藏 田村虎藏 音樂取調掛 新清水郎 文部省 坪井玄道 可兒徳 井口あぐり	開成社 大日本圖書株式會社 共同販賣所 開成館 開成館 大日本圖書株式會社 共益商社 共同販賣所 大日本圖書株式會社 元々堂 大日本兵書刊行會

第五編 普通教育 (小學校教員檢定試驗受験參考用圖書)

第五編 普通教育 (幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則)

英	語	くろうぶりだ くろうぶ文典	三、二、四 冊	岡倉由三郎	大日本圖書株式會社
商	業	最新商業通義 改訂商業提要 最新商業簿記 新商業簿記 新商業簿記提要	全一冊	同	同
農	業	普通農業教科書 普通農業實驗法 小學校農業教科書 小學校農業教科書 小學校用手工教科書 小學校用手工教科書	同上 同上 同上 同上 同上 同上	同	同
手	工	於ける手工教授の理論及實際 實驗裁縫教授書 尋常小學裁縫教科書教師用 高等小學裁縫教科書教師用 租洋裁縫教本(租服篇) 訂裁縫教授法	同上 同上 同上 同上 同上 同上	同	同
裁	縫	同上	同上	同	同
裁	縫	同上	同上	同	同
同	同	同上	同上	同	同
同	同	同上	同上	同	同

五ノ二百二

右ノ外現行小學校教科用圖書

○幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則 (明治卅三年九月十三日 勅令第七十四號)

第一條 小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許狀ヲ授與スルハ檢定ニ合格シタルモノニ限ル(明治四十五年ヲ以テ改正)

第二條 幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員ノ檢定ハ分テ試驗檢定及無試驗檢定トシ學力性及身體ニ就キ之ヲ行フ(上同)

第三條 試驗檢定科目及程度ハ各種學校教員ニ就キテハ小學校令施行規則第百八條若クハ第百九條ノ學科程度ニ準シ其一科目若クハ數科目ニ就キ幼稚園保母ニ就キテハ同規則第百十一條若クハ第百十二條ノ學科程度ニ準シ其學科程度ヲ參酌シテ試驗ヲ行フモノトス

無試驗檢定ノ科目及程度ハ前項ノ學科程度ヲ參照シ本人ノ學力及經歷等ヲ調査シ檢定スルモノトス(上同)

第四條 明治四十一年靜岡縣告示第六十四號小學校教員檢定細則中第一條乃至第六條及第十二條乃至第十四條ハ幼稚園保母第二條第一項第三條第五條第十二條第二項第十三條及第十四條ハ小學校ニ類スル各種學校教員ノ檢定ニ之ヲ準用ス(上同)

第五條 免許狀ヲ分ツテ左ノ二種トス

各種學校教員

甲種 小學校令施行規則第百八條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

乙種 同規則第百九條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

幼稚園保母

甲種 小學校令施行規則第百十一條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

乙種 同規則第百十二條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

第六條 免許狀ノ書式ハ幼稚園保母免許狀ニツキテハ小學校准教員ニ授與スルモノヲ準用シ各種學校

第五編 普通教育 (幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則)

五ノ二百三

教員免許狀ニツキテハ小學校專科正教員ニ授與スルモノヲ準用ス

第七條 小學校令施行規則第百四條各號ハ本規則ニ依ル小學校ニ類スル各種學校教員ノ檢定及免許狀

ニ關シ左ノ通り之ヲ準用ス

一 第一號乃至第四號ニ該當スル者ハ檢定ヲ受タルコトヲ得ス

二 免許狀ヲ有スル者ニシテ第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ(明治四十年四月九日)

前項第二號ノ規定ハ幼稚園保母ノ免許狀ニ關シ之ヲ準用ス(同上)

第八條 小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シ

タルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ出願スルコトヲ得(同)

第八條ノ二 幼稚園保母ノ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スルモノニツキテハ明治三十六年靜岡縣令第

三十六號第二條ヲ準用ス(同)

附 則

第九條 従前ノ規定ニ依リ授與シタル免許狀ハ本規定ニ依ル免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

明治四十五年縣令第十四號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本年五月ニ於ケル幼稚園保母ノ試験檢定出願ニ關スル條項ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○中學校高等女學校卒業生ノ小學校教員無試験檢定ニ

關スル件(明治三十七年十月二十八日)

(靜岡縣通令三四五三號)

中學校高等女學校等ノ卒業生ニ對シ小學校教員無試験檢定ヲ行フ取扱方ニ關シ本年三月十七日付三第  
八六三號ヲ以テ及通牒置候處右ハ小學校本科正教員並ニ小學校准教員ニ關シテハ男子ハ農業又ハ手工  
ノ一ヲ修メタル經歷ヲ要シ又凡テ准教員ヲ出願スル者ニテモ六ヶ月以上本科教員タル勤務ノ經歷ヲ要  
スルコト、相改メ候外大約從來ノ例ニ依ル義ニ有之尙中學校卒業生ニ對スル專科正教員ニ對シテハ英  
語ニ限ルコト、相成候ニ付爲御心得此段申進候也

### ○臨時小學校教員第一類講習科規程ニ依リ講習ヲ修了シタ

ル中學校卒業生ノ無試験檢定取扱ニ關スル件(明治三十九年二月十五日)

(靜岡縣通令第二二二號)

明治三十六年三月縣令第十九號臨時小學校教員第一類講習科規程ニ依リ講習ヲ修了シタル中學校卒業  
生ニ對シテハ修了後一ケ年小學校ニ勤務シ其學力品行及勤務ノ成績佳良ナル者ニハ小學校本科正教員  
ノ免許狀授與可相成ニ付爲御調査ノ上該當ノ者有之候ハ、御内申相成度此段及通牒候也  
追テ明治三十八年二月縣令第五號靜岡縣師範學校小學校教員講習科規程ニ依リ修了シタル中學校卒  
業生ニ對シテモ今後本文同様ニ取扱ハル、義ト御承知有之度此段申進候也

## 第七章 職員

### ○市町村立小學校職員進退ニ關スル取扱手續(明治四十五年二月九日)

(靜岡縣訓令第六號)

郡 役 所 市 役 所

市町村立小學校職員進退ニ關スル取扱手續

第一條 市町村立小學校校長及正教員ノ任用申請書ハ第一號書式ニ依リ左ノ書類ヲ添付スヘシ (明治四十年申第四十七號ヲ以テ改正) (五年縣訓同年七月十日ヨリ施行)

- 一 履歷書第二號書式ニ依ルモノトス但シ本縣内市町村立小學校及小學校ニ類スル各種學校實業補習學校ノ學校長、正教員、准教員並幼稚園ノ園長、保母在職者ハ之ヲ要セス
- 二 俸給額ニ關スル具申書 市立小學校正教員ニ就テハ第三號書式町村立小學校正教員ニ就テハ第三號又ハ第四號書式ニ依ルモノトス但シ其ノ俸給カ市町村ノ俸給義務額又ハ一旦定マリタル俸給額以内ナルトキハ之ヲ要セス
- 三 現任郡市長ノ承諾書 其ノ郡市内在職者ニ就キテハ之ヲ要セス

第二條 市町村立小學校正教員ニシテ増俸ヲ要スルモノアルトキハ第一號書式ニ依リ郡市長之ヲ内申スヘシ但シ其ノ俸給カ市町村ノ俸給額又ハ一旦定リタル俸給額ヲ超過スルトキハ第三號又ハ第四號書式ニ依ル俸給額ニ關スル具申書ヲ添付スルヲ要ス(上同)

第三條 市町村立小學校校長及正教員ニ手當若ハ慰勞金給與ノ必要アリト認メタルトキハ郡市長其ノ額ヲ具シ内申スヘシ但シ郡長ハ豫メ管理者ノ意見ヲ徵スヘシ(上同)

第四條 市町村立小學校正教員ニシテ小學校令施行規則第二百二十二條ニ該當シ休職ヲ要スルモノアルトキハ郡市長其ノ事由ヲ具シ内申スヘシ(上同)

第五條 市町村立小學校正教員ニシテ小學校令施行規則第二百二十六條第一號又ハ第三號ニ該當シ退職ヲ要スルモノアルトキハ郡市長其ノ事由ヲ具シ内申スヘシ(上同)

第六條 市町村立小學校正教員ニシテ退職ヲ出願シタルモノアルトキハ郡市長其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ副申スヘシ

第七條 前三條ノ場合ニ於テ身體若ハ精神ノ衰弱又ハ傷痍疾病等ノ事由ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルモノトス

第八條 市町村立小學校正教員ニシテ當然休職又ハ退職トナリタルモノアルトキハ郡市長其ノ事故並年月日ヲ具シ報告スヘシ其ノ休職者ニシテ事故止ミタルトキ亦同シ(上同)

第九條 市町村立小學校准教員及代用教員ノ任用、増俸、休職、退職ハ郡市長ニ於テ遲滯ナク之ヲ報告スヘシ

第十條 市町村立小學校准教員及代用教員ノ任用、増俸ノ報告書ハ第一號書式ヲ準用シ休職、退職ノ報告書ハ第五號書式ニ據リ尚任用ノ場合ニハ左ノ書類ヲ添付シ増俸ノ場合ニハ第二條ヲ準用スルモノトス

履歷書 第二號書式ニ依ルモノトス但シ准教員ニ就テハ本縣内市町村立小學校及小學校ニ類スル各種學校、實業補習學校ノ正教員、准教員並幼稚園保母在職者、代用教員ニ就テハ本縣内市町村立小學校及小學校ニ類スル各種學校、實業補習學校並幼稚園在職者ハ之ヲ要セス

二 俸給額ニ關スル具申書 第一條第二號ニ依ルモノトス(上同)

第九條 市町村立小學校職員ニシテ死亡シタルトキハ郡市長ハ遲滯ナク其ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ報告スヘシ

第十條 第一條第二號ノ外前各條ハ小學校ニ類スル各種學校及幼稚園ノ職員ニ關シ之ヲ準用ス

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

小學校職員任用申請(小學校職員増俸内申書)

學校名	職名	勤務區別	俸給額	現在俸給	現在學校	事由	由	現職名並氏名
			見込額	並發令年月日	就職年月日			

第五編 普通教育 (市町村立小學校職員進退ニ關スル取扱手續)

五ノ二百八

明治 年 月 日

何學校訓導 某

第二號書式 (用紙美濃紙)

備考 新ニ任用スルモノナルトキハ「現在俸給並發令年月日」及「現在學校就職年月日」ハ空欄トシ増俸ノトキハ「現在學校就職年月日」ハ空欄トシ尙現職名並氏名欄ニ於ケル現職名ハ記載ニ及ハス(同上) (改正)

氏名印	
本籍	
現住所	
族籍	
生年月日	
卒業證書及許狀免狀	
任免	
學業	
賞罰	
事故	
官銜	

第三號書式

小學校ノ教員定數ニ應スル俸給負擔ノ義ニ付具申  
何市(町、村、學校組合)立何小學校ノ教員定數ニ應シ一人ニ付平均金何程支出ノ義本市(町、村、學校組合、區)會ニ於テ決議致シ候間此段具申候也

市町村長

第四號書式

小學校專科正教員(補助教員)俸給額意見具申  
何町(村、學校組合)立何小學校專科正教員(補助教員)ニ支給スヘキ俸給額金何程ト御定メ相成度此段具申候也

町村長

第五號書式(同上追加)

小學校准教員及代用教員休職退職報告書

種別	年月日	事由	由職名	氏名
休職				
退職				

○小學校教員職名變更ノ件 (明治四十五年一月二十二日) (靜岡縣通學第一五〇號)

小學校教員ニ對スル辭令書々式改定ニ就テハ右實施ノ日ヨリ尋常高等小學校ノ尋常科訓導、尋常科准訓導、尋常科代用教員ハ夫々小學校訓導、准訓導、代用教員トシ尋常科ノ勤務ヲ命セラレタルモノト心得ヘキ旨關係者ヘ御示達相成度依命此段及通牒候也

○師範學校卒業生履歷書ノ件 (明治四十五年三月九日) (靜岡縣通學第七二七號)

本縣師範學校卒業生ヲ卒業ノ際任用方申請セラレ、ニハ履歷書ヲ添付スルヲ要セサルニ付御了知相成度依命此段及通牒候也

○市町村立小學校准教員及代用教員進退ニ關スル規程 (明治四十五年二月九日) (靜岡縣令第十二號)

市町村立小學校准教員及代用教員進退ニ關スル規程

- 第一條 市町村立小學校准教員及代用教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命スルコトアルヘシ
  - 一 不具癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
  - 二 學校編制ノ都合ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ
  - 三 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

前項ノ事由ニ因ラスシテ退職ヲ命スル必要アルトキハ特別ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ  
第二條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 小學校令第四十九條第一項第一號及第二號ニ該當スヘキ罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキ

三 本縣師範學校ニ入學シタルトキ

四 退職期間滿チタルトキ

五 正教員ニ任用セラレタルトキ

六 他ノ職ヨリ兼スル者ニシテ本職ニ異動ヲ生シタルトキ

第三條 市町村立小學校代用教員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當然學校ノ廢セラレタルトキ

二 小學校令第四十九條第一項第一號及第二號ニ該當スヘキ罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキ

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四 本縣師範學校及本縣師範學校講習科又ハ別ニ定ムル規程ニ依リ設置ノ小學校教員養成所ニ入りタルトキ

五 正教員又ハ准教員ニ任用セラレタルトキ

六 他ノ職ヨリ兼スル者ニシテ本職ニ異動ヲ生シタルトキ

第四條 市町村立小學校准教員刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキハ退職ヲ命スルコトアルヘシ

ヘシ

第五條 市町村立小學校准教員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 陸海軍現役ニ服シ又ハ戰事事變ニ際シ召集セラレタルトキ

二 本縣師範學校講習科又ハ別ニ定ムル規程ニ依リ設置ノ小學校正教員養成所ニ入りタルトキ

第六條 前二條ニ依リ退職ノ期間ハ其ノ事故止ミタル後尙二箇月トス

休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 前各條ハ市町村ノ設置ニ係ル小學校ニ類スル各種學校ノ准教員及代用教員並小學校ノ本科正教員ノ資格ヲ有セサル幼稚園ノ職員ニ適用ス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年靜岡縣令第六十八號市町村立小學校准教員進退ニ關スル規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○准教員進退ニ關スル規程ニ付通牒 (明治四十五年六月八日)

志願ニ因リ兵役ニ服スル准教員取扱方ノ件左記甲號ノ通牒出ニ付乙號ノ通牒セリ

甲 號

小學校教員志願ニヨリ兵役ニ服スルモノ、取扱ニ關シテハ明治三十八年某縣知事ノ照會ニ對シ文部省普通學務局長ヨリ小學校令施行規則第二百二十七條ニヨリ取扱可然旨回答相成候趣今年九月二十一日二第四七二二號ノ一御通牒ノ次第モ有之候處小學校准教員及代用教員ニ對シテハ本年二月縣令第十二號市町村立小學校准教員及代用教員進退ニ關スル規程第五條ノ明文モ有之候ヘ共右ハ等シク前記普通學務局長回答ニ準スルモノト認メラレ候處果シテ然ラハ如何ナル條規ニヨリ取扱可然哉目下差懸リ候事項有之候ニ付至急何分ノ御指令仰度此段及御伺候也

乙 號

五月三十日甲三第四七三號ヲ以テ小學校准教員ニシテ志願ニ因リ兵役ニ服スルモノ、取扱方ニ付伺

出ノ處本件ハ市町村立小學校准教員及代用教員進退ニ關スル規程第五條ニ依ルヘキ限リニアラサルモ右ハ自己ノ便宜ト看做サス同規程第一條第二項ニ依リ退職ヲ命セラレヘキ義ニ有之候條御了知相成度本件ニ就テハ別ニ指令ニ及ハレス依命此段及通牒候也

追テ本人ヨリ入隊又ハ入團ノ故ヲ以テ退職出願ノモノニ對シテモ本文同様處理セラルヘキ義ニ有之候條爲念此段申添候也

○小學校教員進退ニ關スル手續省畧ノ件 (明治三十七年三月十九日)

明治三十三年九月訓令甲第二十六號小學校教員進退ニ關スル手續中第一號書式及第四號書式ハ時ニ必要アル場合ヲ除クノ外ハ右ニ依ラサルモ差支無之又同年十月訓令甲第二十八號疾病又ハ傷疾診斷書式モ右ニ據リ難キ特別ノ事情アル者ニ限り便宜取扱ハレ差支無之事ト定メラレ候ニ付御了知相成度依命此段及通牒候也

追テ明治三十五年九月十二日三第四八三三八六號通牒年功加俸申告書ニ具スル取調書式ハ自今「兒童就學及出席ニ關スル事項」ノ事項ヲ削リ依據相成度併セテ及通牒候也

○神職又ハ寺院住職ト小學校教員トノ兼務

ニ關スル件 (明治三十八年十月二十七日)

神職又ハ寺院住職等ト小學校教員ト交互兼務ノ儀ハ教育上障害ヲ生シ不都合少ナカラサルノミナラス明治十四年文部省達第十九號ノ次第モ有之教員ノ任務重大ニ付他ヲ顧ミス一意專念從事スヘキ儀ニ有之候間自今萬已ムヲ得サルニアラサルヨリハ兼務セシメサル様致度候條其ノ御含ミヲ以テ御申請ノ際篤ト調査ヲ遂ケ御取扱相成度此段及通牒候也

(小學校ニ類スル各種學校若シクハ幼稚園ニ代用教員又ハ代用保母ヲ採用ノ件) (市町村立小學校ニ附設セル實業補習學校、幼稚園、各種學校等ノ校長教員任用ニ係ル件) 五ノ二百十四

追テ本文神職又ハ寺院住職等ニシテ現ニ小學校教員ノ職ニ在ル者ハ漸次相當處置ヲ取り改易候様致度又今後講習生薦擧其ノ他教員養成ニ關シ選抜ノ場合ニハ特ニ御注意相成度爲念此段申添候也

○小學校ニ類スル各種學校若シクハ幼稚園ニ代用教員

又ハ代用保母ヲ採用ノ件 (明治三十九年一月十九日) (靜岡縣通牒字第二九四號)

小學校ニ類スル各種學校若クハ幼稚園ニ於テ相當資格アル教員又ハ保母ヲ得難キトキ一時無資格者ヲ以テ充用スル儀ニ就テハ別ニ明文モ無之候處右ハ小學校ニ於ケル代用教員ノ例ニ準シ貴職ヨリ各種學校ニ在リテハ代用教員幼稚園ニ在リテハ代用保母ノ名稱ヲ以テ辭令書交付可然候條御採用ノ上ハ例ニ依リ無遲滯御報告有之度依命此段及通牒候也

○市町村立小學校ニ附設セル實業補習學校、幼稚園、各種學校等ノ校長教員任用ニ係ル件 (明治四十年三月一日) (靜岡縣未二第五八五號ノ一通牒)

從來市町村立小學校ニ附設セル實業補習學校々長及教員ハ便宜本校職員中ヨリ教授シ來リ候處右ハ自ラ別種ノ學校ニ付兼任ノ辭令交付セラルヘキ儀ニ有之候條今後設置認可後ハ夫々教員ヲ選定シ俸給又ハ手當額ヲ具シ御申請相成度其ノ既設ノ學校ニ在リテハ此際該手續履行セラレ度依命此段及通牒候也 追テ市町村立小學校ニ附設セル小學校ニ類スル各種學校幼稚園盲啞學校ノ校長及園長モ兼任ノ辭令交付セララルヘキ儀ニ有之候間本文同様手續セラレ度之レニ關スル客年十二月三十日付午二第一〇五七五號通牒第二項ハ自然消滅ト御承知有之度申添候也

○尋常小學校ニ高等小學校ヲ併置シタル場合學校長ノ資格ニ關スル件 (明治四十年五月二日) (靜岡縣通牒未二第三八八六號)

尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置スルコトヲ認可セラレタル場合ニ於テ從來其ノ校長タリシモノニ對シ別ニ辭令ヲ須非サルトキハ當然該尋常高等小學校長タルモノト心得シメラレ度依命此段及通牒候也

追テ明治三十五年十月廿三日付三第四九四五號(別ニ辭令ヲ須非ス校長兼任ヲ解カレタルモノトス)通牒ハ之ヲ取消候條御了知有之度申添候也

○市町村立實業補習學校各種學校及幼稚園職員ノ職務

並服務ニ關スル件 (明治四十五年三月二十九日) (靜岡縣訓令甲第十六號)

市町村立實業補習學校各種學校及幼稚園職員ノ職務並服務ニ關シテハ明治三十三年靜岡縣訓令甲第二十九號市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則ヲ準用ス但シ本令中監督官廳ノ職務ハ郡市長之ヲ行フモノトス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村並ニ町村學校組合立實業補習學校各種學校幼稚園校長、園長及教員保母ニシテ他ノ職ヨリ兼ヌルモノ、異動ニ關スル件 (明治四十五年七月七日) (靜岡縣令第五十號)

(尋常小學校ニ高等小學校ヲ併置シタル場合學校長ノ資格ニ關スル件) 五ノ二百十五 (市町村並ニ町村學校組合立實業補習學校各種學校幼稚園校長、園長及教員保母ニシテ他ノ職ヨリ兼ヌルモノ、異動ニ關スル件)



市町村並ニ町村學校組合立實業補習學校各種學校幼稚園ノ校長園長及教員保母ニシテ他ノ職ヨリ兼ヌル者其ノ本職ニ異動ヲ生シタルトキハ辭令ヲ用井ス退職者ト見做ス  
本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○專科訓導ノ第三項勤務准訓導兼任ニ關スル件

(明治四十年十二月廿八日) (靜岡縣通牒未學第二八五號)

小學校專科訓導ニ小學校令施行規則第三十五條第三項ニ依ル勤務ノ准訓導ヲ無給ニテ兼務セシムル場  
合其教授時數明治三十四年一月本縣令第四號第三十一條ニ該當セサル時ハ申請ノ際本人ノ承諾書添付  
ニ及ハサル儀ト御承知有之度依命此段及通牒候也

追テ小學校專科訓導ニ代用教員兼務ノ認可ヲ請フ場合ニモ自今本文同様御承知相成度爲念申添候也

○專科訓導ノ第二項勤務代用教員兼任ニ關スル件

(明治四十一年二月三日) (靜岡縣通牒申學第一五六號)

專科訓導ニ第二項勤務代用教員ヲ兼ネシムル件ハ本職及兼職ノ双方受持時間ニ支障ナク且兩職務ニ曠  
廢ヲ來サ、ル場合ニ限リ當分ノ内特ニ詮議可相成度ニ付本件ノ如キ兼務ニ關シ豫メ知事ニ認可稟申ノ  
際ニハ右受持時間等ニ關シ詳細ナル取調書添付相成度依命此段及通牒候也

○小學校令施行規則第百二十七條ニヨル教員ノ休職内申方

(明治三十九年四月廿三日) (靜岡縣通牒午二第四一九六號ノ一)

小學校教員ニ對シ已ムヲ得サル事情ノ爲メ特別處分トシテ小學校令施行規則第百二十七條ニ依リ休職  
御内申可相成場合ニ關シテハ慎重ニ御調査ノ上事由ニ依リテハ可成改善ノ道ヲ講セラレ萬已ムヲ得サ  
ル場合ニ限リ處分方御内申相成候節ハ左記事項ニ就キ詳細調査ヲ遂ケ併テ本人ノ署歷添付相成度依命

此段申進候也

記

- 一 本人ノ性格
- 一 身心盛衰
- 一 學力ノ淺深
- 一 平素ノ修養
- 一 教授管理ノ狀況
- 一 勤惰
- 一 忠告善道後ノ結果
- 一 父兄感情ノ如何
- 一 勤績年數
- 一 其他參考トナルヘキ事項
- 一 校長ニ在リテハ以上ノ外尙左ノ件ヲ附加スルコト
- 一 校務ノ整否
- 一 職員統督ノ模様

○教員俸給支出義務額超過取扱ノ件

(明治三十三年十一月一日) (靜岡縣訓令丙第二六八號)

郡役所

町村立小學校本科正教員又ハ之ニ代リ一時教授スル准教員ノ任用若ハ増俸ヲ申請スル場合ニ於テ之カ  
爲ニ其ノ町村町村學校組合及其ノ區ノ當該學校ノ教員定數ニ應スル俸給支出額カ明治三十一年一月勅

令第二號第一條本文ノ義務額若ハ第二條第二項本文ニ由リテ一旦定マリタル金額ヲ超過スヘキ時ハ左記ノ様式ニ由リ之ニ對スル其町村町村學校組合及其區ノ具申書ヲ徵シ之ニ添付スヘシ  
右訓令ス

小學校ノ教員定數ニ應スル俸給負擔ノ件ニ付具申  
何町(村、學校組合)立何小學校ノ教員定數ニ應シ一人ニ付平均金何程支出ノ儀本町(村、學校組合、區)會ニ於テ決議候間此段具申候也

年 月 日  
縣 知 事 宛

町(村、學校組合)長

○高等小學校併置ノ場合在職者職名變更ノ件 (明治四十五年一月二十六日)  
尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置シタルトキハ尋常小學校ノ教員免許狀ヲ有スル本科勤務訓導又ハ准訓導ハ別ニ辭令ヲ須キス尋常科ノ勤務ヲ命セラレタルモノト見做ス

附 則  
本令ハ明治四十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十五年靜岡縣令第二十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○正教員傷痍又ハ疾病診斷書式ヲ定ムル件 (明治三十三年十月二十日)  
市町村立小學校及實業補習學校正教員休職若クハ退職ニ關シ當廳ニ差出スヘキ傷痍又ハ疾病診斷書ハ別紙書式ニ據ラシムヘシ

診斷書式用法心得

- 一 校名氏名ヲ記入スルノ他尙ホ男女ノ別ヲ記スハ往々女子ニシテ敏、章等ノ漢字ヲ使用スルモノアルニ由ル
- 二 受持科ハ本科專科ノ別ヲ記シ且專科ニ在テハ其學科名ヲ併記スヘシ
- 三 年齡ハ受傷並ニ發病當時ノ年齡ヲモ記スヘシ
- 四 體質ヲ記スニハ有用ノ文字ノミヲ殘シ不用ノ文字ヲ消スヘシ例之體質強壯ナルトキハ中等虛弱ノ四字ヲ消スカ如シ其他各項之ニ準ス
- 五 受傷ノ下「ニ於テ」ノ上ニハ其場處ヲ記入スヘシ
- 六 備考中ヘハ前掲ニ記セル他ニ尙ホ緊要ト認ムルコトアラハ記入スヘシ
- 七 主治醫ノ肩書ニ其資格ヲ付記スヘシ

疾病診斷書式

一	校名	年 齡	當 年	月	日 生
	氏 名				
二	男 別	受 持 科	年 齡	當 年	月
	女 別				
三	體 質	強 壯、	中 等、	虛 弱、	
	有 遺 傳 無 傳				
四	發 病 名	明 治	年	月	日
	曾 患 發 病 年 齡 病 名 經 過				

第五編 普通教育 (正教員傷痍又ハ疾病診斷書式ヲ定ムル件)

五	病名	
六	自覺他覺 并二局部 醫學的症 候	
七	治法	
八	經過	
九	轉歸	明治 年 月 日 全治、 半治、 不治、
十	備考	

右ノ通り診斷候也

明治 年 月 日

主治醫 宿 所 印

傷疾診斷書式

一	校名		年 齡	當 年 年 月 日 生
二	氏名		受持科	
三	體質	強壯、中等、虛弱、		
四	受傷	明治 年 月 日		
五	兇器	名稱		二於
六	種類	(切創、刺創、割創、捻、挫、等)		銳、鈍、潔、不潔、
七	位置			

六	病 狀	大小 (創縁、創面、創底、周圍、等)
七	治 法	(概要)
八	經 過	腫脹有無、發熱有無、肉芽其、不良、
九	轉 歸	明治 年 月 日 全治、 半治、 不治、
十	異 常	(麻痺、強直牽引、精神症狀、運動狀態等)
備考		

右之通り診斷候也

明治 年 月 日

主治醫 宿 所 名 印

○服務義務アル者ニ對スル診斷書作成ノ醫師ノ件 (明治三十四年五月十日 靜岡縣訓令甲第十七號)

郡 役 所 市 役 所

本縣師範學校卒業生及小學校教員講習科修了生ニシテ義務年限中ノモノ、休職若クハ退職ニ關シ當廳ニ差出スヘキ傷疾又ハ疾病診斷書ハ明治三十三年十月本縣訓令甲第二十八號ノ書式ニ據リ本縣恩給顧問醫ノ作成シタルモノタルヘシ

○同上ニ關スル件 (明治三十四年七月九日 靜岡縣通牒三第四〇七六號)

本縣師範學校卒業生及小學校教員講習科修了生ニシテ義務年限中ノモノ、休職若クハ退職ニ關シ當廳

第五編 普通教育 (服務義務アル者ニ對スル診斷書作成ノ醫師ノ件)

ニ差出スヘキ傷痍又ハ疾病診斷書ハ本年五月本縣訓令甲第十七號ニ依リ本縣恩給顧問醫ノ作成シタルモノタルヲ要スレトモ其容跡ノ如何ニ因リ恩給顧問醫ノ診斷書ヲ得難キモノト認メタル場合ハ貴官ニ於テ適當ノ醫師ヲ指定シ事由詳細申相成候様致度依命此段申進候也  
(右各郡長)

○休退職者病況届出ノ件

(明治三十五年八月二十九日) (靜岡縣令第五十八號)

市町村立小學校訓導及師範學校訓導ニシテ傷痍又ハ疾病ノ爲休職トナリタル者ハ其期間三ヶ月毎ニ其退職トナリタルモノニシテ本縣師範學校ヲ卒業シ若クハ小學校教員講習科ヲ修了シ義務年限中ノ者ハ六ヶ月毎ニ本縣恩給顧問醫ノ診斷書ヲ添ヘ師範學校訓導及義務年限中ノ者ハ知事ニ其ノ他ノ者ハ監督官廳ニ其狀況ヲ届出ツヘシ但シ本縣恩給顧問醫ノ診斷書ヲ得難キ者ハ事由ヲ具シテ届出ヲナスヘキ官廳ノ許可ヲ受ケ他ノ醫師ノ作製シタル診斷書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
(明治四十三年縣令第六十二號) (ヲ以テ改正公布ノ日ヨリ施行)

○市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則

(明治三十三年十月二十日) (靜岡縣訓令甲第二十九號)

郡役所 市役所  
町村役場 市町村立小學校

市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則左之通相定ム

第一條 小學校令施行規則第三百三十四條ニ依リ學校長ノ行フヘキ職務ノ概目左ノ如シ

一 天皇陛下

皇后陛下ノ御影奉置ニ關スルコト但シ御影ヲ拜戴セシ學校及特ニ縣知事ノ認可ヲ受ケ復寫シタル

ル御影ヲ奉藏セル學校ニ限ル

- 二 教育ニ關スル勅語ノ謄本奉置ニ關スルコト
  - 三 所屬職員ノ品行勤怠及其ノ成績ヲ監査スルコト
  - 四 各學級教科目ノ教授時間割ヲ定ムルコト
  - 五 所屬教員ノ調製シタル教案ヲ檢閱スルコト
  - 七 職務ノ範圍内ニ於テ其學校ニ施行スヘキ諸規則ヲ定ムルコト
  - 八 學校名ヲ以テスル文書ノ往復ニ關スルコト
  - 九 學校ノ印章及管鑰ヲ保管スルコト
  - 十 職員出勤簿ヲ調製スルコト
  - 十一 教育ニ關スル法律命令ヲ輯録保管スルコト
  - 十二 學校沿革誌ヲ編纂スルコト
  - 十三 校務日誌ヲ記録スルコト
  - 十四 必要ナル文書簿冊ヲ整理及保存スルコト
  - 十五 校舎内外ノ衛生ニ關スルコト
  - 十六 校舎ノ保存及取締ニ關スルコト
  - 十七 校具ヲ保管シ及其ノ整否ヲ監査スルコト
- 第二條 前條第一號乃至第九號ノ事項ヲ除クノ外ハ所屬正教員又ハ准教員ニ分掌セシムルコトヲ得
- 第三條 高等小學校長ハ小學校令施行規則第八十九號ノ規定ニ準シ學籍簿ヲ編製スヘシ高等小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ
- 第四條 學校長其ノ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ若クハ其ノ欠員ノ場合ニ於テハ上席ノ正教員又ハ准教

員之ニ代リ處理スヘシ

第五條 小學校令施行規則第百三十五條ニ依リ正教員ノ行フヘキ職務ノ概目左ノ如シ

- 一 兒童ノ教育ニ任シ其ノ學業及品行ヲ獎勵查察スルコト
  - 二 教授細目ニ基キ教案ヲ調製スルコト
  - 三 教室ノ整理及衛生ニ關スルコト
  - 四 受持學級兒童ノ出席簿ヲ整理スルコト
  - 五 教授用ノ器具器械圖書等ヲ整理スルコト
  - 六 前各號ノ外學校長ノ指揮ニ從ヒ校務ニ從事スルコト
- 第六條 學校長及教員ハ教授ノ準備其ノ他校務ニ關シ調査ヲ要スルモノアルトキハ規定ノ時間外ト雖職務ニ服スヘシ

第七條 學校長及教員ハ始業時刻十五分前ニ出校シ出勤簿ニ捺印シテ後其職ニ服スヘシ

第八條 教員傷痍疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ出校シ難キトキハ事由ヲ具シ始業時刻前ニ其ノ小學校ニ届出ツヘシ但シ傷痍疾病ニ依リ欠勤引續キ七日ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ監督官廳ニ届出ツヘシ爾后十五日毎ニ同様ノ手續ヲナスヘシ(四十二年靜岡縣訓令甲)  
第九條 教員忌服ヲ受クルトキハ郡市長ニ届出ヘシ(四十五年縣訓令甲)  
第十條 教員父母ノ墓參(忌中若ハ年回)歸省(父母看護)轉地療養若ハ私事ノ故障ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ其ノ日數及事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ轉地療養ヲ出願スル者ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十一條 學校長若シクハ所屬教員ニシテ其ノ職務上ニ關シ旅行セントスルトキハ學校長ニ於テ豫メ監督官廳ノ指揮ヲ受クヘシ(明治四十一年縣訓令甲)  
第十二條 教員ニシテ教員檢定若クハ官立學校入學試驗受験ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ市ニ在リテハ市長、町村ニ在リテハ郡長ニ届出ヘシ但シ文部省ニ於テ施行スル教員檢定若クハ官立學校入學試驗受験者ニシテ其ノ願書本縣ヲ經由セサルモノハ第十條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 教員其ノ學校休業中任地ヲ離レントスルトキハ日數及旅行先ヲ具シ監督官廳ニ届出ヘシ  
第十四條 教員ニシテ任ヲ離レントスルトキ亦同シ

第十五條 教員ニシテ轉任退職若ハ休職ヲ命セラレタルトキハ學校長兼任ノモノニ在リテハ其ノ校務ヲ後任學校長若ハ上席教員ニ其他ノ教員ニ在リテハ其ノ擔任事務及其ノ保管ニ係ル文書物品等ヲ學校長ノ指揮ニ從ヒ遲滞ナク引繼ノ手續ヲナスヘシ其ノ免職失職ノ場合ニ於ケル亦同シ

第十六條 教員轉任ヲ命セラレタルトキハ辭令書ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ赴任スヘシ  
第十七條 傷痍疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲前項ノ期間ニ赴任シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ傷痍疾病ノ場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條 教員新任及轉任ノトキハ其ノ出發及着任ノ日ヲ監督官廳ニ届出ヘシ  
第十九條 教員族籍、氏名等ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク縣知事ニ届出ヘシ(四十五年縣訓令甲)  
第二十條 小學校令施行規則第百三十八條ニ依リ縣知事ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ願書ハ郡市長ヲ經由スヘシ

第二十一條 郡市長ハ前項願書ニ對シ意見ヲ副申スヘシ  
第二十二條 學校長及教員ヨリ監督官廳ニ差出スヘキ書面ハ別段ノ規定アルモノ、外總テ當該學校及管理者ヲ經由スヘシ

第二十三條 本細則中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス(同上但書)

第五編 普通教育 (市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則)

第二十一條 (同上) (削除)

附 則

第二十二條 明治十五年四月號外達校務受渡心得明治廿四年<sup>上</sup>達學第二一七號及明治廿五年<sup>三</sup>甲第九號ハ之ヲ廢止ス

明治二十一年<sup>五</sup>訓令甲第二十七號中公立小學校教員ニ關スル規定ハ其ノ効力ヲ失フ

明治四十五年縣訓令甲第十五號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小學校長ヲ兼ヌル訓導ノ教授担任時數ノ件 (明治四十四年四月廿五日) (靜岡縣通學第二〇六七號)

市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムル規定ニ候ヘ共右小學校長ヲ兼ネタル訓導ニ在リテハ特別ノ事情アルモノ、外ハ少クトモ毎日教授時數ノ半以上ハ其ノ本務タル訓導ノ任務ヲ執リ兒童ノ教授ヲナスヘキ等ナルニ專ラ校長事務ノミニ從事シ其ノ本務タル訓導ノ職ヲ盡サ、ルモノ有之哉ニ相聞ニ候條右等心得違無之様御傳達相成度依命此段及通牒候也

○市町村立實業補習學校各種學校及幼稚園職員ノ職務並服務ニ關スル件 (明治四十五年三月二十九日) (靜岡縣訓令甲第十六號)

郡 役 所 市 役 所 町 村 役 場

市町村立實業補習學校 市町村立各種學校 市町村立幼稚園  
市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則ヲ準用ス但シ本令中監督官廳ノ職務ハ郡市長

之ヲ行フモノトス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村立小學校長及教員學校所在地外ニ

居住認可標準 (明治四十三年六月廿九日) (靜岡縣通學第二七二號ノ一)

市町村立小學校長及教員小學校令施行規則第三百三十七條但書ニ依リ當該學校所在ノ町村外ニ居住スルコトヲ認可セラル、場合ニ於テハ自今左ノ標準ニ據リ御取扱相成度依命此段及通牒候也  
追テ明治三十三年十二月一日日本縣通牒第三三六五二號通牒ハ取消相成候義ニ付御了知相成度爲念申添候也

記

- 一 當該學校所在地ヨリ一里以内ニ限ルコト
- 但特別ノ事情アルトキハ多少ノ斟酌ヲナスコトヲ得
- 一 職員中少クモ一名ハ當該學校所在地ニ居住スルモノアル場合ニ限ルコト

○小學校教員出勤簿様式ニ關スル規定 (明治四十五年六月二十八日) (靜岡縣訓令甲第三十七號)

郡 役 所	市 役 所
町 村 役 場	市 町 村 立 小 學 校
市 町 村 立 各 種 學 校	市 町 村 立 實 業 補 習 學 校
市 町 村 立 幼 稚 園	

市町村立小學校、小學校ニ類スル各種學校、實業補習學校及幼稚園職員出勤簿様式等ニ關スル規定左ノ通相定ム

市町村立小學校、小學校ニ類スル各種學校、實業補習學校及幼稚園職員出勤簿様式等ニ關スル規程

第一條 職員出勤簿ハ甲號様式ニ依リテ調製スヘシ

第二條 學校長又ハ園長ハ職員出勤簿ニ基キ乙號様式ニ依リ毎月勤務調査表ヲ作り翌月五日限リ管理シ者ヲ經由シテ町村立學校、幼稚園ニ在リテハ郡長ニ、市立學校、幼稚園ニ在リテハ知事ニ申報スヘシ

附 則

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
甲號様式

何學校(幼稚園)職員出勤簿		明治	年	月	分	職名	氏名	備考
一	日							
二	日							
三	日							
四	日							
五	日							
六	日							
七	日							
八	日							
九	日							
十	日							
十一	日							
十二	日							
十三	日							
十四	日							
十五	日							
十六	日							
十七	日							
十八	日							
十九	日							
二十	日							
廿一	日							
廿二	日							
廿三	日							
廿四	日							
廿五	日							
廿六	日							
廿七	日							
廿八	日							
廿九	日							
三十	日							
合計								

新任、轉任、休退職、死亡等ノ異動並其ノ日付等ヲ各欄考欄ニ記載スヘシ

乙號様式 (用紙美濃紙)

明治		年	月	職員勤務調査表	何學校(幼稚園)長	
出勤	出張	廢休	休暇	欠病	事故	忌引
						遲刻
						早引
						職名
						氏名
						備考
						合計

右之通申報候也

明治 年 月 日 宛 名  
新任、轉任、休退職、死亡等ノ異動並其ノ日付及遅刻、早引ノ事由等ヲ備考欄ニ記載スヘシ  
何學校(幼稚園)長 氏名

○小學校教員出勤簿様式ニ關スル規定 (明治四十五年六月二十八日 靜岡縣訓令甲第三十八號)

郡 役 所 市 役 所  
町 村 役 場 市 町 村 立 小 學 校

明治三十三年靜岡縣訓令甲第三十九號小學校教員出勤簿様式等ニ關スル規定ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ廢止ス

○盲啞學校其他各種學校等ノ職員及生徒出席調ニ關スル件 (明治三十九年二月八日 靜岡縣通牒午第二八五六號ノ二)

第五編 普通教育 (小學校教員出勤簿様式ニ關スル規定) (盲啞學校其他各種學校等ノ職員及生徒出席調ニ關スル件)

市町村立其他小學校ニ關スル各種學校幼稚園ノ職員出勤及生徒出席調査ニツキテハ明治三十三年十月縣訓令甲第二十九號第二十一條ニヨリ小學校ニ於ケルモノニ準シ御取扱相成居候ハ勿論ノ儀トハ存候ヘ共尙市町村立實業補習學校ニ關スル右取扱方ニ就キテモ當分同様御取扱相成候様致度依命此段及通牒候也

○市町村立小學校男教員服裝ニ關スル規程

(明治三十二年二月廿二日)

郡役所 市役所 市町村立小學校

市町村立小學校男教員職務上着用スヘキ服裝ニ關シ左ノ通規程ス

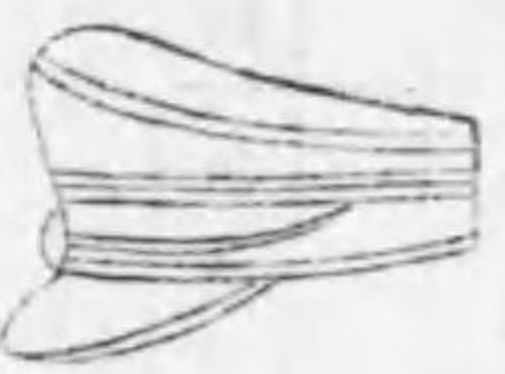
但シ明治二十八年八月甲第二十號訓令ニ依レル小學校男教員職服ハ當分ノ内着用スルコトヲ得

一 フロツクコート又ハ春廣

但春廣上衣ハ黒又紺色ニ限ル夏ハ上衣袴トモ白、鼠又ハ霜降地ヲ用井ルコトヲ得 (明治三十六年訓令甲第十一號ヲ以テ但書改正)

一 帽黒山高

但春廣着用ノ場合ニ限リ地質黒羅紗ニシテ左圖雛形ノ帽ニ櫻花ノ徽章ヲ付シタルモノヲ用井ルハ妨ケナシ



圖形ニシテ黒革ノ眉庇ヲ附シタルモノ

(備考) 本訓令ニ依リ明治二十八年八月甲第二十號訓令ニ依リ明治二十八年八月通規程案實式ニ載服着用不著作ハ自然消滅

○代用教員辭令書式 (明治三十四年三月三十日)

(靜岡縣訓令甲第十號)

郡役所 市役所

市町村立小學校代用教員採用解職之場合ハ別紙雛形ニ準シ辭令ヲ交付スヘシ

但シ俸給辭令ハ増俸ノ場合ニ限リ用フルモノトス (明治四十一年縣訓令甲第四十一號ヲ以テ改正)

四五、一、  
三學第八二  
號通規ニヨ  
辭令樣式  
改正

某部某尋常(尋常高等)(高等)小學校代用教員ヲ命ス

但小學校令施行規則第三十五條第二(三)項(第三十六條)ニ依リ勤務スル准教員ノ代用

給何級上(下)俸(同上)  
年月日 某郡(市)役所

某部某尋常高等小學校尋常科代用教員ヲ命ス

但小學校令施行規則第三十五條第二(三)項(第三十六條)ニ依リ勤務スル准教員ノ代用

給何級上(下)俸(同上)  
年月日 某郡(市)役所

某校(某科)代用教員 何 某

給何級上(下)俸  
年月日

某郡(市)役所

某校(某科)代用教員 何 某

依願解職  
年月日

某郡(市)役所



(備考) 五級下俸ヲ受ケルモノニシテ其額八圓未滿ナルトキハ金何圓給與ト腹書スルモノトス(上同)

○代用教員在職者繼續ニ關スル件 (明治四十五年二月九日 縣令第十三號)

明治四十五年三月三十一日ニ於テ市町村立小學校代用教員ノ職ニ在ル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルモノハ明治四十四年文部省令第二十四號施行ノ際同一ノ俸給ヲ以テ同令第六十八條ニ依リ採用セラレタルモノト見做ス

前項ノ規定ハ小學校ニ類スル各種學校ノ代用教員並相當免許狀ヲ有セサル幼稚園ノ保姆ニ準用ス

○小學校教員心得 (明治十四年文部省達第十(九號) 同年靜岡縣號外達)

町村立小學校教員

小學校教員心得別冊ノ通文部卿ヨリ頒布相成候ニ付テハ能ク其旨趣ヲ體シ教員ノ本分ヲ誤ラサル様可致因テ一部宛交付候條此旨相達候事

小學校教員心得

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者宜ク深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其ノ恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ揭示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

明治十四年六月

人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊

文部卿 福岡 孝 悌

ニ道德ノ教育ニカヲ用ヒ生徒ヲシテ皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重シスル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ德性ニ薰染シ善行ニ感化セシメンコトヲ務ムヘシ

智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ材能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲メナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ

身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舎ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ

鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカラサルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心下ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ倫安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能ク

スヘキ所ニアラサレハナリ  
學校管理上ニ缺クヘカラサル快活ノ氣象ハ心神萎靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ缺クヘカラサル許多ノ勞力ハ身體孱弱アル者ノ能ク專耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サンコトヲ務ムヘシ

教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲クル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ランコトヲ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ倏チ教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ  
教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ依リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨センコトヲ務ムヘシ否ラサ

レハ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ

師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概テ其ノ一様子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タルモノハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利害ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用センコトヲ務ムヘシ

人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通センコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令孜々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ルハコト能ハサルナリ

學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法、務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス

校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス

熟練懇切匪勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラス美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ

學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅忍耐威重懲勉勵等ノ諸德ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス

生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラシムルヲ要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗

教上ニ涉リ執拗播激ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス

人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俊タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルコト能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至沖ニシテ外物ノ爲ニ感染セラレハコト極テ鋭敏ナレハナリ

教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

○小學校教員優遇ニ關スル件 (明治四十四年十二月二日 縣訓令甲第三十二號)

郡 役 所

今般勅令第二百七十三號ヲ以テ小學校長及教員名稱及待遇中ニ改正ヲ加ヘラレ市町村立小學校長ニシテ功勞顯著ナル者ニハ特ニ委任文官ト同一ノ待遇ヲ賜フコトナレリ是レ小學校教員任務ノ極メテ重大ナルニ顧ミ特ニ優遇ノ意ヲ明ニセラレタルニ外ナラサルヘシ部長ハ宜シク小學校長及教員ヲシテ勅令改正ノ趣旨ヲ體シ一層奮勵シテ其ノ本分ヲ盡シ以テ小學校教育ノ實績ヲ舉ケンコトヲ期セシメラルヘシ

○小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締方 (明治二十八年四月廿七日 文部大臣訓令)

東 京 府

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ラ

ニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨クルコト尠カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是又生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラス候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ  
小學校教員宅教授及生徒贈遺ノ件ニ關シ別記ノ通東京府(訓令相成候條自然費(府)(縣)(校)ニ於テ右條ノ儀有之候ハ同ク御取締相成度命ニ依リ此段及御通候也

各地方長官(東京府ナ除ク)  
兩高等師範學校長

普通學務局長

○東京盲啞學校教員練習科卒業生服務規則

(明治三十六年三月六日)  
文部省令第七號

東京盲啞學校教員練習科卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
第一條 東京盲啞學校教員練習科生徒ハ卒業ノ日ヨリ二箇年間文部大臣ノ指定ニ從ヒ盲啞ノ教育ニ從事スル義務アルモノトス  
第二條 前條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故生シタルトキハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得  
第三條 第一條ノ義務ヲ盡サル者アルトキハ在學中給與シタル學資ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシム但シ前條ニ依リ義務ヲ免除セラレタル者ハ學資ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

○小學校教員志願ニ依リ兵役ニ服スル者ノ取扱方ニ關スル件

發二第一五四〇號(明治三十八年九月七日)  
某縣知事照會

小學校教員ニシテ陸海軍現役ニ服シタル者ハ當然休職者タルハ小學校令施行規則第二百二十三條ニ明文

有之候ニ付一年志願兵又ハ志願ニ依リ海兵團等ニ入團スル者ト雖尙モ現役ニ服シタル以上ハ該規程ニ依リ當然休職者タルヘキハ勿論ノ義ト存シ候ヘ共小學校教員奉職以來僅カニ一二ケ年ニシテ現役兵ヲ志願シ服役シタル者ハ服役滿期三ケ月間ハ休職者タルヲ以テ休職滿期退職給與金等請求ノ場合ニ於テ海兵團ニ入團スル者ノ如キハ勤績年數頗ル長年月ニ涉リ多額ノ給與金ヲ支給セサルヲ得サル事ニ相成少數不穩當ノ感有之ノミナラス之ニ因テ生スヘキ弊害モ可有之存候ニ付現役兵志願ノ趣ヲ以テ退職出願ノ場合ハ自己ノ便宜ニ依リ退職者トシテ退職ヲ命シ候方可然哉トモ被存候差懸リ居リ候事件有之候ニ付至急御意見承知致度此段及照會候也

形普五四號(明治三十八年九月十五日)  
文部省普通學務局長回答

小學校教員休職ノ件ニ關シ九月七日付發二第一五四〇號御照會ノ趣了承一年志願兵又ハ志願ニ依リ海兵團ニ入團スル者ハ小學校令施行規則第二十七條ニ依リ御取扱相成可然存候此段及回答候也

第八章 俸給及旅費

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル規定

(明治三十年一月四日)  
勅令第二號

朕市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 市町村立小學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村立小學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得  
第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村立小學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十四圓、其ノ他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ二十圓、其ノ他ノ町村ニ在リテハ十六圓トス

前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム(明治四十年勅令第二百十六號ヲ以テ本條改正)

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條 專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス(同上)

第六條 本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス(明治四十年勅令第二百十六號ヲ以テ改正)

尋常小學校	高等小學校		本科正教員		准教員
	女	男	女	男	
八圓	十圓	十圓	二圓	九圓	
六圓	七圓	七圓	七圓	七圓	
四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモ

ノト同視ス

第八條 本令中町村立小學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準ヘキ者之ヲ行フ

附則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十號第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

小學校教員ハ俸給非薄ニシテ其位置ニ安シ其職責ヲ盡スコト能ハス爲ニ全國多數ノ缺員アリト雖志望者少ク且現職者ト雖去テ他ノ業ニ就ク者アリ頃者我國百事業務ノ膨脹ニ伴ヒテ人ヲ要スルコト多ク又物價騰貴シテ一般ニ生活ノ度ヲ高メタレハ此趨勢ハ益其極ニ達セントス故ニ政府ハ曩ニ年功加俸ノ法ヲ設ケテ教員優遇ノ意ヲ示シ又市町村ニ於テモ近來漸ク教員ヲ優遇スルノ傾ナキニアラスト雖未タ以テ足レリトス可ラス教員ノ缺乏ヲ感スルコト益甚シキ今日ニ方リ更ニ優遇ノ方策ヲ講シ以テ現職者ヲ鼓舞スルハ勿論況タ有爲ノ材アル者ヲシテ奮テ教員ノ職ニ從事セシメサルヘカラス是レ本案ヲ發布セントスル所以ナリ仍テ本案各條ノ趣旨ヲ捕記スルコト左ノ如シ

一 現行法令ノ下ニ於テハ市、又ハ町村、又ハ町村學校組合、又ハ市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ヲ以テ小學校設置區域トナシアリ是レ第一條ニ於テ「市町村立小學校組合及其ノ區」云ト規定シタル所以ナリ又同條ニ於ケル「小學校ノ教員定數」トハ小學校令ニ依リ文部大臣ノ定メタル省令(明治二十四年省令第十二號學級編制等ニ關スル規則)ニ依テ定マリ居ルナリ第一條但書ヲ設ケタルハ市町村等ニ於テ其資力ノ如何ニ依リ本條ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出セントスルコトハ教員優遇上尤モ喜ブヘキコトナレハナリ

一 義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ト雖市町村等ノ隨意ニ依リ一旦定メタル俸額ヲ溢リニ減少シ爲ニ教員ヲシテ聘任セシムルカ如キコトアラハ其タ不都合ナレハ第二條第三項ニ於テ必ス地方長官ノ許可ヲ受ケシムル様之カ取締ヲ設ケタリ

一 市町村等土地ノ情況ニ依リ或ハ第一條ノ義務額ヲ超エテ俸額ヲ支出セシムルコトノ必要ナ地方長官認ムルニ於テハ市町村等ノ同意ヲ得テ之ヲ支出セシムルコト隨意タルヘシ但「同意ヲ得テ」トアル上ハ同意ヲ得スシテ強テ實行セシムルコトヲ得サルハ勿論ナリ(第二條第二項)

一 第三條ニ於テ市町村トニ依リ平均額ノ規定ヲ異ニシタルハ現今事實上ノ調査ニ照シ又ハ生計ノ難易及經濟ノ事情等ヲ酌量シタル者ナリ又市町村別チテ人口十萬以上ノ市ト其他ノ市トナシタルハ東京大阪等ノ大市ト其他ノ市トハ固ヨリ同一視ス可ラザレハナリ

一 本規則ハ教員ノ優遇テ期スルカ爲ニ規定シタルモノナリト雖市町村等ナシテ急速ニ義務額マテノ金額ヲ悉皆支出セシメントスルカ如キハ固ヨリ實際ノ事情ニ適セサルモノナレハ土地ノ資力生活及其他ノ情況ニ應ジ教員ノ能ク勤怠ヲ察シ漸次一般教員ノ待遇ヲ厚クスルヲ要ス故ニ第二條第一項ニ依リ俸額ヲ定ムルニ當テハ熟慮精思務メテ其宜シキヲ制セサルヘカラス

一 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ハ全ク正教員ト同一ノ職務ヲ執ルヘキモノナレハ其俸給ノ如キモ全ク本科正教員ト同一ノ手續ニ依リ定ムルヲ至當トス(第四條)

一 專科教員ナルモノハ裁縫唱歌英語ノ如キ某科ニ限リテ教授ヲ擔當スルモノナレハ其受持時間數ノ如キ區々ニシテ爲ニ一定ノ俸額ヲ定ムヘキニテ補助教授スル本科正教員ノ如キモ其職務ノ性質他ヲ補助スルニ止マリ獨立シテ教授ヲ擔當セサルモノナレハ法令ノ規定ヲ以テ俸額ヲ一定スルノ必要ヲ見ス故ニ是等ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ適宜俸額ヲ定ムルヲ可トス然レトモ本條ノ趣旨タル其人ニ就テ意見ヲ聞クニアラシテ其市町村ノ資力如何ヲ聞カシムルニ過キザレハ一旦決定シタル俸額以內ニ於テ新ニ任用スル教員ノ俸給額ヲ定ムル場合ニハ別ニ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クヲ要セサルモノトス(第五條)

一 第六條ニ於テ本科正教員ノ最低俸給ヲ定メタリ是レ教員ノ體面上又ハ優遇上洵ニ已ムヲ得サルモノニ出ヅルナリ最低未滿ノ俸額ヲ受ケ居ル教員ノ俸額ハ本令施行ト同時ニ増額スヘキハ勿論トス今此増額ヲ見積ルニ全國ニ於テ年額凡八十萬圓ニ過キザルナリ

一 本規則施行ノ際既ニ第一條ノ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視スルヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルニアラザレハ其額ヲ減スルコトヲ許サ、ルナリ(第七條)

一 北海道ノ札幌函館ノ如キハ諸般ノ事情ニ於テ市町村制ヲ施行シタル地方ノ市ニ該當スルモノナレハ或ハ本規則ニ關シ市町村同一ニ取扱フノ必要アルヘシ是レ第八條第二項ノ規定アル所以ナリ

一 本規則施行ノ上ハ地方長官ニ於テ教員ノ俸給ヲ定ムルニ當リ一々市參事會町村長ノ意見ヲ聞カサルヘカラサルノ規定ハ之ヲ廢止スルヲ要ス尙ホ其旅費ニ就テモ從來ノ實況ニ徴シ斯ル規定ノ必要ヲ認メス是レ小學校令第六十條第二項ヲ削除スル所以ナリ(第十條)

(參照)

勅令第二十五號小學校令

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍內ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

○市町村立小學校費府縣郡費補助ニ關スル注意

(明治三十年二月十六日 文部省訓令第二號)

北海道廳 府 縣

尋常小學校ノ設置上市町村ノ資力其負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣郡ヨリ補助ヲ與フヘキコトハ小學校令第四十六條乃至第四十九條ノ規定スル所ナルヲ以テ必要ニ應ジ之ヲ適用スルコトヲ怠ラサルヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ今般勅令第二號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ發布セラレタルニ付テハ此規定ニ基キ負擔スヘキ適當ノ俸給額ヲ支出スルニ堪ヘスト認定スルトキハ右小學校令ノ規定ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ

○市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與規則

(明治三十四年一月二十四日 靜岡縣令第四號)

第一章 俸 給

明治三十四年四月三十日  
 小學校令第四十號  
 結算第四十號  
 第六條乃至第十條  
 第四十九條  
 第五十三條  
 第五十四條  
 第五十五條

第一條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依ル (明治四十四年縣令第四十號ヲ以テ表中改正)

職	名		一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	上	下										
本教員科	上	下	九十五圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓
	上	下	八十四圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓
專任教員料	上	下	五十圓	四十圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	八圓
	上	下	四十五圓	三十五圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	八圓
准教員	上	下	二十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	八圓			
	上	下	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓				

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百貳拾圓マテ増スコトアルヘシ (明治四十四年縣令第四十號ヲ以テ改正)

第三條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトアルヘシ

第四條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトアルヘシ

第五條 本科正教員ハ每等級在職一年以上ニ至ラサレハ増俸セス但シ五級上俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス (上同)

第六條 一旦退職ノ者再任ノ場合ハ前在職最終ノ俸給ヨリ以上ノ俸給ヲ給セス但シ特別ノ事情アルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトナシ 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得テ其ノ一ノ限ニアラス

部若クハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

第八條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若クハ全部ヲ給ス但シ其ノ額ハ縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム (明治四十一年五月八日 靜岡縣令第五拾號ヲ以テ改正)

第九條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足ヲ給ス

第十條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給ス

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第十一條 俸給支給日ハ毎月二十二日トス但シ日曜大祭日ニ當ルトキハ繰下トス

第十二條 退職、退職ノトキハ前項ノ定日ニ拘ラス其際俸給ヲ支給ス定日以後新任復職ノ場合亦同シ

第十三條 俸給ハ新任、復職、増俸、減俸トモ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十四條 轉任ノトキハ日割ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ前任學校ニ於テ支給シ翌日以後ノ分ハ後任學校ニ於テ支給スルモノトス

第十五條 休職、退職及死亡ノトキハ其ノ際當月分ノ俸給全額ヲ給ス但シ第十五條第十六條ニ依リ減給ノ者本條ニ該當スルトキハ其ノ際減給ニ係ル當月分ノ俸給全額ヲ給ス准教員ニシテ正教員ニ任用セラル、爲退職シタルモノナルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス (明治四十五年縣令第八號ヲ以テ追加)

第十六條 疾病又ハ傷痍ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユルトキハ其日ヨリ俸給ノ半額ヲ減ス但シ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノハ此ノ限ニアラス (明治四十一年二月二十日靜岡縣令第十八號ヲ以テ一部改正)

第十七條 私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユルトキハ其日ヨリ俸給ノ半額ヲ減シ三十日

ヲ踰ユルトキハ之ヲ給セス(上同)

第十七條 忌引若クハ三日以上ニ渉ル學校休業ノ場合ハ第十五條若クハ第十六條本文ノ場合ト連續スルモ減俸又ハ俸給ノ支給ヲ停止スヘキ欠勤日數中ニ算入セス又第十五條ノ場合ト第十六條本文ノ場合ト相續テ起ルトキハ之ヲ通算ス

第十八條 第十條第十三條第十五條第十六條ノ場合ニ際シ俸給ニ過渡アルトキハ其際之ヲ追徴ス  
第十九條 俸給ヲ給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス(明治四十一年九月縣令第八十四號ヲ以テ改正)

第二章 旅 費

第二十條 旅費ハ職務ノ爲旅行スルトキ之ヲ給ス

第二十一條 職員旅費額ハ左表ニ依ル(明治四十四年縣令第三十六號、同四十五年縣令第三十號ヲ以テ表中改正)

職 名	鐵道賃一哩	汽船賃一海里	車馬賃一里	日 當	宿泊料一付	移 轉料
職 員	四 錢	五 錢	二十五錢	一圓二十錢	一圓七十錢	二十五圓以內
准 員	三 錢	四 錢	二十錢	六 十 錢	一 圓	十五圓以內
教 員	二 錢	三 錢	十五錢	五 十 錢	八 十 錢	十圓以內

修學旅行、學事視察又ハ學術研究等ノ爲出張スル場合ニハ其ノ時々市長又ハ町村長ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受ケテ特ニ實費ヲ支給シ若ハ前表ニ依ラス減額支給スルコトヲ得  
務轉料ハ前表規定額ノ範圍ニ於テ管理者之ヲ定ム

第二十二條 旅費支給ノ方法ハ明治四十三年度勅令第二百七十四號內國旅費規則ヲ準用ス(明治四十四年第三十六號ヲ以テ改正)

支給手續規定アリ

- 第二十三條 (明治四十四年四月縣令第三十六號ヲ以テ削除)
- 第二十四條 (上同)
- 第二十五條 (上同)
- 第二十六條 (上同)
- 第二十七條 (上同)
- 第二十八條 (上同)
- 第二十九條 (上同)

第三章 諸 給 與

第三十條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

- 第三十一條 教員ニシテ一週三十二時ヲ超ニ教授ヲ擔任スルモノニハ手當ヲ給ス(明治四十一年縣令第十號ヲ以テ一部改正)
- 第三十二條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトアルヘシ
- 第三十三條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ
- 第三十四條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ
- 第三十五條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ
- 第三十六條 第三十三條乃至第三十五條ニヨリ給スヘキ金額ハ管理者ニ於テ決定スヘシ

第四章 代用教員俸給旅費及諸給與

第三十七條 代用教員ノ俸給額及旅費額ハ准教員ノ俸給額及旅費額ニ據ル但シ六級下俸ニ限リ六圓マテ減スルコトアルヘシ(明治四十五年縣令第八號ヲ以テ改正)  
小學校令施行規則第三十五條第三項ニ依リ裁縫科ヲ教授セシムル爲メ採用スル女子ノ代用教員ノ俸

給ニ限リ其ノ教授時數ニ應シ前項但書ノ金額ヲ三圓迄減スルコトアルヘシ(上)

第三十八條 代用教員ノ俸給旅費及其ノ他諸給與ノ支給方法ハ准教員ノ例ニ依ル(明治四十四年縣令第廿六號同四)

(十五縣令第八號ヲ以テ改正)

第五章

第三十八條ノ二 市町村立幼稚園其他ノ小學校ニ類スル各種學校職員ノ俸給旅費其他諸給與ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス(明治四十一年縣令第)

但シ小學校ニ類スル各種學校職員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトアルヘシ(明治四十四年縣令第)

(七十號ヲ以テ改正)

第六章

附

則(明治四十一年縣令第十八)

(號ヲ以テ五章ヲ繰下グ)

第三十九條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第四十條 本令施行ノ際現ニ在職スル教員ニ給與スル俸給ニ關シテハ左ノ例ニ依リ別ニ辭令ヲ用ヒサルモノトス

一 現ニ受クル所ノ俸給額第一條ノ等級中ノ金額ニ相當スルモノハ其ノ相當スル等級ノ俸給ヲ受クルモノトス

二 現ニ受クル所ノ俸給額第一條ノ等級中ノ金額ニ相當セサルモノハ現ニ受クル金額ニ最近キ上位ノ等級ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ其ノ給與金額ハ當分現ニ受クル所ニ依ル

第四十一條 明治二十五年縣令第二十五號明治三十年縣令第二十五號明治三十一年縣令第十八號

第十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治二十五年縣令第二十七號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十一年二月縣令第十八號附則

本令施行ノ際現ニ在職スル本科正教員ニシテ十級俸ノ者ハ九給下俸准教員ニシテ六給俸ノ者ハ五級

下俸ノ俸給ヲ受クルモノトシ別ニ辭令ヲ用井サルモノトス

明治四十四年縣令第三十六號ハ公布ノ日ヨリ施行

明治四十四年縣令第四十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ公布セサルトキハ俸給額ニ相當スル級俸ヲ給スルモノトス

明治四十四年縣令第七十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年縣令第八號附則

本令中第三十七條及第三十八條ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行以前ヨリ引續キ在職スル代用教員ニシテ舊令第三十七條第一項但書ニ依リ六圓未滿ノ俸給ヲ受クルモノハ當分ノ内尙從前ノ額ニ依ル

明治四十五年縣令第三十號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○死亡給與金支給手續

(明治三十四年六月七日)

(靜岡縣訓令甲第二十一號)

郡 役 所 市 役 所 町 村 役 場

明治三十四年縣令第四號市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與規則第三十條ノ給與金ヲ支給スルハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一 町村立小學校教員死亡シタルトキハ町村長ハ給與金ヲ受クヘキ遺族ヲ調査シ郡長ニ申報スヘシ(明治四十五年縣訓令)

(第四號ヲ以テ改正)



- 二 教員死亡シタルトキハ郡市長ハ給與金支給ニ關スル辭令書ヲ作り之ヲ其ノ遺族ニ交付スヘシ但シ町村立小學校教員ニ係ルモノハ當該町村長ヲ經由スルモノトス
- 市町村長ハ前項辭令書ノ交付ト同時ニ相當金額ヲ支拂フヘシ(同上)
- 三 給與金支給上遺族ト稱スヘキモノ及其支給ヲ受クヘキ遺族ノ順序左ノ如シ
  - 寡婦(夫アル女子教員死亡シタルトキハ其夫)子、父、母、祖父、祖母、以上ノ外同戶籍内ニ在ル者但子數人アルトキハ家督相續者、戶主ニアラサル者ノ子ニ在ラハ長子又同戶籍内ニアル者數人アルトキハ左ノ例ニ依ル
  - 直系ノモノト傍系ノモノトアルトキハ直系ノモノ
  - 同系ナラハ親等ノ近キモノ
  - 同親等ナラハ年長者

○小學校教員死亡給與金支給手續ノ件 (明治四十五年二月五日) (靜岡縣通牒學第三一六號)

小學校教員死亡給與金支給手續改正相成候處右辭令書ハ左ノ書式ニ準據セラレ度此段及通牒候也

辭令書式

何某在職中死亡ニ付俸給三箇月分金	何郡(市)何小學校訓導(又ハ何々)何某寡婦(又ハ何々)
年 月 日	何 某
	圓ヲ受クヘキモノトス
	何 郡(市)役所

○死亡給與金ニハ加俸ヲ加算スヘキ件 (明治三十五年十二月十八日) (靜岡縣通牒學第三四六七號)

明治三十四年縣令第四號市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與規則第三十條ノ俸給ニハ加俸ヲ加算スヘキモノト御承知相成度此段及通牒候也

(右各郡市長宛)

### 第九章 加 俸

○市町村立小學校教育費國庫補助法 (明治三十三年三月十六日) (法律第六十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

- 第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 第一條ノ補助金ハ其ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員數ニ他ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤績スル者ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道及府縣ニ配賦ス (明治四十二年法律第五號ヲ以テ改正)

附 則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五編 普通教育 (死亡給與金ニハ加俸ヲ加算スヘキ件) (市町村立小學校教育費國庫補助法)

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス  
明治四十二年法律第五號附則  
本法ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ小學校本科正教員數算出ニ關スル規定 (明治四十二年三月十八日) (文部省令第九號)

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤續スル者ノ數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス

附 則  
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村立小學校教員加俸令 (明治三十三年三月三十一日) (勅令第三百三十三號)

第一條 府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸

俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ (明治四十二年勅令第三十一號ヲ以テシテ) (總務省令第九號) 前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 小學校教員ニシテ五年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス (明治四十二年勅令第十號) (二號ヲ以テ本條改正)

年功加俸ハ本科正教員ニ在リテハ年額二十四圓乃至六十圓トシ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續五年ヲ加フル毎ニ本科正教員ニ在リテハ年額十八圓乃至三十六圓專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至十八圓ヲ加フルコトヲ得 (明治四十二年勅令第四十九號) (四號ヲ以テ本條改正)

第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得 (明治四十二年勅令第十號) (二號ヲ以テ本條改正)

第七條 市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ多級學校ノ一學年ヨリ四學年、五學年又ハ六學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得 (同上)

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ僻陬ノ地ニ勤務スル者ニハ年額三十六圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得但シ前二項ニ依リ特別加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス(上同)

僻陬地ノ市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ前三項ニ依リ特別加俸ヲ受ケ五年以上同一學校ニ勤績スル者ニハ年額三十六圓以下ヲ加給ス(明治四十二年勅令第十二號、同四十四年勅令第四十九號ヲ以テ本項改正)

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤績スル間其ノ差額ヲ加給ス

明治四十二年勅令第十二號附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年勅令第四十九號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村立小學校教員加俸令中改正ノ要旨

(明治四十四年四月一日 文部省訓令第四號)

今般市町村立小學校教育費國庫補助額ヲ增加セラレ勅令第四十九號ヲ以テ市町村立小學校教員加俸令

北海道廳 府 縣

中ニ改正ヲ加ヘラレタリ

我國教育ノ發達近時見ルヘキモノアルニ至レリト雖之ヲ方今ノ情勢ニ顧ミテ尙改善ヲ要スルモノ尠カラス特ニ國民道德ノ大本ヲ涵養シ健全ナル思想ヲ養成スルニ於テ一層力ヲ盡ササルヘカラサルモノアリ此ノ時ニ方リ紀元節ヲ以テ優渥ナル勅語ヲ下シ其ノ中ニ教ヲ敦フスヘキ旨ヲ宣シ給フ局ニ教育ニ當ル者豈ニ夙夜寒々 聖旨ヲ服膺シテ其貫徹ニ努メサルヘケンヤ

國民教育ノ改善ヲ圖ランニハ教員ヲシテ忠實勤勉永ク其ノ職務ニ盡瘁セシメサルヘカラス曩ニ市町村立小學校教育國庫補助法ヲ設ケラレ小學校教員加俸ノ制ヲ定メラレタル亦此ノ趣旨ニ外ナラス然ルニ從來補助ノ金額十分ナラザリシヲ以テ永年勤績者ニシテ尙未タ加俸ノ典ニ浴セサル者尠カラサルノミナラス成績特ニ優良ナル者ニ對シテモ尙之ニ相當スヘキ加俸ヲ支給スルヲ得ザリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ今回政府ニ於テ特別ノ財源ヲ索メ小學校教員ノ加俸ヲ増額スルノ計畫ヲ立テタル所以ノモノ實ニ今回ノ 聖勅ニ對シ奉リ特ニ國民教育ノ改善ヲ圖リ以テ敦教ノ 聖旨ヲ貫徹センコトヲ期スルニ外ナラス

地方長官ハ宜シク此ノ趣旨ヲ體シ改正加俸令ノ施行其ノ宜シキヲ得國民教育ノ改善ヲ圖ルニ於テ遺算ナキコトヲ期スルト共ニ教員ヲシテ今回ノ加俸令改正ハ全ク優渥ナル 聖恩ニ基キタルモノナルコトヲ念ヒ益々奮勵シテ道德教育及國民教育ノ基礎ヲ確實ニシ以テ其ノ重大ナル任務ヲ全ウセンコトヲ努メシメラルヘシ

○市町村立小學校教員加俸給與細則

(明治四十二年四月三十日縣令第二號ヲ以テ改正公布ノ日ヨリ施行)

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條 正教員ト准教員ト引續キ勤務シタルキハ各勤務年數ハ年功加俸支給上相互勤績年數ニ通算ス

- 第二條 加俸ノ支給及停止ハ發令ノ月ヨリ起算ス但シ辭令書ニ支給ノ起算期ヲ定メタルモノハ此ノ限ニアラス(明治四十五年縣令第ニアラス(十六號ヲ以テ改正)
- 第三條 加俸ハ疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ執務セサルコトアルモ之ヲ減セス
- 第四條 加俸ハ年額ヲ分テテ月割計算トシ毎年九月三月ノ二期ニ於テ當月分マテノ金額ヲ支給ス但シ
- 第七條又ハ市町村立小學校教員加俸令第六條第二項ニ依リ加俸ノ支給ヲ止メタルトキハ其ノ際ニ於テ當月分マテノ金額ヲ支給ス
- 第五條 郡市長ハ市町村立小學校教員加俸令第三條若クハ第六條第二項ニ該當スル者アリト認ムルトキハ其ノ事由及關係事項ヲ詳具シ知事ニ内申シ同令第七條ニ該當スルモノアルトキハ其ノ旨知事ニ申告スヘシ
- 第六條 市町村立小學校教員加俸令第七條ニ於ケル僻陬地小學校ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第七條 年功加俸ヲ受クル者ニシテ左ノ第一號ニ特別加俸ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ當月限リ當然其ノ支給ヲ止ム
  - 一 休職若クハ退職トナリタルトキ
  - 一 尋常高等小學校教員ニシテ其ノ尋常科ノ勤務ヲ止メタルトキ
- 加俸令第七條第一項ニ依リ加俸ヲ受クル者ニシテ其ノ勤務スル學校ノ尋常科カ多級ノ編制トナリタルトキ同條第二項ニ依リ加俸ヲ受クル者ニシテ該項ニ於ケル編制ノ學級擔任ヲ止メタルトキ同條第三項ニ依リ加俸ヲ受クル者ニシテ其ノ勤務スル學校カ僻陬地小學校ノ名稱ヨリ削除シタルトキ亦前項ニ同シ
- 第八條 郡市長ハ前條第一項第二號第二項第一段及第二段ニ該當スル者アルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ

○市町村立小學校教育費國庫補助法第六條等ニ依ル  
支給金給與規程(明治三十三年六月二十二日  
靜岡縣令第六十八號)

第一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ニ依ル支給金及市町村立小學校教員加俸令第十一條加給金給與ノ方法ハ本年以本縣令第六十四號市町村立小學校教員加俸給與細則第二條及第三條ヲ準用ス

第二條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ該當スルモノニハ左ノ書式ノ證書ヲ交付ス

書式

校名	職名	氏名
年	月	日
年	月	日

明治三十年法律第六十三號市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ明治三十三年四月ヨリ年額何程ヲ支給ス

第三條 市町村立小學校教員加俸令第十一條ニ該當スルモノハ左ノ書式ノ證書ヲ交付ス

明治三十三年勅令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第十一條ニ依リ明治何年何月ヨリ金何程ヲ加給ス

○市町村立小學校教員加俸費支拂ニ關スル規定(明治三十五年九月十九日  
靜岡訓令甲第二十五號)

郡役所

明治三十三年ハ訓令甲第二十四號市町村立小學校教員加俸費支拂ニ關スル規定左ノ通改正ス

第一條 市町村立小學校教員加俸費支拂ニ關スル規定

第二條 (明治四十二年縣訓令第十二號ヲ以テ削除)

第三條 郡長ハ第二號様式ニ依リ支給臺帳ヲ備フヘシ

支給臺帳ハ前期及後期ヲ各別冊トシ支拂期月ノ初日ニ於ケル現在ニ依リ調製スヘシ但シ加俸給與規則第三條但書ニ依リ支給ヲ爲ストキハ其際當該期ノ臺帳ニ登載スヘシ

特別加俸ヲ受クル者他郡市ニ轉任ノ場合ニ於テハ其際前任郡ニ於テ特別加俸ヲ給スルモノトシ前項但書ノ規定ニ依ルヘシ

第四條 (明治三十六年縣訓令第十號ヲ以テ本條削除)

第五條 (明治四十二年縣訓令第十二號ヲ以テ本條削除)

第一號様式 (同)

第二號様式

何年度前(後)期 市町村立小學校教員加俸費支給臺帳

摘要	法第六條支給	年功加俸	令第十一條加給金	特別加俸ノ分	同	多級ノ分	職名氏名
六ヶ月分							
何月ヨリ一ヶ月分							
何月ヨリ何ヶ月分							
甲 六ヶ月分							
乙 何月一ヶ月分							

丙何月ヨリ 何ヶ月分  
四月ヨリ九月迄ノ分及十月ヨリ翌年三月迄ノ分ヲ各別冊ニ調製スヘシ

○小學校准教員ノ年功加俸繼續ノ件 (明治三十四年四月九日 靜岡縣訓令乙第三號)

郡役所 市役所  
町村役場 市町村立小學校

小學校准教員ニシテ本科正教員ニ代リ一時教授ノ勤務ヲ命セラレ本年三月三十一日迄在職シタルモノ從前市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ年功加俸ノ支給ヲ受ケ更ニ本年四月一日付ヲ以テ同一學年ノ准教員ニ任命セラレタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ從前ノ通り年功加俸ノ支給ヲ受クル儀ト心得ヘシ

○加俸支給ニ關シ勤續取扱ノ件 (明治三十四年四月十六日 靜岡縣通牒三第八七八號ノ三)

市町村立小學校教育費國庫補助法第六條並ニ市町村立小學校教員加俸令第十一條適用上左記各項ノ者ニ對シテハ同 校勤續者トシテ可取扱儀ニ有之候條依命此段及通牒候也

一 學校ノ分合アリタル場合ニ於テ其ノ學校ニ引續キ勤務スルモノ

一 已存之尋常小學校ヘ新ニ高等小學校ノ教科ヲ併置シタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ

一 分教場ヲ獨立校ト爲シ若クハ獨立校ヲ分校トナシタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ (右各郡市長)

○年功加俸再給與ノ件 (明治三十六年六月二十日)

明治三十三年勅令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ年功加俸ノ支給ヲ受クルモノニシテ一旦休職トナリタルトキハ其支給ヲ罷メラル、ハ勿論ノ義ニ候ヘ共其休職期間中復職若クハ轉任ヲ命セラレタルトキハ更ニ詮議ノ上加俸給與相成ルヘキ義ニ候ヘハ明治三十三年縣令第六十四號加俸給與細則第四條ニ準シテ便宜御申告相成度依命此段及通牒候也 (右各郡市長)

○年功加俸給與ニ關シ通牒 (明治四十三年六月)

市町村立小學校教員加俸令第三條第二項ニ依ル加俸給與ニ關シ左記事項御了承相成度此段及通牒候也

- 一 學校廢止ノ際他ノ學校ニ任用セラレ職務間斷ナキ者ニハ別ニ辭令ヲ用弗ス從前ノ加俸ヲ給與ス

○特別加俸支給ニ關スル件 (明治四十年五月二日)

市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依ル特別加俸ハ自今左記ノ者ニ對シテモ支給セラレヘク候條御了知ノ上右該當者ニ對シテハ來ル五月十五日迄ニ御申告相成度依命此段及通牒候也

記

第七條前段ニ依ルヘキモノ

- 一 全校ノ兒童ヲ以テ二部教授ノ編制ヲナセル尋常小學校ニ於テ各部トモ一學級ニ編制シ一人ニテ教授スル本科正教員

第七條後段ニ依ルヘキモノ

- 二 僻陬ノ地ニ在ル尋常高等小學校ニ於テ尋常科ノ學級ヲ擔任スル本科正教員

○特別加俸給與方ニ關シ某縣ヘ回答ノ件 (明治四十四年八月十五日)

特別加俸給與方ニ關シ左記甲號某縣照會ニ對シ乙號ノ通回答致候ニ付爲御參考此段及通牒候也

甲 號

多級ノ尋常小學校ニ於テ一學年ヨリ四學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ニシテ偶々或學年ノ兒童一名モ就學セサルニ至リタル場合ニハ市町村立小學校教員加俸令第七條第二項ニヨリ特別加俸ヲ給與スル限ニアラサルモノト解シ可然哉聊疑義ニ涉リ候條至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

乙 號

本年六月廿九日亥學發第六二號ヲ以テ多級ノ尋常小學校ニ於テ一學年ヨリ四學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ニシテ偶々或學年ノ兒童一名モ就學セサル場合ニ於テ特別加俸給與方ニ關シ御照會相成候處右ハ給與セラレ可然トノ省議ニ有之候條御了知相成度此段及回答候也

○市町村立小學校教育費補助ノ爲北海道地方費及府縣

費支出ニ關スル規定 (明治四十年五月二十七日)

朕市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道地方費及府縣ハ市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依リ配賦スル金額ト同額ノ金額ヲ支出スヘシ (明治四十二年勅令第三十一號ヲ以テ沖繩縣ニ關スル特例廢止ノ結果但書創設)

第二條 前條ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ地方ノ情況ニ應シテ之ヲ市町村立小學校教員加俸ノ支出ニ充テ又ハ市町村立小學校教員住宅費ノ補助ニ充ツヘシ  
前項補助ノ方法ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
特別ノ事情ニ依リ本令ノ支出ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内支出金額ヲ減少スルコトヲ得

○市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程 (明治四十年九月二十六日) (文部省令第三十六號)

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ  
市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 住宅費補助ハ教員ノ住宅ヲ建設シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與シ若ハ教員ニ住宅ヲ供給スル爲メ借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ其區ニ對シテ之ヲ爲スモノトス (明治四十年文部省令第九號ヲ以テ改正)  
前項補助ノ歩合及條件並補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸資金ニ編入スヘシ  
第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規程ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス  
明治四十一年五月八日省令第十九號改正ハ公布ノ日ヨリ施行

○市町村立小學校教員住宅費補助規程 (明治四十一年三月二日) (靜岡縣令第二十五號)

市町村立小學校教員住宅費補助規程

第一條 市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ市町村立小學校教員住宅ノ新築又ハ改築ヲ爲ス場合ニハ土地ノ狀況及資力ヲ考査シ補助金ヲ交付ス

第二條 前項ノ補助金ハ建築費用ノ總額十分ノ五以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條 教員住宅ハ成ルヘク學校ノ附近ニ設クルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ學校設置區域内ノ各部ニ配置スルヲ可ナリトスル場合ハ此ノ限リニアラス

第四條 教員住宅ニハ土地ノ狀況ニ應シ相當ノ蔬菜園ヲ設クルコトヲ要ス

第五條 補助金ヲ得テ建築シタル教員住宅ハ其ノ目的ノ外ニ之ヲ使用シ又ハ之ニ對スル使用料其他ノ費用ヲ徴收スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アリテ知事ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限リニアラス

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ書類ヲ添ヘ毎年六月末日限り知事ニ申請スヘシ但シ非常變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ在リテハ本文ノ期限ニ拘ハラズ申請スルコトヲ得 (明治四十一年縣令第八十七號ヲ以テ本項削除第二號以下順次繰上ル)

一 當該年度歳入歳出豫算決議謄本  
二 敷地建物ノ平面圖(縮尺二百分ノ一)  
敷地ニハ方位、坪數、隣接地ノ狀況蔬菜園ノ區域其ノ坪數、學校トノ距離等ヲ附記シ、建物ニハ各部ノ名稱及其ノ坪數ヲ記入スヘシ

- 三 工事設計書並仕様書
- 四 工事着手及完成ノ期限
- 第六條 補助金ハ工事竣工ノ届出ヲ了シタル後其ノ請求ヲ待チテ之ヲ交付ス
- 第七條 補助金交付ノ指令ハ其ノ日付ノ屬スル年度内ニ工事ヲ竣工セサル場合ニハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第八條 補助金交付ノ指令ヲ受ケタル後己ムヲ得サル事情アリテ其ノ設計ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ在リテハ其ノ補助金額ヲ變更スルコトアルヘシ
- 第九條 豫定ノ工事ヲ遂行セス其ノ他不都合ノ所爲アルコトヲ認メタルトキハ補助金ノ一部若クハ全部ヲ還納セシムルコトアルヘシ
- 第十條 補助金ヲ得テ建築シタル教員住宅ノ處分ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十一條 補助金ヲ得テ建築シタル教員住宅非常變災ノ爲ニ破壊若クハ喪失シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ
- 第十二條 本規程ハ適當ナル家屋ヲ買入レ教員住宅ト爲ス場合ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十三條 本規程ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ郡長之ヲ調査シ其ノ意見ヲ副申スヘシ
- 第十四條 本規程ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行

(別表)

諸税負擔一覽表

税目	金額	納税者總數	一人當リ	平均人口	一人對當	平均人口	一人對當
直接國稅							
縣稅							
市町村稅							

備考 總人口、總戶數及納税者總數ヲ便宜附記スヘシ但シ納税者總數ハ一人ニシテ直接國稅、縣稅、及市町村稅ヲ納ムルモノモ或ハ其ノ内一稅若クハ二稅ノミナ納ムルモノモ凡テ一人トシテ計算スヘシ

○小學校教員住宅費補助ニ關スル件 (明治四十一年三月七日) (靜岡縣通牒中學第六一七號)

本月二日縣令第二十五號ヲ以テ市町村立小學校教員住宅費補助規程ヲ發布相成候就テハ今後漸ク教員住宅ノ建設ヲ見ルニ至ルヘシト存候ヘトモ市町村ノ財政事情ニ依リテハ右住宅ヲ俄ニ建築シ難キモノモ亦少ナカラサルヘシト存候斯ル場合ニ在リテハ明治三十四年一月靜岡縣令第四號第三十五條ニ依リ可成住宅料ヲ支給セシメ候ハ、教員待遇上彼是均衡ヲ保ツコトヲ得テ適當ノ措置ト存候條此際特ニ右獎勵相成候様致度依命此段及通牒候也

○小學校教員住宅費補助金申請書記載事項ノ例 (明治四十一年三月七日) (靜岡縣通牒中學第六一六號)

市町村立小學校教員住宅費補助規程ニ依リ提出スル補助金申請書ハ左ノ例ニ依リ御作製相成度經伺ノ上此段及通牒候也

記

- 一 規程第五條第三號ノ建物ノ圖面中各郡ノ名稱ニハ玄關、客室、書齋、勝手、床、押入、廊下、便所等ヲ詳記スルコト
- 二 規程第十二條ノ買入家屋ニ關シテハ其所有主ノ職業及氏名等ヲモ記載スルコト



### 第十章 教育基金

#### ○教育基金特別會計法 (明治三十二年三月廿二日)

(法律第八十號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル教育基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 教育基金特別會計法

- 第一條 教育基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 償金特別會計資金ノ内千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ
- 第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス
- 前項普通教育費ノ使用ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス
- 第五條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ
- 第六條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

#### ○教育基金令 (明治三十二年十一月二十二日)

(勅令第四百三十五號)

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 教育基金令

第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歳出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタル金額ヲ前年度末現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道及府縣ニ配當ス (明治三十四年勅令第五十五號同三)

第二條ノ二 文部大臣ハ公立小學校ノ校地校舍非常變災ニ因リ被害甚シキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

キハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得 (明治卅六年勅令第五十七號)

貸付金ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ

第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム但シ非常變災ノ場合ニ於テハ設備復舊費ノ十分ノ五以内ヲ補助スルコトヲ得(同上)

第八條 北海道及府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以内ヲ限り公立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得(同上)

第九條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ(明治廿七年勅令第百六十七號ヲ以テ追加)

第十條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ(明治廿六年勅令第百五十七號ヲ以テ改正)

附 則

第十一條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 教育基金中本令施行以前ニ生シタル利子額ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 本令中公立小學校ニ關スル規定ハ師範學校附屬小學校ニ之ヲ適用セス(明治三十六年勅令第五十七號ヲ以テ追加)

○教育基金令施行規程 (明治三十六年三月三十一日)

第一條 (明治四十四年勅令第三十一號ヲ以テ沖繩) 縣ニ關スル特別廢止ノ結果本條自然消滅

第二條 教育基金令第二條ノ二第一項ニ依リ特別ノ配當ヲ受ケントスル道府縣ハ左ノ事項ヲ具シ文部

大臣ニ申請スヘシ

一 各罹災小學校ノ校地校舍被害坪數及被害ノ狀況

二 校地校舍ノ復舊ニ要スル費額

三 配當ヲ受ケントスル金額

四 校地校舍ノ復舊ニ關シ道府縣費ヲ以テ補助ヲ爲シ又ハ教育資金ノ補充ヲ爲ストキハ其ノ金額

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

明治三十三年文部省令第三號ハ之ヲ廢止ス

備考 明治三十三年文部省令第三號ハ北海道廳及沖繩縣ノ教育基金配當金ノ使用ニ關スル規程ナリ

○教育資金使用規則 (明治四十一年十一月十三日)

第一條 教育資金ハ市町村立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備不完全ナルニ依リ最モ速ニ其ノ改善ヲ圖ラシメントスル市町村ニ貸付シ若クハ左ニ掲クル費用ニ充ツルモノトス

一 市町村立小學校教員獎勵費

二 小學校教育ニ關シ特ニ勤勞アリタル市町村吏員獎勵費

三 前二號ノ外普通教育ニ關シ必要ト認メタル事項ニ對スル獎勵費

第二條 市町村ハ其ノ市町村内ノ區ノ負擔ニ屬スル學校設備費ニ就キ教育資金ノ貸付ヲ申請スルコトヲ得

第三條 尋常高等小學校ノ設備費ニ對シ教育資金ヲ貸付スルトキハ其ノ總費額ノ五分ノ四ヲ以テ尋常小學校ノ設備費ト見做ス

- 第四條 教育資金ノ貸付額ハ百圓ヲ以テ單位トス
- 第五條 教育資金ノ償還期限ハ特別ノ事情アルモノノ外五ケ年以内トス(明治四十五年縣令第七十四號ヲ以テ改正)
- 第六條 教育資金ノ貸付ヲ受ケントスルモノハ其ノ金額並ニ事由ヲ具シ其ノ使用ノ目的カ校舍ニ關スル場合ニハ校舍建築認可申請書ト共ニ其ノ校地ニ關スル場合ニハ當該年度ノ豫算決議原本ヲ添付シ毎年七月末日限り知事ニ稟申スヘシ
- 第七條 現金ハ工事六分以上進行ノ後ニ於テ市町村ノ請求ヲ待チテ之ヲ交付スルコトアルヘシ
- 第八條 教育資金貸付ノ指令ハ其ノ日付ノ屬スル年度内ニ工事ヲ竣功セサル場合ニハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 豫定ノ工事ヲ遂行セサルトキハ期限ニ拘ラス貸付金ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 貸付シタル教育資金ノ利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月マテ月割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年六月十日ノ二期ニ於テ之ヲ納付スヘシ但シ全部償還ノ場合ハ之ト同時ニ利子ヲ納付スルモノトス
- 第十一條 本則施行上町村組合及町村學校組合ハ之ヲ一町村ト見做ス

○教育資金借用ニ關シ提出スル書面省略ノ件

(明治三十五年六月十二日 靜岡縣通牒三第三二六七號)

明治三十三年<sup>附</sup>縣令第九十八號教育資金使用規則第七條ニ依リ提出スヘキ書面中第二號乃至第四號ノ書面ハ省略セシムルモ差岡へ無之候ニ付此ノ場合ニ於テハ當該事項ハ貴官ニ於テ取調ノ上其ノ要領ヲ副申候様御取計相成度依命此段及通牒候也

(右各郡長宛)

○教育資金現金交付手續

(明治三十六年八月二十四日 靜岡縣通牒三第三七七二號)

小學校々舎建築ノ爲教育資金ノ貸付ヲ開届ケラレ候節ハ該指令傳達ト共ニ左ノ事項ヲ御指示相成度此段及通牒候也

(右郡長宛、同縣各市長宛)

- 一 現金ハ建築認可ノ上ニアラサレハ交付セス
- 一 現金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ月初旬ニ於テ請求書ニ借用證書ヲ添付シテ提出スヘシ縣廳ハ之ニ對シ其月内ニ現金ヲ交付スヘシ
- 一 請求書及借用證書ハ別紙様式ニ依リ記載スルヲ要ス但借用證書中最終還期月ハ請求書提出ノ當月ヨリ起算シ相當年限内(普通三ケ年以内)ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

請 求 書

一金 何 題

但何町(村)(組合)立學校新築(増築)(改築)經費ニ充ツル爲メ教育資金借用ノ義何年何月何日指令何號許可何年何月何日指令何號建築認可

右 請 求 候 也

年 月 日

知 事 宛

何市町(村)(組合)長 印

教 育 資 金 借 用 之 證

- 一 借用之目的
- 一 何尋常小學校々舎新築ノ經費ニ充ツル爲等
- 一 借用金額
- 一 金何百何拾圓

第五編 普通教育 (教育資金現金交付手續)

印紙貼用ヲ要セス

第五編 普通教育 (教育資金現金交付手續ニ關スル件)

五ノ二百七十

一元金償還方法

金何百圓ヲ明治何年何月迄ニ償還

金何百圓拾圓ヲ明治何年何月迄ニ償還等

一利子納入方法

利率ハ壹箇年元金百分ノ五トシ貸付ヲ受ケタル翌月ヨリ返納ノ月迄月割ヲ以テ計算シ毎年六月十二月ノ二期ニ於テ當月分迄ヲ納入スルモノトス但最後ニ元金償還ノ場合ニハ同時ニ利子ヲ納入スルモノトス

前書ノ目的ヲ以テ本縣教育資金ノ内ヨリ前書ノ金額ヲ借用候處確實也就テハ萬一其目的以外ニ之ヲ使用シ若クハ元金償還利子納入ノ方法ニ相違シ其ノ他申請書記載ノ重要ナル事項ニ違背致候節ハ三箇月以上ノ期間日ヲ定メ元金及利子全部ノ納入ヲ命セラルモ差支無之候也

右教育資金借用證書差入候也

明治何年何月何日

縣知事 宛

市參事會町村長職印

○教育資金現金交付手續ニ關スル件 (明治四十四年一月二十一日)

(靜岡縣通稱學第二四二號)

明治四十一年縣令第百十一號教育資金使用規則第七條ニ依リ現金交付ノ爲メ市町村ニ於テ提出スヘキ請求書及之ニ關聯セル借用證ハ別紙様式ニ依リ記載ノ上同時ニ提出セシメラレ度依命此段及通牒候也  
追テ明治三十六年八月二十四日第三七七二號通牒ハ廢止ノコトニ御了知相成度此段申添候也

一金何圓

但何學校設備費ニ充ツル爲メ教育資金借用ノ幾何年何月何日指令第何號許可等

右 請 求 候 也

何年何月何日

何市町(村)(組合)長(職印)

教育資金借用證

一信用ノ目的

何學校設備費ニ充ツル爲

一信用ノ金額

金何圓

一元金償還方法

金何圓ヲ何年何月償還

金何圓ヲ何年何月償還等

一利子及其納入方法

利率ハ壹箇年元金百分ノ五トシ借用ノ翌月ヨリ返納ノ月マテ日割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年六月十二月ノ二期ニ於テ當月分マテヲ納入スルモノトス但最後ニ元金償還ノ場合ハ之ト同時ニ利子ヲ納入スルモノトス

前書ノ目的ヲ以テ本縣教育資金ノ内ヨリ前書ノ金額ヲ借用候處確實也就テハ萬一其目的以外ニ之ヲ使用シ若クハ元金償還利子納入ノ方法ニ相違シ其他申請書記載ノ重要ナル事項ニ違背致候節ハ參箇月以上ノ期間日ヲ定メ元金及利子全部ノ納入ヲ命セラルモ差支無之候也

右教育資金借用證書差入候也

何年何月何日

知 事 宛

市參事會町村長職印

○小學校教育效績狀規定 (明治三十八年六月二十一日)

(文部省令第十一號)

小學校教育效績狀規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教育效績狀規程

第一條 小學校教員ニシテ其ノ効績顯著ナル者ハ文部大臣之ヲ選獎ス

市町村長、町村學校組合長其ノ他市町村若ハ之ニ準スヘキモノノ吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ



小學校令施行規則第七十五條ニ依リ郡長ニ於テ高等小學校ノ授業料ノ金額ヲ認可シタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第三條 小學校令施行規則第七十七條ニ依リ小學校補習科ノ授業料ヲ定メタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

○制限外授業料徴收ニ關スル件 (明治四十一年七月三日  
文部省普通學務局長通牒)

特別ノ事情アルカ爲メ市町村立小學校ニ於テ制限外授業料ヲ徴收セントスルニ當リ小學校令施行規則第七十六條後段ニ依リ申請セララル、場合ニ於テハ左記ノ事項ヲ具セシメ候様致度此段及通牒候也

- 一 特別ノ事情
- 二 期限但シ三ヶ年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 三 當該年度及其前年度ニ於ケル賦課率並其ノ收支豫算
- 四 授業料制限外徴收ニ關スル市町村又ハ町村學校組合會決議要領

○同上 (明治四十一年七月八日  
靜岡縣通牒中學第三五二四號)

右前文ノ移牒ニ付略ス

○市町村立小學校授業料戦地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ徴收セサルコトヲ得ル規定 (明治二十九年二月七日  
勅令 第五號)

朕市町村立小學校授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 戦地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ掲ケタル者ニ對シテハ市町村立小

學校ニ於テ授業料ヲ徴收セサルモノトス

- 一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
  - 二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
  - 三 明治二十七年勅令第六十四條第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
- 前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍内ニ在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス
- 第二條 戦地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條ニ該當スル者又ハ戦地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徴收セサルコトヲ得
- 第三條 本令ニ依リ減額シ又ハ徴收セサル授業料ニシテ已ニ納付済ノモノハ還付セサルモノトス但市町村會ニ於テ還付ノ決議ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

(参照)

軍人恩給法

- 第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス
  - 二 戦闘及戦時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
  - 三 戦地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戦時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 第九條 増加恩給ハ戦闘及戦時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

第五編 普通教育

(市町村立小學校授業料戦地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ徴收セサルコトヲ得ル規定)

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
  - 二 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
  - 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
  - 四 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
  - 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
  - 六 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲グル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサレ者ニ之ヲ給ス
- 一 戰闘ノ爲メ傷疾ヲ受ケ現役ヲ離レタルトキ(明治三十七年法律第十九號ヲ以テ改正)
  - 二 戰時平時公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ
  - 三 第二十七條 軍人左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受ケルノ權利アルモノトス
  - 四 第四條第二第三ニ當リ死受シタルトキ
  - 五 第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受ケル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ依リ死受シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限り恩給ヲ受ケルノ權利ナラス
- 明治二十七年勅令第六十四號
- 第一條 第一項

陸海軍職員、軍艦乘組備人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其ノ他陸海軍備人等ニシテ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ病疾ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死受シタルトキハ本令ニ依リ一時限リ手當金ヲ給ス

○小學校授業料不徴收ニ關スル某縣照會及

文部省回答

(明治三十九年五月十五日照會  
同年五月二十六日回答)

明治二十九年二月勅令第五號第一條ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徴收セサル者ノ中軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者ニハ明治三十五年四月軍人恩給法改正ノ結果流行病等ニ依リ死受シタルモノヲ包含セサルコトニ相成候ヘ共右ハ同勅令ノ主旨ニ副ハサル様被存候ニ就キ此處合ニ於テハ改

正以前ノ恩給法第二十七條第一ヲ適用致シ可然哉目下差掛リタル件相生シ候ニ付何分ノ御指示相成度此段及照會候也

回 答

本月十五日付學第四一四號ヲ以テ小學校授業料不徴收ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ流行病等ノ死受者ヲモ包含セルモノト御取扱相成可然ト存候此段及回答候也

第十二章 學務委員

○市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員

ニ關スル規定 (明治二十七年二月二日勅令第十一號)

朕市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之レヲ公布セシム

第一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ小學校教育事務ノ爲ニ小學校設置區域ニ學務委員ヲ置クコトヲ命スルコトヲ得

第二條 學務委員ニ關スル費用ハ關係區域ノ負擔トス

第三條 學務委員ノ組織任免及其ノ他必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

○市町村學校組合ノ區長及其ノ代理者並學務委員ニ關

スル規則 (明治三十四年一月二十九日勅令第六號)

第一條 市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受

第五編 普通教育 (市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル規定) (市町村學校組合ノ區長及其ノ代理者並學務委員ニ關スル規則)

ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ

第二條 學務委員就任シタルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ遲滯ナク其資格氏名ヲ監督官  
應ニ報告スヘシ

第三條 學務委員數名アルトキ各其ノ分擔ヲ定メ若クハ交互ニ事務ヲ執ル等ノコトアル場合ニハ豫メ  
其ノ手續ヲ定メ監督官應ニ届出ツヘシ

第四條 學務委員ノ事務ヲ扱フニハ市役所町村役場ニ於テスルヲ常例トシ事務ノ繁閑ニ依リ豫メ執務  
ノ日ヲ定メ置クヘシ

第五條 國ノ教育事務補助ニ關スル實費辨償額及報酬額ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

第六條 區長及其ノ代理者並學務委員ノ國ノ教育事務補助ニ關シ必要アルトキハ郡長又ハ市長ハ縣知  
事ノ認可ヲ受ケ細則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第七條 現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ資格氏名ハ明治三十四年二月二十八日限り監督官應ニ報告スヘ  
シ

第八條 明治二十五年<sup>三</sup>縣令第三十一號及同第三十二號ハ之ヲ廢止ス

### 第十三章 雜

○學校沿革誌編製項目及編製心得

(明治二十六年十月七日)

靜岡縣訓令第三十四號) 郡 役 所 市 役 所

町 村 役 場 市 町 村 立 小 學 校

學校沿革誌編製項目並ニ學校沿革誌編製心得左之通相定ム

學校沿革誌編製項目

#### 第一 制度

一 一般教育制度ノ概要

二 學校制定ノ諸規程

#### 第二 設備

一 學校設置區域

二 學校ノ設廢分合及位置

三 學校ノ名稱資格

四 校舍校地校具及教員住宅ノ概況

#### 第三 學校基本財産

一 學校基本財産ノ設廢並支消費却等ノ概況

二 學校基本財産ノ管理方法

#### 第四 校員

一 學校職員ノ任免

二 學校職員ノ資格及俸給

三 學校職員ノ賞罰

四 學級ニ對スル職員ノ配置

#### 第五 生徒



- 一 學齡兒童
- 二 就學不就學
- 三 入學及半途退學
- 四 卒業生徒
- 五 生徒成績ノ概要
- 六 生徒ノ賞罰
- 七 學級ノ編制
- 第六 經濟
  - 一 每年經費ノ豫算及決算摘要
  - 二 學校基本財産ヨリ生スル利子ノ員數
  - 三 寄附物件
  - 四 授業料
- 第七 學事關係ノ吏員
  - 一 管理者ノ異動
  - 二 學務委員ノ異動
- 第八 記事概要
  - 一 尊影及勅語謄本等拜受ニ關スル件
  - 二 當局官吏ノ視學ニ關スル件
  - 三 職員出張等ニ關スル件
  - 四 天災地變其他學校ニ影響ヲ及ホシタル事件

第九 其他重要ナル事件

- 附記
- 一 學校ノ爲メニ功勞アルモノ、事績
- 二 學校職員ノ履歷
- 三 學校ト家庭ト聯絡ノ情况
- 四 就學勸誘ニ關スル方法
- 五 學校沿革誌編製心得
  - 一 學校沿革誌ハ其學校創立以來ノ閱歴ヲ明瞭ニシ殊ニ學校ノ爲メ盡力セシ篤志者又ハ教育ノ爲メ勵精セシ教師ノ事績履歷ハ詳細ニ附記シ其功勞ノ煙滅ニ歸マルノ遺憾ナカラシムヘシ
  - 二 (明治四十一年九月二十五日訓令) 甲第三十八號ヲ以テ第二號削除
  - 三 學校沿革誌編製方ハ各項毎ニ多少餘紙ヲ存シ置キ每學年末ニ於テ學務日誌其他關係帳簿等ヨリ抄出シ或ハ管理者學務委員等ニ協議シ其學年間學事ニ係ル較著ノ事績ヲ登錄スヘシ
  - 四 學校沿革誌ハ明治二十七年一月三十一日迄ニ編製ヲ了シ其旨市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經町村立小學校ニ於テハ町村役場郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

○小學校ニ於テ備フヘキ表簿文書ノ整理保

存ニ關スル規程 (明治三十八年一月廿八日靜岡縣通課三第266號ノ一、同四十三年十一月同通課學第4225號一部改正)

小學校ニ於テ備フヘキ表簿文書ノ整理保存ニ關スル規程別記ノ通り定メラレ候ニ付可然御示シ相成度依命此段及通牒候也

第一 小學校ニ於テ備フヘキ表簿文書ノ保存年限ハ左表ニ依ル(明治四十三年十一月八日學部第四二二號ヲ以テ內務部長通牒ニヨリ改正)

永	久	保	存	六	ヶ	年	間	保	存	一	ヶ	年	間	保	存
學籍簿	職員出勤簿	兒童出席調查年表	同	教授細目	學校沿革誌	校務日誌	校具目錄	指令書並ニ例規トナルヘキ通牒類	以上ノ外重要ト認ムヘキ表簿及文書等	兒童出席調查日表	教授案	兒童成績考査簿	兒童出席簿	兒童出席督促簿	

第二

- (イ) 前表ニ掲ケサル表簿文書ハ學校長ニ於テ便宜保存年限ヲ定ムヘシ
- (ロ) 保存年限ハ其事件ノ完結シタル翌年度ノ始メヨリ起算ス
- (ハ) 學籍簿ハ左ノ通り整理スヘシ
- (ニ) 學籍簿ハ半截シタル用紙ニ依リ兒童一人ニ付一葉ヲ充ツヘシ
- (ホ) 男女ハ之ヲ區分シ各就學ノ始期ノ屬スル年度順ニ依リ編綴スヘシ
- (ヘ) 但男女別若クハ年度別ニ從ヒ便宜別冊トナシ又ハ小口別ケトナスコトヲ得
- (ニ) 死亡轉住等ニ依リ除籍スヘキ者ニツキテハ相當欄内ニ記入スルノ外尙氏名ノ上ニ縦ニ双朱線ヲ劃スヘシ
- (ニ) 在學中就學ヲ猶豫セラレ退學トナルヘキモノニ就キテハ相當欄内ニ記入ノ外尙籍係ト朱記セ

- (ホ) ル紙箋ヲ兒童氏名ノ上ニ貼付シ置クヘシ
- (ヘ) 卒業兒童ニ就キテハ相當欄内ニ記入スルノ外籍欄外上部ニ卒業ト朱記スヘシ
- (ハ) (ニ) 依リ取扱ヒタル分ハ其ノ年度經過後ニ於テ便宜別綴トナスコトヲ得此場合ニ於テハ其保存年限ハ一箇年トス
- (ト) (ホ) 依リ取扱ヒタル分ハ卒業ノ年度順ニ依リ別冊トナシ卒業生名簿ト見做スコトヲ得

○學事巡視簿ニ關スル件 (明治三十八年十月四日 靜岡縣通牒二第五二五號)

學事監督者學校巡視ノ際指示シタル事項ハ當事者ニ於テ往々其ノ實行ノ機ヲ失シ遂ニ忽緒ニ附シ去ルモノ有之哉ニ察セラレ事業進捗上甚タ遺憾ノ事ニ存候依リテ此際各小學校ヲシテ指示又ハ注意シタル事項ヲ記録スヘキ簿冊ヲ備付ケシメ指示又ハ注意ヲ受ケタル都度其ノ事項ヲ詳記シ將來之レヲシテ有効ナラシムル様致度候條右ニ關シ適當ノ方法ヲ設ケ其ノ實行ヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

○市町村立小學校生徒貯金旨意方法綱領 (明治二十六年七月十六日 靜岡縣訓令甲第二十四號)

小學生徒ニ勤儉貯蓄ノ良習慣ヲ養成セシムルタメ市町村立小學校生徒貯金旨意方法綱領左ノ通相定ム

市町村立小學校生徒貯金旨意方法綱領

- 第一 貯金ノ目的ハ小學校生徒ヲシテ勤儉ノ徳ヲ養ヒ貯蓄ノ良習慣ヲ成サシムルニ在リ
- 第二 前項ノ目的ニ依リ生徒ヲ誘導シテ貯金ヲ爲サシムルヲ要スト雖モ強テ之ヲ行ハシムヘカラス
- 第三 貯金預ケノ毎月ノ回數及毎回ノ金額ハ各學校ニ於テ適宜其制限ヲ定メ漫ニ貯金額ノ多キヲ競ヒ

父兄ヲ若シムルノ弊ヲ豫防スヘシ  
第四 貯金ハ成ルヘク左ノ種類ヨリ得タル金額ノ全部若クハ其一部ナルヲ要ス

一 自己ノ勤勉ニ依テ得タル金額  
一 父母親戚等ヨリ與ヘラレタル金額

第五 貯金ハ該校職員中ニ於テ主任者ヲ定メ確實ニ取扱フヘシ  
第六 生徒ノ貯金ハ郵便貯金又ハ貯金銀行預ケトスヘシ(明治三十一年甲第二十四號ヲ以テ改正)

第七 小學校ニ於テハ貯金臺帳及其他必要ナル書類ヲ備フヘシ  
生徒各自ノ貯金通帳ハ可成各生徒ニ渡シ置クヘシ但便宜各生徒ニ假通帳ヲ渡シ貯金通帳ヲ學校ニ保管スルコトヲ得

第八 (明治三十一年甲第二十四號ヲ以テ削除)  
第九 貯金ハ左ノ事故理由アルニアラサレハ下戻サ、ルモノトス

一 生徒卒業及退校轉校ノトキ  
一 疾病及死亡ノトキ

二 前款ノ外當該學校ニ於テ止ムヲ得サル事故事由アルモノト認ムルトキ  
第十 貯金取扱ニ關スル手續等ハ當該學校ニ於テ之ヲ規定シ市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經テ縣廳ニ町村立小學校ニ於テハ町村役場ヲ經テ郡長ニ届出ツヘシ(明治三十一年甲第二十四號ヲ以テ改正)

○小學校生徒樹栽ノ件 (明治二十八年七月十三日 靜岡縣訓令學第五一四號)

各郡市長  
小學校生徒ヲシテ學校構内若クハ近傍適宜ノ地ヲ撰ヒ或ハ町村有山林原野等適宜地區ヲ劃シ或ハ社寺

ノ境内若クハ道傍又ハ海岸等ニ就キ方法ヲ設ケ適當ノ樹木ヲ栽植シ之ヲ愛養保護セシメハ自然其實業ヲ重シスルノ思想ヲ起シ植樹ノ肝要ナルコトヲ知リ森林ヲ愛護スルノ心ヲ生シメ又公共心ヲ養ヒ經濟思想ヲ發達シ進テハ學校基本財産ヲ作ルノ一財源トナスコトヲ得ヘク而シテ終ニハ山林荒廢ノ弊ヲ救ヒ旱魃ノ害ヲ防クニ至ルヘシ就テハ右栽植ニ關スル方法即土地樹種ノ撰定、苗木仕立又ハ購入方、栽植ノ日時、栽植後ノ手入れ、保護方法等ニ就テハ別紙參考ノ上本業ニ熟練ナル實業家ノ意見等ヲ採リテ方案ヲ定メ其施行上ニ關スル方法ハ教育會等ニ於テ調査シ祝祭日等務メテ紀念トナルヘキ日ヲ撰ヒ栽植セシメ候様計畫シ毎年施行シタル實況ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ報告スヘシ

(參考書)

小學校生徒ヲシテ或ル紀念日ヲ樹栽日ト定メ樹木ヲ栽植セシムルニ當テハ先ツ其目的ニヨリテ之レカ方法等ヲ定メサルヘカラス即チ(甲)單ニ兒童ヲシテ實業的ノ思想ヲ養ハシメ以テ其浮薄ニ流ル、ヲ防キ專ラ著實ニ傾カシムルノ傍ラ植物學ノ妙味ヲ悟リ或ハ愛國愛郷ノ紀念トシ又ハ高尚優美ナル精神ノ快樂ヲ得セシムル等ニ止ムルト(乙)以上目的ノ外ニ學校經濟ノ趣味ヲ加フルノ二種ニ外ナラサルヘシ若シ此舉ニシテ盛ニ行ハル、ニ至レハ間接ニ國家ヲ益スルコト亦莫大ナラン即チ一般人民ニ愛林ノ志想ヲ興サシメ從テ森林ノ災害ヲ減シ反テ之レカ繁殖ヲ見ルニ至ルヘク之ニ因テ彼ノ土砂防止、防風、防砂、水源涵養等ニ對シ其効莫大ナルノミナラス或ハ風致ヲ添ヘ或ハ目標トナリ尙ホ他ニ用材燃料トシテ夥多ノ收額ヲ獲ル等國民利福ヲ増スコト決シテ少々ニアラサルヘシ  
今假リニ此甲乙二種ノ目的ヲ併セ達セントスルモノト假定セハ左ノ事項ニ注意スルヲ要スヘシ  
(一) 植樹資金 一定不動ニ費用ノ出途ヲ定ムルヲ要ス是レ説明スル迄モナシ費用ノ出途ナケレハ如何ナル美舉モ之ヲ施行スルコト能ハサルヘク又其出途不動ナラサレハ之ヲ永久不動ニ連續スルコト能ハサルヘシ而シテ林業經濟ノ最要旨ハ永久保續ニアルノミナラス此紀念日樹栽モ亦其學校ノ存

續スルノ間ハ永久保續セシムルノ必要アルハ勿論ナレハナリ

(二)土地ノ撰定 本件ハ費用ノ出途定マレハ第一着手ニ爲サ、ルヘカラス思フニ各地校舎ノ敷地ニサヘ差支ヘツツアル今日ナレハ之ヲ得ルコト尤モ困難ナラン其目的單ニ甲種ニ過キサレハ幾分力容易ナラン是レ學校構内、運動場、庭園、路傍等之ヲ撰フニ及ハサレハナリ若シ乙種ノ目的モ併セテ之ヲ得ントスレハ勢ヒ經濟的ニ利用シ得ヘキ土地ナラサルヘカラス之ヲ撰フニ付注意スヘキ要點ハ

イ 面積 ハ相當ノ廣ヲ要ス之レ其地域狹キトキハ直チニ植栽シ終リ永久保續ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス且ツ之ヲ經濟的ニ利用スルコト能ハサレハナリ

ロ 距離 ハ可成學校ニ近キヲ要ス是レ遠ケレハ兒童ヲシテ紀念日ニ赴キテ植栽シ終ルコト能ハサラシムルノミナラス愈遠ケレハ愈其費用ヲ増スハ當然ノ理ニシテ植栽後ハ日常兒童ヲシテ之ヲ巡視愛護セシメ其生長ノ狀況ヲ視テ一ハ學理研究ノ素ヲ爲サシメ一ハ之レカ爲メニ快樂ヲ得セシムル等ノ必要ニ對シテ亦頗ル困難ナレハナリ

ハ 地勢並地上ノ狀況 餘リ危險ナルカ荆棘雜草繁茂スルカ岩石ノ露出甚シキ所等ハ到底兒童ヲシテ執業セシムルコト能ハサルノミナラス又其身体ニ危險ヲ來スコトナキニアラサルヘシ故ニ可成平坦ナル土地ヲ要ス然レトモ平坦ノ地ハ開墾ニ適スルカ故ニ林地ニ使用スルハ不利ナリ(砂地、瘠地ノ如キ絶對的林地ハ其限ニアラス)須ラク充分ノ調査ヲナシ以テ適當ナル場所ヲ撰定スルヲ要ス

ニ 地質 樹木栽培ニハ岩石地ニアラサル以上其樹種ヲ撰メハ假令瘠地ト雖モ生育セサルニアラサルモ可成肥地ヲ可ナリトス是瘠地ハ生長遲緩ナルニ依リ兒童ヲシテ天然發育ノ愉快ヲ感セシムルコト少ナク從テ倦怠ノ念ヲ生セシメ易ク又其收利モ少ナケレハナリ

要スルニ兒童ヲシテ甚シキ困苦ヲ受ケス其業務ヲ以テ一ツノ快樂ト感セシメ且ツ最多利ニ其植栽ノ目的ヲ達セシムルヲ必要トス

(三)樹種ノ撰定 其撰擇ノ要點ハ其土地ニ最適ノモノニシテ尤モ利益アル樹木ナラサルヘカラス即チ

甲乙二種ノ目的ヲ併セテ達スルニハ美花、香氣強キ花又良菓ヲ着クル樹種、葉針多キ樹種、惡臭アル樹種ノ如キハ可成之ヲ避クルヲ要ス思フニ松、杉、檜、桐、櫻、樟等ノ内ニ於テ撰定スルハ大過ナカラシ若シ其撰定ニシテ誤ランカ其樹木ハ生長セサルノミナラス途ニ全ク枯死シ兒童ヲシテ失望落膽セシメ教師ヲシテ倦怠ノ念ヲ生セシメ徒ラニ勞費ヲ失フニ過キサルヘシ

(四)樹栽日即チ紀念日 可成著シキ特種ノ紀念トスヘキ日ヲ撰フヲ可ナリトスト雖モ之ヲ一定スルコトハ困難ナル場合アルヘシ何トナレハ樹木ヲ植栽スルニハ何レノ時季ニテモ可ナルモノニアラス若シ適當ノ時季ニ植栽セサレハ大概枯死スルヲ通常トスレハナリ故ニ各樹適當ノ時季ヲ其地方ニヨリテ定ムルヲ可ナリトス然レトモ先ツ概シテ春季ハ二月十一日紀元節四月三日神武天皇祭秋季ハ十一月三日天長節等可然乎可成春季ニ定ムルヲ得策トス是レ春季ハ秋季ヨリ概シテ植栽ニ適當ノ時季ナレハナリ

(五)苗樹ノ養成 樹種定マレハ之カ苗樹ヲ得ルノ途ヲ講セサルヘカラス可成ハ兒童ヲシテ播種ヲナサシメ其發生ノ上ハ苗木ノ床換、除草、施肥等ヨリ之カ山植ニ適スル迄培養ヲナサシムルコト尤モ必要ナラン此ノ如キ業務ヲ執ラシムルハ兒童ハ各種ノ種實及其發生ノ有様ヲ知リ一層愛護ノ念ヲ増シ且ツ土地狹小ニシテ充分植栽ヲナサシムル事能ハサル場合ニ於テモ亦適當ノ業務ヲ得加フルニ希望ノ苗樹ヲ希望ノ時ニ希望ノ所ニ得ルニ至ルヘク其他直接間接ニ前記甲種ノ目的ヲ達スル上ニ於テ莫大ノ利益ヲ見ルヘシ若シ止ムヲ得サル事情ノ爲メ兒童ヲシテ苗樹ヲ養成セシムルコト能ハサル時ハ確實ニシテ經歷アル苗木商ヨリ購入スルノ外ナカラシ